

第286図 水田跡・畦畔の実測図

畦畔の幅は約0.5~1.0mで、良好な部分では約0.25mの高さで遺存していた。2・5-OZ間の畦畔には、3m前後の間隔で自然石を埋置した区画の明示施設が併用されている(286図)。

水口は5・8-OZ間ならびに2・3-OZ間の二箇所で見出した。水口の幅は約0.4mで、5・8-OZ間の水口には二箇所の杭跡が認められる(286図)。

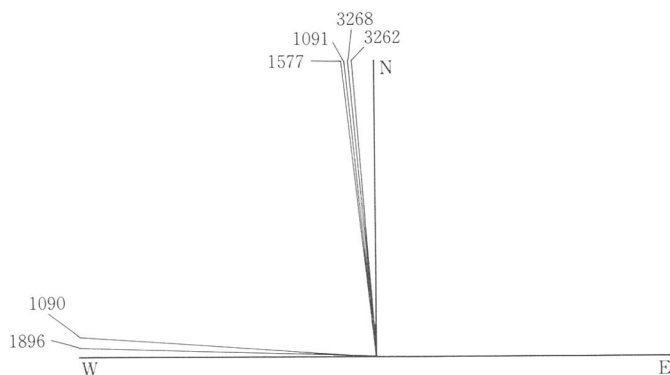
また、2・7-OZと3・1615-OZ間の畦畔の下層で、溝内に配置された石列を長さ約30mにわたり検出している(285図)。石列は10cm大の自然礫を並べたもので、文字瓦(201)はこの石列内から出土した。この石列は一時期古い水田の畦畔の基礎をなすものと考えられる。

これらの水田跡の区画方向は座標北から僅かに西に偏するもので、中世の掘立柱建物・溝の方向とほぼ一致し、2・7-OZと3・1615-OZ間の区画は先にみた中世の五条の溝と合致する。さらに、2・1615-OZの区画は現在の水田区画と凡そ2mの誤差内で一致している。

これらの水田跡は、第3層中の遺物で検討したように15世紀前半を上限とするものといえるが、石列から

なる下層畦畔の痕跡を考慮すると、凡そ12世紀以降現在に至るまで連綿と同一の地割りが継承されたものと理解できる。

この地割りの方向は、池田寺跡に現在も残る明王院の参道の方角と一致しているが、今回の発掘調査の限りでは、この地割り方向が古代まで遡ることは確認できなかった。



第287図 中世の掘立柱建物の棟方向

第6項 小結

以上、12世紀から15世紀にかけての遺構・遺物について、記述してきた。凡そ12世紀代に比定される掘立柱建物群・井戸・土塙群と15世紀前半の井戸、それに15世紀後半以降の水田跡である。前項までにこれらの遺構の相互の関係については、ある程度触れてきたので、ここでは掘立柱建物群について幾つかの検討を加えたい。

A. 集落の時期

合計六棟の掘立柱建物があるが、各建物の判明する上限年代はほぼ同じで、12世紀中頃から後半にかけてである。そして、建物群に後出すると考えられる五条の溝ならびに付近で出土した遺物に13世紀代に比定できるものが明瞭でないことから、これらの建物群は13世紀をあまり超えることなく廃絶されたものと考えられる。従って、出土遺物の上では、これらの上限年代の判明する建物と、漠然と12世紀代という年代が与えられている建物が同時並存していたことを排除する根拠はない。

次に建物の配置関係から同時並存の可能性をみてみる。第287図に示した極めて高い棟方向の斉一性がこれらの建物群の同時並存ないしは連続性を物語るが、1090—OBと1091—OBの間がやや近接しており、この二棟の間には時期差を考慮しても良いように思える。

そして、1896・1091・3262・1577-O Bの四棟は、各建物の東辺ないし南辺を揃えて「L」字状に配置されているのに対して、1090-O Bの東辺は少し東にずれている。

つまり、計画的配置があったという前提に立てば1090-O Bと1896・1091・3262・1577-O Bには時期差を認めても良いといえる。1090-O Bは漠然と12世紀代と考えられる建物に過ぎないが、土壌群との重複関係を考慮すると、他よりも先行する建物である可能性があろう。土壌群と重複関係がない大型の建物3268-O Bについても同様の可能性は残る。

従って、六棟の建物には最大で二時期を設定することが可能で、積極的にその立場に立脚すれば、3268・1090-O Bが先行する建物群とすることができる。そうだとすると、凡そ12世紀前半から12世紀末までの間に、土壌群と二時期の建物群に限られた範囲に営まれたことになるが、年代観・配置状況から見て土壌群が先行建物群に伴う公算が強い。そして、土壌群は集落の拡大、すなわち後出建物群の建築のために埋められたものと考えられる。

先行建物群の時期を明確にする直接資料には欠けるが、上述のように先行建物群・土壌群→後出建物群という集落の拡大順序が想定できるので、先行建物群の上限を12世紀前半代とすることができよう。しかし、何れにせよ出土遺物総体から見れば、六棟の建物群は極めて近接した期間に相継いで建築されたものと考えられ、建物群と同時期の遺物を出土する497-O Wは建物群に伴うものとする事ができる。

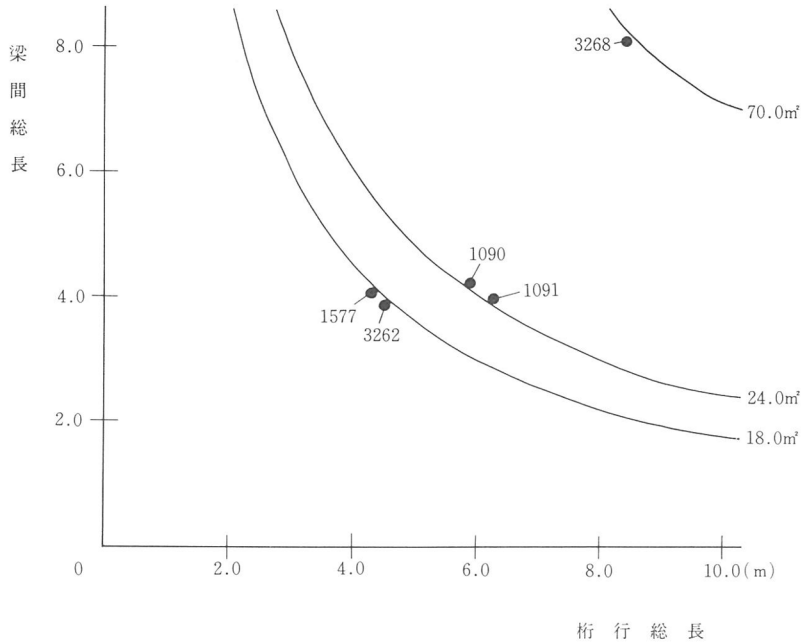
B. 集落の構造

調査地で検出された凡そ12世紀後半代の集落は、井戸一基と少なくとも五棟以上の建物群で構成されていたと見ることが出来る。検出された建物群は、二面に庇の付く大型の総柱構造の建物が一棟、下屋か土庇あるいは目隠し塀の付随する中型の総柱建物一棟、中型の側柱建物二棟、小型の総柱建物・側柱建物各一棟の計六棟で、中型の側柱建物一棟には庇もしくは目隠し塀が付いている。

以上のような各建物の平面形式からは、傑出した規模の3268-O Bが集落の主たる成員の屋と見れるし、小型の総柱建物3262-O Bと、それと同規模で同様の正方形プランを持つ1577-O Bは、東柱は検出されていないが両方とも倉庫建物と見ることが出来る。そして、これらの建物群の棟方向・配置は正方位を念頭に置いたもので、建築にあつたの強い計画性の存在を看取することができよう。

C. 規模の規格・計画性

次に建物の規模の規格性について見てみる。第288図に規模の判明する建物の床面積を



第288図 中世の掘立柱建物の規模

示したが、これには1091-O Bの下屋は考慮していない。第288図を見ると各建物は直角性を欠いた平面形をしているにも関わらず、建物の規模に規格性があることがわかる。

小型の建物は約18m²・中型の建物は約25m²・大型の建物は約69m²である。規模が明らかでない1896-O Bも2間×4間の建物である公算が強く、そうだとするとその床面積は約25m²ということになり、この集落の建物は全て大・中・小の三種の規模の建物で構成されていることになる。

ところで当該期の一尺は30.3cmであるが、今回検出した各建物の柱間寸法は156~230cmの間で、各建物内でもバラツキが大きく、誤差を考慮しても柱間寸法に基準長が採用されている可能性は少ない。梁間・桁行き総長に対して計算をおこなっても、やはり基準長の使用の可能性は少ないといえる。それでは、建物群に見られる規模の規格・計画性はどのようにして達成されたのであろうか。以下、その点を検討してみる。

D. 規格性の達成方法

先に見たように各建物の柱間寸法には相当のバラツキがあり、建物毎にも一定した柱間寸法は使用されていない。従って柱間寸法に法則性を認めることはできない。次に規模の類似した1091・1090-O Bの、桁行き総長・梁間総長についてみる。

1091-O Bの梁間総長は386・404cmで、桁行き総長は二辺とも634cmである。1090-O Bは梁間総長が412・422cmで、桁行き総長が580・595cmである。誤差をどの程度認めるかにもよるが、ここにも一定の基準長は認められそうにもない。ここで、注目したいのは両者の数値を比較すると、1091-O Bのほうが、梁間総長が短くて桁行き総長が長く、その結果、両者の面積がほぼ近似する関係になっていることである。つまり、両者は建物の四周の合計寸法がほぼ等しい関係になっているといえる。

両者の四周の合計寸法を見てみると、1091-O Bは2058cmで、1090-O Bは2009cmとなり、2.5%程度の誤差内にある近似値となる。同様のことは1577・3262-O Bについても認められ、四周合計寸法は夫々1695・1694cmである。さらに、建物の平面形に目を向けると、1091・1090-O Bの平面形の比率はほぼ4：6で、1577・3262-O Bのそれは1：1という共通点を見出すことができる。つまり、面積の同じ建物同士は平面形の比率がほぼ同じで、平面形の四周合計寸法が近似した数値を示すといえる。

以上のことを勘案すると、建物の建築に際しては、建物の四周の長さ、梁間と桁行きの比率が決定することにより、同規模の面積が獲得されたものと考えられる。

E. 規模の規格性と尺度

それでは次に長さの基準と面積について考えてみる。可能性としては尺度と無関係な一定の長さが採用されたことも考えられるが、ここでは尺度との関係を検討する。

当該期の柱間は7尺1間が多いとされているが、それは現存する寺社建築に限られた話で、民家の例となると殆ど判明していないのが現状といえる。発掘調査で検出される遺構が、尺度の研究にあまり寄与することがないのは、この建物と同様に、多くの場合は平面形に直角性を欠き、柱間が不揃いの状態だからである。和泉市和気遺跡の場合は6.3・6.6・6.9尺等の一定寸法の柱間が多用されているといわれるが、和気遺跡は大規模な建物群の周囲を堀で囲堯しており、土豪層の館と見るべき集落で、中世集落跡のなかではむしろ別格の存在と考えられよう。

民家の礎石建物の例では、13世紀まで遡りうる箱木千年家の当初主屋の柱間が、6.6～7.2尺と不揃いで、部屋の形に歪みがあることが報告されている。完数尺にならない柱間やその寸法の不揃いは、何も掘立柱建物に限ったものではなく、中世の民家建築にあっては一般的な姿であろう。

このように、中世の一般的建築の柱間は一見無秩序にみえる状態である。上記の少数の例からでも、1間が6.3～7.2尺までの数種類の長さの使用が認められる。建物の四周合計

寸法に注目したいことは先に触れたが、建築時や発掘調査における誤差を勘案して、これらの様々な数値を四周合計寸法に当てはめれば、殆どの場合にはどれかの近似値が得られることになり、無意味な作業となろう。従って、四周合計寸法だけでなく、建物の面積・建物の柱間数と基準長の関連を検討することにする。幾つかのデータに法則性と関連性が認められてこそ、誤差を誤差として認定できるであろう。

検討素材は当遺跡例だけでなく、同じ和泉地方の岸和田市山直中遺跡の建物群を取り上げる。もっと多くの検討素材を準備できないのは力量不足と言うに尽きる。

山直中遺跡では井戸を伴って三棟の建物が検出されており、規模から見ると大・中・小の三種の建物で構成されている。建物の平面形式は何れも総柱構造である。これらの建物が棟方向を揃えて整然と配置されており、小規模ながらシンプルな地方集落の姿を示している。建物群の時期は12世紀後半で、当集落と同時期である^{註18)}。

第6表に当遺跡・山直中遺跡で検出された建物の四周合計寸法・妻と桁行きの比率・柱間数・面積と、推定される基準長との関係を示した。計算結果は小数点以下第二位を四捨五入して、小数点以下第一位までを表示した。なお、山直中遺跡の44-O Bは報告書では庇の付いた3間×4間の建物と考えているが、ここでは4間×4間の建物と考える。

推定した基準長を一間とすれば、四周合計寸法 (cm) ÷ 基準長で得た数値は建物の周囲の総間数で、面積 ÷ 基準長²で得た数字は一基準長で囲まれた面積、すなわち坪数を表す。

第6表 池田寺・山直中遺跡掘立柱建物の柱間・坪数

	建物名	柱間数	妻・桁行き比率	四周合計寸法(cm)	面積(m ²)	四周合計寸法(cm) ÷ 基準長(cm)	面積(m ²) ÷ 基準長 ² (m ²)
池	3262	2 × 2	1 : 1	1694	17.9	1694 ÷ 7尺(212) = 7.9	17.9 ÷ 4.5 = 3.9
	1577	2 × 2	1 : 1	1695	18.0	1695 ÷ 7尺(212) = 7.9	18.0 ÷ 4.5 = 4.0
田	1090	2 × 3	2 : 3	2009	24.6	2009 ÷ 6.8尺(206) = 9.8	24.6 ÷ 4.3 = 5.7
	1091	2 × 3	2 : 3	2058	25.0	2058 ÷ 6.8尺(206) = 10.0	25.0 ÷ 4.3 = 5.8
寺	3268	4 × 4	1 : 1	3315	68.7	3315 ÷ 6.8尺(206) = 16.1	68.7 ÷ 4.3 = 16.0
山直	43	2 × 2	1 : 1	1578	15.6	1578 ÷ 6.5尺(197) = 8.0	15.6 ÷ 3.9 = 4.0
	53	2 × 3	2 : 3	2085	26.8	2085 ÷ 7尺(212) = 9.8	26.8 ÷ 4.5 = 6.0
中	44	4 × 4	4 : 5	3138	60.8	3138 ÷ 6.5尺(197) = 15.9	60.8 ÷ 3.9 = 15.6

両遺跡で夫々二種類、都合三種の尺・寸単位の基準長を推定したが、推定した夫々の基準長に従えば、池田寺遺跡の大・中・小の規模の建物は四周が約8間・10間・16間で、坪数が凡そ4・6・16となる。同様に山直中遺跡の大・中・小の建物は、四周が約8間・10間・16間で、坪数は凡そ4・6・16となる。計算上生じた誤差は、四周合計寸法については最大で2%程度で、坪数については最大で2.5%ある。

これらの建物が直角性を欠いた平面形で建築されていることを考慮すると、この程度の誤差はむしろ少ないと見るべきであろう。従って、両遺跡の建物は、推定した基準長を使用して一定の坪数を実現したものである可能性は高いといえる。

第6表には、この他に注目すべき点をまだ見ることができる。それはまず、各建物の坪数が、その建物の桁行きと梁間の柱間数を掛けた数と一致していることで、次には大・中・小の夫々の建物に見られる柱間数と坪数が、両遺跡で一致している事実である。

今までの検討結果から見ると、両遺跡の建物は、一定の基準長で建物の四周合計寸法と坪数を決定し、建物の凡その桁行き・梁間の比率を考慮して四周の縄張をおこなって建築したものと考えることができる。そして、各建物の柱間寸法が一定していないにも拘わらず、建物の坪数と桁行き・梁間の柱間数を掛けた数が一致するのは、このような建築方法が、一定の柱間寸法と坪数を持った正統な建築方法の変形に過ぎないことを示している。従って、検討した二つの集落が、当時の寺社や館などと別個の建築理念で建られたものと見ることはできないであろう。

採用した基準長の差こそあれ、検討した二つの集落を構成する大・中・小の建物の夫々の柱間数・坪数が一致することは、これが和泉地方の当時の集落の一類型を示している可能性があるといえる。もう少し検討数を増やさねばならないが、凡そ12世紀の和泉地方では、4・6・16坪の三種の規模の建物で構成された集落が、一つの仮設モデルとして想定できるかもしれないのである。

基準長が幾種類か準備されていることの確たる理由は判明しないが、同一平面形式の建物の規模の違いは、建物の機能・格式の違いを反映したものと考えることができる。従って、規模に一定の規格のある建物の組み合わせで集落が構成されているとすれば、規格の種類と組み合わせのバリエーション、及び規格外の存在を明らかにすることは、集落の分析にとって有力な手掛かりとなろう。

註)

1. 福田貝塚出土資料に類例がある。『山内 清男 考古資料2』奈良国立文化財研究所 1989
2. 『平城宮発掘調査報告書II』奈良国立文化財研究所 1962
3. 『岬町 遺跡発掘調査概要』岬町教育委員会 1978
4. 小笠原 好彦「近畿地方の7・8世紀の土師器とその流通」『考古学研究第27巻第2号』考古学研究会 1980
5. 尾上 実「南河内の瓦器碗」『藤沢 一夫先生 古稀記念文化論叢』藤沢 一夫先生 古稀記念文化論叢刊行委員会 1983
6. 『山直中遺跡発掘調査報告書』大阪府教育委員会・財)大阪府埋蔵文化財協会 1988
7. 横田 賢次郎・森田 勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器についてー形式分類と編年を中心としてー」『九州歴史資料館研究論集4』九州歴史資料館 1978
8. 註6)に同じ
9. 丹治 康明「東播磨における瓦生産ー神出・魚住窯を中心にー」『中近世土器の基礎研究III』中世土器研究会 1987
10. 吉村 正親「平安京域出土瓦とその生産ー特に院政期を中心にー」『中近世土器の基礎研究III』中世土器研究会 1987
11. ストーンサークル・関東地方の配石墓(神奈川県宮谷戸遺跡)などが明らかな例である。
12. 「縄文文化の研究2」雄山閣 1983
13. 泉 拓良「西日本縄文土器再考ー近畿地方縄文中期後半を中心にー」『考古学論考 小林行雄博士古稀記念論文集』小林 行雄博士古稀記念論文集刊行委員会・平凡社 1982
14. 註13)に同じ
15. 森田 稔「東播系中世須恵器の生産と流通」『中近世土器の基礎研究III』中世土器研究会 1987
16. 林野 全孝「付載 和気遺跡の中世住居跡」『和気II 和気遺跡発掘調査報告書II』和気遺跡調査会 1981
17. 『重要文化財 箱木家住宅(千年家)保存修理工事報告書』重要文化財箱木家住宅修理委員会 1979
18. 註6)に同じ

第Ⅳ章 検 討

第1節 土器の属性の相関関係

土器には様々な属性が存在する。胎土・焼成・及びそれらの結果である色調・制作手法・器形・大きさ・文様等の装飾など、土器の使用目的や当時の生活様式・技術に関わる諸属性がある。また、土器の使用法に関わる様々な使用痕や廃棄のされかた及び土器のセット関係等も広い意味では土器の持つ属性といえる。

そして、多くの場合はこれらの諸属性が相互に関連しあって土器に変化を与え、時間的な流れや文化的相違を考える手掛りをなしている。考古資料として土器をみる場合、無意識下ではあっても我々は常に諸属性の有機的関連と比較をおこなっており、意味のある属性の選択をしているのである。

ここでは、須恵器杯H及び縄文土器の持つ属性のうち、考古学的に有意のものとして予てより注目されている幾つかの属性を取り上げて、どれほど有意かどうか統計学的手法を援用して検証してみたい。主たる対象は今回の調査で出土した資料である。

第1項 縄文土器

今回の調査で出土した縄文土器は破片数の総計5213片を数えるが、その殆どは小破片で完形に近いものは少ない。つまり、出土した資料の殆どは、土器の器形・文様のモチーフの全体を知ることができないという条件下にあり、今回出土した縄文土器になんらかの分析を加えるとしても、対象となる属性の数はおのずと限られたものになる。すべての資料が備えている属性は胎土・焼成・色調の状況に過ぎず、施文原体の種類やその組み合わせかたによる文様の種類・モチーフ、口縁部の形態の相違などの様式の基調をなす重要度の高い諸属性を、多く備えれば備えるほどその資料数は逡減することになる。

ここでは、大きさの限られた断片資料が持つ少数の属性から、それらを様式的に把握・分類するには、如何なる点に注目するのがよいか検討したい。対象となるのは比較的数の多い、縄文と沈線文からなる文様を持つ資料で、客観的に数値として把握できる「縄文原体の太さ」と「沈線文の太さ」に着目して分析を進めたい。

それを基礎にして他の属性との相関関係の検証や、時期が違うと認定できる他の遺物の

属性との比較検討をおこなってゆく。示した資料数は個体数に近いものと考えて良い。

A. 縄文原体の太さ

縄文土器に転写されたの縄文原体の太さを把握するため、1 cmあたりの見掛けの条（以下、条とする。）と各条1 cmあたりの見掛けの節（以下、節とする。）の数を計測して第7表を作成した。なお、扱ったのは単節斜縄文に限られ、口唇部に異原体の縄文が施文されている資料については、口唇部の縄文は除外した。

第7表 縄文原体の太さと節

節 条	2	3	4	5	6	7	8
3	2	2	3	0	0	0	0
4	7	15	2	0	0	0	0
5	5	29	13	0	0	0	0
6	0	23	17	3	0	1	1
7	0	3	8	10	0	1	0
8	0	1	5	10	1	1	0
9	0	0	2	2	2	1	0
10	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	1	0	2

第7表に示した縄文原体の条と節の数の相関関係をピアソンの相関係数により検定した。この検定では、ある属性の変化が他の属性の変化と、どの程度の相関関係にあるのかが係数 r で示される。 r が絶対値1に近ければ近いほど相関関係が強く、絶対値0.2以下の場合には殆ど相関がないと評価される。計算はパソコンを使用し、ベーシックによるプログラムを作成しておこなった。

推定結果

データ数173、 $r = 0.238$ となるので、縄文原体の条と節は低い相関関係にあることがわかる。つまり、概ね、条が太いものは節の幅も太い関係にある。

そして、相互の関係をより具体的にみると、条の本数を基軸にして節の数を比較するより、その逆のほうが差異すなわち相関関係が明らかといえる。これは、施文時の縄文原体の回転を滑らせながらおこなったり、円弧を描くようにすると、必ずしも条の太さは一定しないことに起因するものと思われる。

一方、節についてはそれが単節縄文である以上、紐を縄にするため燃った回数は一定なので、太い原体であれば紐・節も当然太いものとなろう。つまり、縄文原体の太さは節の数に注目するのが有意であるといえる。以下、縄文原体の太さの基準として節の数をを用いる。

B. 沈線文の太さと縄文原体の太さ

同一個体内での沈線文の太さの誤差を知るため、対象資料中の完形に近い個体の沈線文の太さの最小値と最大値を計測したところ、その差は最大で1 mm程度あったので沈線文の太さは最大部を0.5 mm単位で切り上げて計測し、先の結果と合わせて第8表を作成した。

第8表に示した縄文原体の太さと沈線文の太さの相関関係をピアソンの相関係数により検討した。

第8表 沈線文の太さと節

節 \ 沈線文	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6	6.5	7	7.5	8	8.5
3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
4	0	1	1	2	4	2	1	1	3	0	0	0	0
5	0	5	2	8	3	4	0	2	0	1	1	0	0
6	1	2	4	15	0	6	2	3	0	1	0	0	1
7	0	1	1	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0
8	1	0	2	11	2	2	0	0	0	0	0	0	0
9	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第9表-1 I類の縄文原体・沈線文の太さ

節 \ 沈線文	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6	6.5	7	7.5	8	8.5	計
9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8	0	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	6
5	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	4
4	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	4
計	2	14	3	2	3	2	2	0	1	1	0	1	31

第9表-2 II類の縄文原体・沈線文の太さ

節 \ 沈線文	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6	6.5	計
11	0	1	0	0	0	0	0	0	1
10	0	0	1	0	0	0	0	0	1
9	1	0	1	0	0	0	0	0	2
8	2	4	3	1	1	0	0	0	11
7	1	0	7	0	2	0	0	0	10
6	0	4	4	0	2	0	1	0	11
5	1	0	4	1	0	0	0	0	6
4	0	0	0	0	1	0	0	1	2
計	5	9	20	2	6	0	1	1	44

推定結果

データ数112、 $r = -0.093$ となり、縄文原体の太さと沈線文の太さの相関関係は積極的には認め難しいことになった。

C. 文様と、縄文原体・沈線文の太さ

次に、沈線区画縄文帯の分類が明らかなものについてだけ同様の作業をおこなった。そのデータは第9表に示したとおりである。

検討結果

I類はデータ数31で $r = 0.234$ となり、縄文原体と沈線文の太さに低い正の相関関係があることになる。そして、II類はデータ数44で $r = 0.073$ となり、相関関係はほぼ存在しないという結果を得た。

II類にI類の如き相関関係が認められないのは、II類の半数近くの資料が、幅4mmの沈線文を持ちながら節の数が5~10個に分散して分布をしているが、I類の半数近くを占める幅3.5mmの沈線文を持つ資料の全てが8個の節を持つことにある。

では、I類・II類の土器の違いはこうした相関関係の有無以外、縄文原体・沈線文の太さにはどのような現われているのであろうか。

第1節 土器の属性の相関関係

I類の沈線文の太さの分布ピークは幅3.5mm、II類のそれは幅4.0mmである。節の分布のピークは、I類が8個、II類が6・8個にある。

両者の資料数は近似しており、分布傾向を直接比較することが可能なので、計測誤差を勘案すると、縄文原体・沈線文の太さの分布のピークについては、両者に際だった差はないといえる。しかしながら、両者の縄文原体・沈線文の太さの分布領域には、互いに他者がない領域が存在することは無視できない。それは、I類には幅7.0mmを超える沈線文があるがI類にはなく、節については10個を超えるものはII類にはあるがI類にはない点である。

つまり、I類にはII類より沈線文の太いものが存在し、II類にはI類より細かい縄文原体が存在するといえる。ただし、この差の領域にある資料は極めて少数で且つ相互の関連性はない。従って、縄文原体・沈線文の太さに現われたI・II類の土器の差は僅かなものと言わざるを得ない。II類の細かい縄文原体をもつ土器が搬入品だとすれば、なおさらそうであろう。

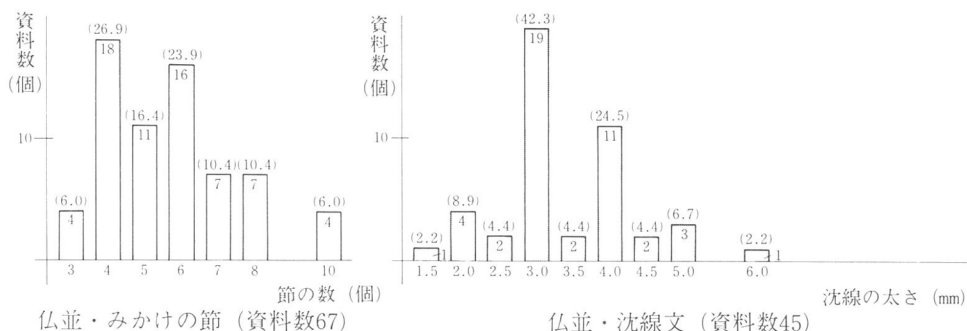
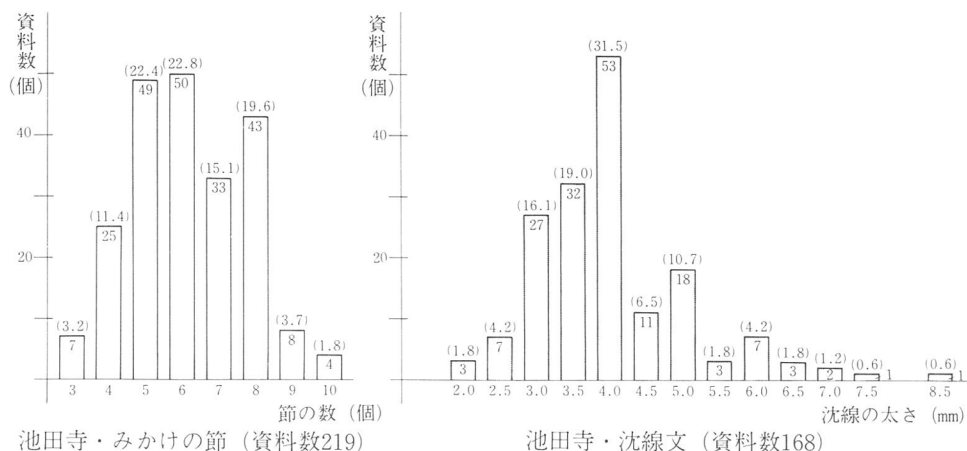
この結果は、土器の時期差や様式的な違いを判定する手掛かりとして、縄文原体や沈線文の太さの比較が無意味な作業か、I・II類の土器が同時期もしくは近接した時期のせいかの何れかであろう。第III章第3節での検討では後者の蓋然性が高いといえるが、時期の違った他の遺跡出土遺物との比較をおこない、以下その点を検討する。

D. 他の遺跡出土遺物との比較

比較検討の対象にするのは、和泉市仏並遺跡71-O D出土遺物である。仏並遺跡は当遺跡と同じ槇尾川水系にある遺跡で、当遺跡からの距離も直線で約6 kmと近い位置にある。

1985年の調査で竪穴住居4棟の他、多数の遺構と多量の遺物が検出された。71-O Dはその中でも多量の遺物を出土した竪穴住居で、出土遺物に一括性があることが証明されており、その出土遺物は縄文時代後期前半に比定されている^{註1)}。

仏並遺跡71-O D出土遺物のうち、沈線文と単節縄文で構成された文様を持つものについて、縄文原体・沈線文の太さを今までと同じ方法で計測した。得られた結果を当遺跡の計測結果と共に第289図に示した。第289図に示した節数と沈線文の太さの計測資料数が一致していないのは、夫々一方が計測不能の資料があるからである。なお、仏並遺跡71-O D出土資料のうち、単節縄文と沈線文の両方が計測可能な資料45について、沈線文の太さと見掛けの節数の相関関係をピアソンの相関係数で推定してみたが、相関関係は認められなかった。



第289図 池田寺・仏並遺跡の節と沈線文の太さ

第289図をみてみると、両遺跡の対象資料の二種類の計測値は、夫々ほぼ正規分布をなしており、且つ遺跡毎に夫々の分布のピークが異なっていることがわかる。池田寺遺跡出土資料の見掛けの節は、6個をピークに5～8個に80%近くが集中しており、仏並遺跡出土資料のそれは、4個をピークに4～6個に約70%が集中している。

沈線文の太さは、池田寺遺跡出土資料が4.0mmをピークにして30%以上がそこにあり、仏並遺跡出土資料は3.0mmをピークにして40%以上がそこにある。つまり、池田寺遺跡出土の縄文土器は仏並遺跡71-O D出土の縄文土器に対して、相対的に使用された縄文本体は細く、沈線文は太いということになる。

より統計学的にいえば、池田寺遺跡の沈線文の太さの平均は4.02mm、標準偏差は1.06で、節は平均が6.18個、標準偏差が1.58である。一方、仏並遺跡は沈線文の太さの平均が3.39mm・標準偏差が0.91で、節は平均が5.67個・標準偏差が1.77である。

第1節 土器の属性の相関関係

両者とも資料数が比較的多く、夫々の標準偏差が近似していることから、両者の平均値の相違は有意である公算が強いとみれるが、別の方法で差異が両者の時期の違い、すなわち縄文時代後期前葉と後期前半の土器を識別するのに有効かどうか検定してみる。

この場合、比較する一方の変数（属性）が池田寺遺跡・仏並遺跡という名義上のものなので、 $k \times 1$ 分割表（第10表）による χ^2 検定を採用する。検定に際しての危険率は5%で帰無仮説は「池田寺と仏並遺跡の資料は独立である」とする。各階級の期待値が5以上になるように階級値を統合し、その結果は第10表に太い線で示した。計算はパソコンを使用した。

第10表-1 沈線文の太さの分割表

遺跡名	階級値															計
	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	
池田寺	0	3	7	27	32	53	11	18	3	7	3	2	1	0	1	168
期待値	0.8	5.5	7.1	36.3	26.8	50.5	10.3	16.6	2.4	6.3	2.4	1.6	0.8	0	0.8	168.2
仏並	1	4	2	19	2	11	2	3	0	1	0	0	0	0	0	45
期待値	0.2	1.5	1.9	9.7	7.2	13.5	2.7	4.4	0.6	1.7	0.6	0.4	0.2	0	0.2	44.8
計	1	7	9	46	34	64	13	21	3	8	3	2	1	0	1	213
期待値計	1.0	7.0	9.0	46.0	34.0	64.0	13.0	20.8	3.0	8.0	3.0	2.0	1.0	0	1.0	213.0

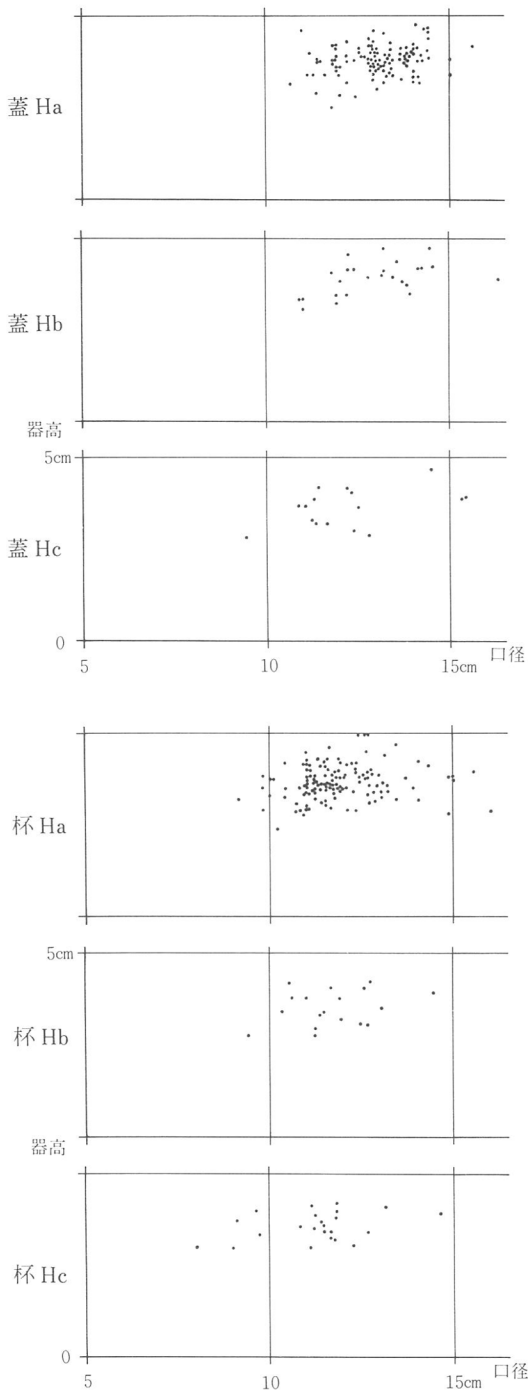
第10表-2 見掛けの節の分割表

遺跡名	階級値								計
	3	4	5	6	7	8	9	10	
池田寺	7	25	49	50	33	43	8	4	219
期待値	8.4	32.9	45.9	50.5	30.6	38.3	6.1	6.1	218.8
仏並	4	18	11	16	7	7	0	4	67
期待値	2.6	10.1	14.1	15.5	9.4	11.7	1.9	1.9	67.2
計	11	43	60	66	40	50	8	8	286
期待値計	11.0	43.0	60.0	66.0	40.0	50.0	8.0	8.0	286.0

検定結果と評価

分割表から得られた沈線文の太さの χ^2 の値は22.435、自由度3の棄却域は ≤ 7.813 で、節の数の χ^2 の値は12.381、自由度4の棄却域は ≤ 9.488 である。従って、沈線文の太さの分布及び節数の分布とも、池田寺遺跡と仏並遺跡の差は有意水準に達したものと見做すことができる。

つまり、両方の属性とも時期の違いを十分に反映したものと見えるが、実際の比較には



第290図 蓋杯Hの法量と天井部・底部の最終処理

標準偏差が小さく、且つ1計測単位あたりの差異の大きい沈線文の太さのほうが、節数よりも有利な属性とみることができる。さらに、両遺跡の資料の分布域が、節数は同じ範囲であるのに対し、沈線文の太さの分布域は異なることが比較に有利な点と考えられる。

このように、扱った資料に限れば、沈線文の幅が1.5mm以下のものは確実に後期前半のものと見做すことができるし、幅6.5mm以上の沈線文は中期末から後期前葉のものと見做すことができるのである。

以上の様に、池田寺遺跡と仏並遺跡71-O D出土の、沈線文・単節縄文で加飾された縄文土器の、沈線文の太さ・縄文原体の太さの比較検討をおこなってきた。

結論としては、中期末から後期前葉の土器の方が、相対的には沈線文が太く、縄文原体は細かいことが確認できた。この結論から、池田寺遺跡のI・II類の土器の、沈線文・縄文原体の太さには明瞭な差が存在しないのは、I・II類の土器が同時期もしくは近接した時期の故であるという推定も可能となった。

今のところ、一つの属性の比較だけで、時期を確実に判定できる確率は、かなり低いと言わざるをえないが、客

観的に把握可能な二種類の属性について有意性が確認できたことの意義は少なくはないであろう。今後、他の客観的に把握できる属性の認識が可能になれば、それと含めてより高度な分析が可能になるからである。

第2項 須恵器蓋杯Hの、天井部・底部の最終処理と法量

第290図に今回出土した須恵器蓋杯Hの天井部・底部の最終処理法と法量の関係を示した。土器編年ではTK-10からTK-207に比定できる杯Hである。対象とした資料は口径が1/4以上遺存しており器高の明らかなもので、且つ底部の最終処理の判別可能な個体である。作業の目的は蓋・杯の天井部・底部の最終処理の簡略化と法量の縮小化傾向が、どの程度の相関関係があるか検証することにある。

第290図をみると、これらには一定の相関関係が認められそうに思えるが、天井部・底部の最終処理別の資料数が不均等なため、これだけでは相関関係を認定することはできない。そこで、統計学的手法を援用し、これらの相関関係を検証することにする。

検証したい相関関係の一方の属性変化が、天井部・底部の最終処理法という名義上のものなので $k \times 1$ 分割表による χ^2 検定を採用する。また、法量では器高より口径の方が変化が顕著なので、口径をもって法量の変化を代表させることにする。

第11表-1に蓋・杯Hの天井部・底部の最終処理別資料数を、口径5mmごとの階級に分けて示した。第11表-1をもとに、a・b・c、aとb、aとc、bとcの各組み合わせと口径の関係について危険率5%で検定する。検定する仮説は「a・b・c、aとb、aとc、bとcの夫々は独立である」とする。各組み合わせについて、各階級の期待値が5以上になるように階級値を統合した結果は、第11表-2に示した。

検定結果

検定結果は以下の一覧の如くであるが、蓋b・cと杯a・bおよび杯b・cについてはイエットの修正をおこなっている。

蓋	自由度	危険率5%の χ^2 値	資料から得られた χ^2 値	有意性
a・b・c	4	9.488	10.716	有
a・b	2	5.991	0.328	無
a・c	2	5.991	10.074	有
b・c	1	3.841	2.448	無

杯	自由度	危険率5%の χ^2 値	資料から得られた χ^2 値	有意性
a・b・c	2	5.991	1.806	無
a・b	1	3.841	1.029	無
a・c	2	5.991	4.937	無
b・c	1	3.841	0.350	無

第11表-1 蓋杯Hの天井部・底部の最終処理と口径
蓋

タイプ \ 口径	9.5	10	10.5	11	11.5	12	12.5	13	13.5	14	14.5	15	15.5	16	16.5	計
a	0	0	0	2	7	14	8	22	19	20	11	2	0	1	0	106
b	0	0	0	3	0	4	4	3	4	4	3	0	0	0	1	26
c	1	0	0	2	4	2	3	2	0	0	1	0	3	0	0	18
計	1	0	0	7	11	20	15	27	23	24	15	2	3	1	1	150

杯

タイプ \ 口径	8	8.5	9	9.5	10	10.5	11	11.5	12	12.5	13	13.5	14	14.5	15	15.5	16	計
a	0	0	0	1	5	4	23	21	25	12	19	5	4	1	4	1	1	126
b	0	0	0	1	0	2	3	4	3	1	3	0	0	1	0	0	0	18
c	1	0	1	1	2	0	1	7	7	1	1	1	0	0	1	0	0	27
計	1	0	1	3	7	6	27	32	35	14	23	6	4	2	5	1	1	168

第11表-2 階級値の統合結果
蓋 a・b・c

タイプ \ 口径	9.5~12.5	13~13.5	14~16.5	計
a	31	41	34	106
期待値	38.2	35.3	32.5	106.0
b	11	7	8	26
期待値	9.4	8.7	8.0	26.1
c	12	2	4	18
期待値	6.5	6.0	5.5	18.0
計	54	50	46	150
期待値計	54.1	50.0	46.0	150.1

杯 a・b・c

タイプ \ 口径	8~11.5	12~16	計
a	54	72	126
期待値	57.8	68.3	126.1
b	10	8	18
期待値	8.3	9.8	18.1
c	13	11	24
期待値	11.0	13.0	24.0
計	77	91	168
期待値計	77.1	91.1	168.2

蓋 a・b

タイプ \ 口径	9.5~12	12.5~13.0	13.5~16.5	計
a	23	30	53	106
期待値	24.1	29.7	52.2	106.0
b	7	7	12	26
期待値	5.9	7.3	12.8	26.0
計	30	37	65	132
期待値計	30.0	37.0	65.0	132.0

杯 a・b

タイプ \ 口径	9.5~11.5	12~16	計
a	54	72	126
期待値	56.0	70.0	126.0
b	10	8	18
期待値	8.0	10.0	18.0
計	64	80	144
期待値計	64.0	80.0	144.0

蓋 a・c

タイプ \ 口径	9.5~12.5	13~13.5	14~16.5	計
a	31	41	34	106
期待値	36.8	36.8	32.5	106.1
c	12	2	4	18
期待値	6.2	6.2	5.5	17.9
計	43	43	38	124
期待値計	43.0	43.0	38.0	124.0

杯 a・c

タイプ \ 口径	8~11	11.5~12	12.5~16	計
a	33	46	47	126
期待値	32.8	50.4	42.8	126.0
c	6	14	4	24
期待値	6.2	9.6	8.2	24.0
計	39	60	51	150
期待値計	39.0	60.0	51.0	150.0

蓋 b・c

タイプ \ 口径	9.5~12	12.5~16.5	計
b	7	19	26
期待値	9.5	16.5	26.0
c	9	9	18
期待値	6.5	11.5	18.0
計	16	28	44
期待値計	16.0	28.0	44.0

杯 b・c

タイプ \ 口径	8~11	11.5~16	計
b	6	12	18
期待値	5.1	12.9	18.0
c	6	18	24
期待値	6.9	17.1	24.0
計	12	30	42
期待値計	12.0	30.0	42.0

以上、蓋杯Hについての χ^2 検定の結果を得た。危険率を5%の設定では、蓋aとcについては、天井部の最終処理と口径の分布には有意の差が認められるが、杯の各タイプには有意の差は認められないことになる。このことから推定されるのは、セットをなす蓋と杯の、天井部・底部の最終処理が必ずしも一致しないことであるが、この点については個別のセット関係が明らかな資料の集成をおこなうしかなく、結論は先になろう。

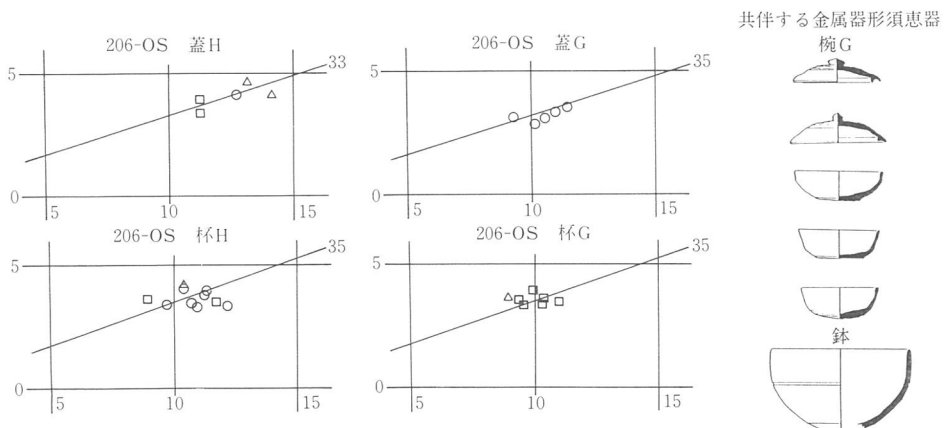
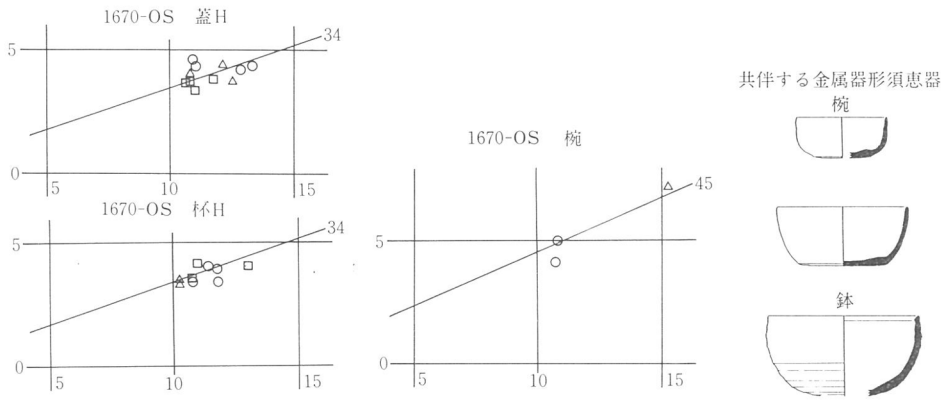
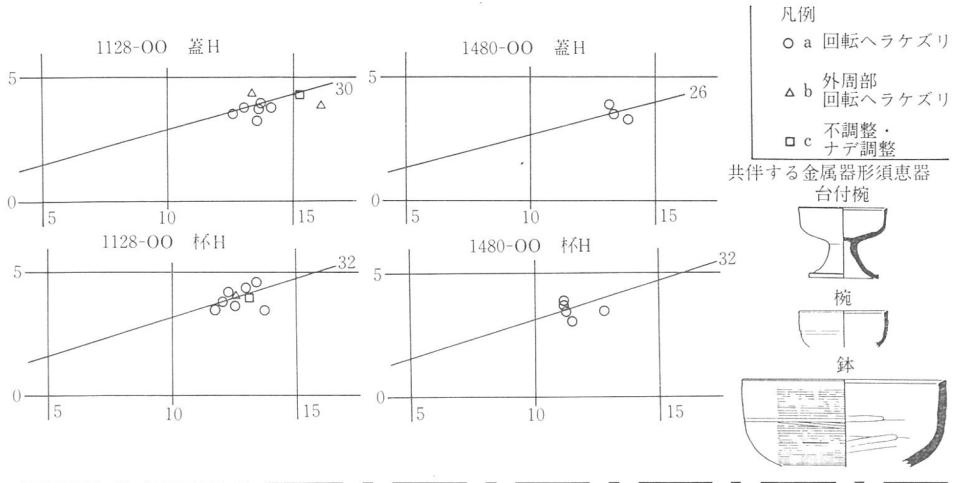
このように、従来から論じられているような、蓋杯Hの天井部・底部の最終処理の省略化と口径の縮小化の相関関係は、蓋については統計学的に証明されたことになる。一方、杯に関しては危険率5%では有意の結果を得ることはなかったが、危険率10%にすると杯aとcには有意の差があることになった。このことから判断すると、蓋・杯ともcはaに対する差異がbよりもかなり大きいと見ることができ、bはa・cの中間的存在である公算があるといえる。

第2節 飛鳥時代の須恵器

飛鳥時代の須恵器の編年案については、既に幾つかの研究成果が発表されている。大雑把に言えば和泉陶邑古窯跡群出土土器を対象にした^{註2)}^{註3)}田辺や中村の須恵器の型式編年研究と、大消費地たる飛鳥・藤原京地域出土土器を対象にした西の土師器・須恵器の様式論的研究^{註4)}があり、これらの編年案に対する絶対年代の考察も西や白石など多くなされている。^{註5)}^{註6)}

今回の調査では、古墳時代以来の伝統的器種である蓋杯H類と新来の金属器形の器種が共伴し、西の編年観に従えば凡そ飛鳥I・IIの時期のものと考えられる資料が多数出土した。ここでは、先に報告した当該期の資料を幾つか選び、比較検討することにより和泉地方の当該期の土器の様相を明らかにしたい。ただし、素材とする資料の殆どを須恵器が占め、土師器は少ないという状況下にある。従って、この検討もいきおい須恵器を専らの対象とせざるを得ない。

対象となるのは1128・1480-00と1970・206-0S出土須恵器である。これらの遺構には直接の前後関係はなく、1970-0Sでは土器が短期間に一括投棄された様相を示して出土しているが、他の遺構については遺物の出土状況から資料の一括性を直接証明することはできない。しかしながら、何れの出土遺物にも存在する蓋杯H類と金属器形の器種に注目し、各遺構毎にその器種構成・形態・手法・法量を比較すると明瞭な差異が認められる。そこで、これらの点を明らかにすると共に、その差異が相互に関連しあった土器編年



第291図 蓋杯H・Gの法量と金属器形の須恵器

上有意のものかどうかを検討することにする。

第291図にこれらの遺構から出土した蓋杯H類・碗・蓋杯Gの法量・底部ならび天井部の最終処理法と金属器形の器種を示した。法量の計測に使用した資料は、底部の最終処理が確認でき、口径の1/4以上が遺存している個体である。従って、示した資料数は直接に個体数を示すものではないが、同一条件下で抽出されたサンプル数と見做すことができるので相互の比較・対象に使用することは可能である。なお、遺物一覧表に示した法量には遺存率が1/4以下のものも含まれているので承知おかれたい。以下、第291図をもとに記述を進める。

第1項 蓋杯H類の法量と底部ならびに天井部の最終処理（口径の範囲は口径R、器高の範囲は器高Rと略する。）

対象資料の蓋杯Hは、蓋の口縁部と天井部の境目の凹線・口縁端部の内傾する面を欠いており、扁平度や杯の立ち上がりの状況から型式的にはTK-43~209型式に対応する。

1128-〇〇出土の蓋は口径R $12.7 \leq 16.2$ cm・器高R $3.3 \leq 4.4$ cmにあるが、口径が15cmを超えるのは9例中2例に過ぎず少数である。天井部の最終処理は9例中、aが6、bが2、cが1で、aが圧倒的である。杯は口径R $11.8 \leq 13.8$ cm・器高R $3.5 \leq 4.6$ cmで、底部の最終処理は9例中aが7、bが1、cが1で、やはりaが圧倒的である。

1480-〇〇出土の蓋は口径R $13.2 \leq 14.0$ cm・器高R $3.4 \leq 4.0$ cmで、杯は口径R $11.2 \leq 12.9$ cm・器高R $3.0 \leq 4.0$ cmである。天井部・底部の最終処理はaだけである。

1670-〇S出土の蓋は口径R $10.6 \leq 13.5$ cm・器高R $3.4 \leq 4.7$ cmである。天井部の最終処理は11例中で、aが4、bが4、cが3である。杯は口径R $10.3 \leq 13.2$ cm・器高R $3.3 \leq 4.2$ cmであるが、口径13cmを超えるのは9例中1例に過ぎず少数である。底部の最終処理は9例中で、aが4、bが3、cが2である。杯・蓋ともb・cの回転ヘラケズリの省略手法が多数を占める。

206-〇S出土の蓋は口径R $11.2 \leq 14.3$ cm・器高R $3.4 \leq 4.6$ cmで、天井部の最終処理は5例中で、aが1、bならびにcが各2である。杯は口径R $9.0 \leq 12.2$ cm・器高R $3.3 \leq 4.3$ cmで、10例中、aが7、bが2、cが1である。

以上が蓋杯Hの法量と天井部・底部の最終処理法についての対象資料の概略である。蓋杯Hの法量については1128-〇〇と1480-〇〇出土資料はあまり変わらないが、この二つの資料から、1670-〇Sそして206-〇S出土資料へと法量の縮小化の傾向が認められ、

それは特に口径に顕著に現れている。1128・1480-〇〇には口径が11cm以下のものはないが、1670-〇Sでは口径が10～11cmのものが出現し、206-〇Sでは口径がさらに小さい10cm以下のものが出現している。

これらの対象資料が相対的に古いものを混在させたものと見れば、各出土遺物のなかで極めて少数の存在である1128-〇〇出土の口径15cm以上の蓋や1670-〇S出土の口径13cmを超える杯は、混在した相対的に古い時期の遺物である可能性が強いといえよう。

天井部・底部の最終処理法は、1128・1480-〇〇出土資料は回転ヘラケズリの省略が少数例であるのに対し、1670・206-〇S出土資料には回転ヘラケズリを省略化したのが多数となる。つまり、口径の縮小化と共に天井部・底部の回転ヘラケズリの省略化が進行していると見られるようである。

少なくとも蓋については、この二つの属性の変化が相関関係を持つことは既に前節で証明されているが、特定の遺構出土資料についても同様の相関関係が認められる可能性がでてきた。その可能性の検討は、言葉を換えれば、その遺構出土資料が編年の意味を持った一括資料と見做せるかどうかということであろう。

そこで、この点を統計学的に検証してみる。第12表に各遺構出土の蓋杯Hの口径の分布と、天井部・底部の最終処理別の度数分布を示した。この場合、資料の絶対数が少なく、期待値が5以上になるように階級を統合すると階級そのものが消滅するため、口径の分布についてはt分布を利用した検定をおこなう。また、天井部・底部の最終処理の違いについては、資料が解析にたえる十分な数に達していないためデータの提示に留め、全ての検討結果とあわせ総合的な判断材料に供することにする。

検定のデータから仮説が棄却される確率は5%とし、計算はパソコンを使用した。t検定の結果は以下の一覧の如くであるが、1480・1670と1480・206の蓋・杯についてはウェルチの検定をおこなっている。

遺構名	蓋				杯			
	自由度	t分布上側2.5%値	資料のt値	有意性	自由度	t分布上側2.5%値	資料のt値	有意性
1128・1480	10	2.228	0.763	無	12	2.179	3.235	有
1128・1670	18	2.101	5.410	有	16	2.120	4.128	有
1128・206	12	2.179	2.396	有	17	2.110	5.342	有
1480・1670	12	2.179	1.472	無	10	2.228	1.483	無
1480・206	5.19	2.543	1.577	無	5.15	2.549	0.628	無
1670・206	14	2.145	1.513	無	17	2.110	0.839	無

第12表 各遺構出土の蓋杯Hの属性

杯Hの口径

遺構名\口径 (cm)	9.0	9.5	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	計
1128	0	0	0	0	0	1	2	2	3	1	9
1480	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	5
1670	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0	8
206	1	1	0	3	3	1	1	0	0	0	10

蓋Hの口径

遺構名\口径 (cm)	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0	15.5	16.0	計
1128	0	0	0	0	1	1	4	1	0	1	0	1	9
1480	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
1670	3	3	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	11
206	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	5

蓋Hの天井部の最終処理

	a	b	c	計
1128	6	2	1	9
1480	3	0	0	3
1670	4	4	3	11
206	1	2	2	5
計	14	8	6	28

杯Hの底部の最終処理

	a	b	c	計
1128	7	1	1	9
1480	5	0	0	5
1670	4	3	2	9
206	7	2	1	10
計	23	6	4	33

t 検定の結果から、1128と1670および1128と206の出土資料は、蓋、杯とも口径の分布が異なった母集団からの無作為標本と見故することができる。1128と1480については杯だけに有意の差が認められたが、本来は口径の大きさがセット関係にあるべき蓋杯であるから、この検定結果は灰色と見ておくべきであろう。

次に天井部・底部の最終処理の違いについてであるが前項でおこなった検定結果、すなわち、蓋の口径の縮小と天井部の回転ヘラケズリの省略化は相関関係があるという点からみれば1128や1480に対する1670や206出土資料のcタイプの比率の差は無視すべきではないであろう。

以上、各遺構出土資料の蓋杯Hの口径の分布および天井部・底部の最終処理という二種

類の属性について、有意差があるかどうか検討してきた。土器の持つ複数の属性の変化が相互に関係したもので、その変化が複数以上の土器群に確認できるとすれば、その属性変化は編年上有意のもので、その変化が顕著な遺物群は編年上の標識資料と見故することができる。

従って、蓋杯Hに関する統計学的な側面の検証だけでも、対象資料を1. 1128-00、2. 206-0Sと二つの時期に区分することが可能となった。そして、他の要素から1670-0Sと206-0S出土遺物が分離できるとすれば、解析に裏打ちされた都合三時期の標識遺構の設定が可能となろう。次にこれらの蓋杯H類と共伴出土した金属器形の須恵器を素材にして、1128-00と206-0Sの区分の有意性と、1670-0Sと206-0S出土遺物が分離できないかどうかを、さらに検討してみる。

第2項 金属器形須恵器の変化と時期区分

金属器形の須恵器とは、仏教文化と共にもたらされた佐波理の食器類を模倣した須恵器で、器種としては碗・鉢類がある。これらの新来の器種が、飛鳥時代以降の須恵器・土師器の食器類の祖形となったことは西の説くとおりである。^{註7)}

1128・1480-00から出土した金属器形の須恵器には、台付碗・碗・鉢がある。台付碗にはないが、碗・鉢の口縁部には凹線が巡り、何れの口縁端部も内傾した面を持つ。碗と鉢は類似した器形で、鉢は碗をスケールアップしたものといえる。口縁端部の特徴や口縁部の凹線に、その祖形となった金属器の模倣の忠実さが窺える。第291図に示した以外に1480-00には金属器形の可能性のある鉢(674)が1点あるが、1128・1480-00には金属器形の須恵器は少なく、食器類としては蓋杯H類が圧倒的存在である。

1670-0Sから出土した金属器形の須恵器には碗・鉢がある。碗・鉢は口縁部の凹線を欠いているが、鉢の口縁端部は内傾する面をなす。鉢は1480-00出土の鉢に対して、径高指数が高く底部が丸い。碗の口縁部の立ち上がり方や底部の形態は様々で、中には杯Gに類似した器形のものもあるが、杯Gとセットをなすべき蓋は一切出土していないので碗とみるべきであろう。図中、碗の底部がcと表示されているのは、切り離し後にナデ調整を加えたものである。1670-0Sでは、碗は1128・1480-00よりは増加する傾向にある。

206-0Sから出土した金属器形の須恵器には、蓋杯G・鉢がある。杯Gは宝珠摘みの付く蓋とセットをなす器種として成立している。蓋の摘みの形態・かえりの突出程度や杯の器形には多様なものがあるが、法量が一定しており、1670-0S出土の碗に対して径高

指数は低い。図中、杯Gの底部がcタイプと表現されているのは、切り離しの後にナデ調整を加えた例である。従って、杯Gは回転ヘラケズリの省略化傾向にあるが、基本的には不調整のものはない。鉢は口縁部に凹線を巡らせるが、口縁端部は丸く、底部は尖り気味である。蓋杯Gの数は多く、蓋杯Hとの比率は相半ばするようになる。

以上が対象資料中の金属器形須恵器の概略である。1128と1480-OO出土資料の間には差異は認められないが、これらと1670-O、1670-OSと206-OS出土資料の間には差異が認められる。

杯Hの法量と底部・天井部の最終処理を素材に設定した区分に従ってこれらをもてみると、1128-OO出土資料から206-OS出土資料の間には、祖形となる金属器の忠実な模倣からの形態変化と、量的な拡大傾向が看取できることになる。つまり、金属器形の須恵器の変化もまた、蓋杯H類の属性変化と関連したものといえる。金属器形の須恵器の質的・量的な変化は、1128・1480-OO出土遺物と206-OS出土遺物に間に極めて顕著で、1670-OS出土遺物はその中間的存在とみることができよう。

従って、金属器形の須恵器の変化を蓋杯H類の属性変化と同レベルのものとするれば、1128と1480-OO出土遺物は同一資料と見做せるし、1670-OS出土遺物と206-OS出土遺物は分離することが可能となる。つまり対象資料は1. 1128・1480-O、2. 1670-OS、3. 206-OSの都合三時期に区分される。そして、これらの変化及びそれを基礎にした遺物群の時期区分は土器編年上有意のもので、対象とした遺構は、順次時期の下降する標識遺構と見做すことができよう。そうだとすれば、統計学的には然程の意味をもたなかったが、206-OSにしか出土していない口径10cm以下の杯Hの存在も、時期区分の有力な手掛かりとして考慮されるようになる。

なぜなら、統計学的に有意な差を生じない原因として、各遺構出土遺物には常に相対的に古い時期の遺物が含まれていることが考えられるからである。そしてまた、逆にそうした出土状況下にある資料に、統計学的に有意な差が認められることの意義は大きいとみななければならないのであろう。

第3項 時期の比定とその指標

以上のように、1128・1480-OO、1670-OS、206-OSの標識遺構としての地位と序列が確認できた。これらの遺構は同一遺跡で連続的に営まれたもので、編年的資料としての価値は高いといえる。

次にこれらの出土遺物と西の示した編年観との対応関係をみることにする。西は飛鳥Ⅰを三小期に区分している。西の設定した三小期をここでは便宜的に a～c と称することにする。西の編年観の基礎をなすのは土師器杯C・蓋杯H・蓋杯Gの法量の変化や組成の変化であるが、本項の対象資料では西の編年の基礎をなす土師器杯Cの資料を欠いている。従って、対応関係は専ら須恵器を通して見ることになる。

1128・1480-〇〇出土遺物は少数の忠実な金属器形須恵器を含み、最古の段階に位置づけられ、蓋杯Hの口径からいえば、西編年の飛鳥Ⅰ a～bに対応する。1670-〇S出土遺物には杯Gは存在していないが、その祖形というべき椀形の器形が存在しており、蓋杯Hの法量からいえば飛鳥Ⅰ b～cに対応する。206-〇S出土遺物は蓋杯HとGの構成比が相半ばする段階で、杯H・杯Gの口径からみると、飛鳥Ⅰ c～飛鳥Ⅱに対応する資料といえる。

以上が対象資料と西の編年観の対応関係である。本項での資料分析も西と同様の視点に立脚したもので、結果もまた、概ねは西の成果を追認するものといえるが、そのまま対応するわけではない。その差は大きなものではないが、対象資料は何れも西編年の二小期を含んだ形で現れている。二小期を含む原因は、主として西編年の蓋杯H・Gの法量の基準が1cm単位という細かいものであることによっている。

当該期の蓋杯Hの口径縮小化の傾向は、田辺の研究で古くから明らかにされており、概ね首肯できるものであるが、^{註8)} 窯跡の調査で西の設定する小期単位で1cm単位の法量規格が存在したことが確認できる例はない。

飛鳥地域の出土事例でそのような厳密な法量規格が存在するとすれば、それは飛鳥地域の特殊性に基づいたものである可能性が考慮されよう。後にこの地域で、法量の違いによる同一器形の器種分化が生まれたことを勘案すると、その可能性は少なくない。

蓋杯Gの出現時期についても、飛鳥地域を始めとする宮都と、他の地域の差を考慮しなければならぬであろう。なぜなら、仮に飛鳥域での小期区分が和泉地域にも貫徹するのなら、蓋杯Hの法量からみれば飛鳥Ⅰ b～cに対応する1670-〇S出土遺物には蓋杯Gが存在しなければならないからである。また、近年の和泉地方の窯跡の調査結果の分析でも、^{註9)} 法量からみた飛鳥Ⅰ cの蓋杯Hと、蓋杯Gの共存は否定的な結果がでてい

同じように、本項の対象資料に土師器杯Cが存在しないのも、飛鳥地域と和泉地域の差異の現れと理解できる。それ故、現状では本項の対象資料のように、同一遺跡内で変化が合理的に辿れる資料の価値は軽視すべきではないであろう。

第2節 飛鳥時代の須恵器

飛鳥地域以外での当該期の資料が増加すれば、これらの問題点も明らかとなろうが、本書では当面、本節で明らかにした標識遺構の時期区分に即した編年観に立脚する立場をとっておきたい。従って、飛鳥Ⅰは二小期に区分され、1128・1480-〇〇出土遺物を飛鳥Ⅰ古段階、1670-〇S出土遺物を飛鳥Ⅰ新段階と設定する。206-〇S出土遺物は飛鳥Ⅱ平行期のものとする。

飛鳥Ⅰの古段階と新段階を区分する指標は、蓋杯Hの法量の縮小と調整の省略化、椀・鉢の形態変化と数量の拡大傾向で、比較的緩やかな変化といえるが、飛鳥Ⅰ新段階と飛鳥Ⅱには、前段階から引き続く蓋杯Hの法量・調整の変化のみならず、蓋杯Gの成立と蓋杯Hの器種構成上の地位の低下という大きな変化が伴っている。

そして、杯Hの法量を指標にすれば、口径が10cm以下のものは飛鳥Ⅱ、口径11cm以下のものは飛鳥Ⅰ新段階もしくは飛鳥Ⅱ、口径13cm以上のものは飛鳥Ⅰ古段階ということではきよう。杯Hの底部の不調整化は、傾向としては明らかであるが、ある段階で支配的になる程ではない。他の器種についていえば、飛鳥Ⅰの段階では甗は全て丸底のものに限られていたのが、飛鳥Ⅱには台付の甗が出現するといえる。

なお、統計処理については以下の文献を参考にした。

蓑谷 千鳳彦『統計学のはなし』東京図書 1987

山本 由紀『パソコンによる実用統計学』パワー社 1986

脇本 和昌他『パソコン統計解析ハンドブックⅠ 基礎統計編』共立出版

註)

1. 『仏並遺跡発掘調査報告書』（財）大阪府埋蔵文化財協会 1986
岩崎 二郎「仏並遺跡71-〇Dの縄文土器」『研究紀要Ⅰ』（財）大阪府埋蔵文化財協会 1988
2. 『陶邑古窯跡群Ⅰ』平安学園考古学クラブ 1966
3. 『陶邑Ⅲ』大阪府教育委員会 1978
4. 西 弘海『土器様式の成立とその背景』真陽社 1986
5. 註4)に同じ
6. 白石 太一郎『畿内における古墳の終末』「国立歴史民俗博物館研究報告 第1集」国立歴史民俗博物館 1982
7. 註4)に同じ
8. 註2)に同じ
9. 白石 耕治『六、七世紀の須恵器の編年と製作技法 —陶邑古窯跡群谷山池地区を例として—』「考古学研究 第36巻第1号」 1989

第V章 分 析

第1節 池田寺遺跡の土壌墓埋土の花粉分析 図版第130

川崎地質株式会社

はじめに

川崎地質株式会社は財団法人大阪府埋蔵文化財協会の依頼を受け、池田寺遺跡で発掘された土壌墓（第292図）を埋めた季節や、「花」の副葬の可能性を確かめるために、花粉分析を実施した。また今回分析した試料は、すべて財団法人大阪府埋蔵文化財協会により採取されたものである。

処理方法

花粉分析処理方法を第293図に示す。花粉分析処理では1ミクロン振動マイクロフィルターを使用することによって粒径処理を確実にすると共に、処理過程の再現性を高めている。

分析結果

花粉分析の結果を、第13表の花粉分析結果表に示す。通常花粉ダイアグラムは計算した木本花粉を基数にし、百分率で表わすが、今回はほとんどの試料で花粉含有量が少なく、花粉検定数が100に満たない試料が多かったため、第294図の花粉ダイアグラムには出現した花粉化石の種類を*で示した。

試料No.2510を除いて花粉化石の量が極めて少なく、各種類ともに数個体が検出されるのみである。試料No.2510では、他の試料に比べ相対的に多くの花粉が含有されていた。また土壌が掘り込まれている「地山（試料No.G L-40）」からも、花粉はほとんど検出されていない。このように花粉化石が相対的にはあるが多量に含有されることが試料No.2510の特徴である。また第13表・第294図に示すように、他の試料と共通して検出される種類もある。しかし試料No.2510ではエゴノキ属（?：エゴノキ属近似であるが、断定には至っていない。）のように他の試料からは検出されず、しかもこの試料でのみ高率で検出される種類が存在した。このことも特徴の一つである。

考察

◎花粉化石の検出傾向とそこから考えられること

土壌埋土の分析試料に花粉が含まれる原因には、自然堆積物のように空気、水を媒介として混入した他、土壌・地山からの混入、埋土と共に「花」を埋めたなども考えられる。また後の水田や畑などの開発により二次的に混入した、などの理由も考えられる。

試料中に花粉が含まれる原因の内、開発に伴う二次的な混入では、それぞれの土壌が比較的近くに存在する（第292図）ことから、試料間で著しい片寄りができるとは考えにくく、どの試料からも共通した種類が同程度に検出されると考えられる。

例えば今回の分析結果では、栽培種であるソバ属がほとんどの試料から検出されることから、ソバ属の花粉は開発に伴う二次的な要因により試料に混入した可能性が強い。

その他の花粉化石混入の原因を考えると、土壌の位置が近くとも、それぞれの試料で花粉組成に著しい差が生じる可能性がある。試料を人為的な埋土と考えた場合、土壌を埋めた季節が異なれば開花している植物も異なり、含まれる花粉も異なることになる。また埋めた時代が異なれば、周辺の植生にも差が生じることから、含まれる花粉も異なることになる。

例えば今回の分析結果では、試料No.2510でのみエゴノキ属(?)が検出され、しかも相対的に多量であることから、No.2510の土壌を埋めた季節は初夏（エゴノキ属の開花期の5～6月頃）である可能性がある。この他の土壌についてはこれと異なる季節か、異なる時代に埋められた可能性がある。またエゴノキ属は、本来照葉樹林の構成要素ではあるが花粉生産量が少ないため、花粉化石として検出される事は希である。エゴノキ属が自然に混入したとすると、No.2510の土壌が埋められた時代には、エゴノキ属の花粉生産量から考えて、試料採取地点の極めて近くにエゴノキ属が生育していた可能性がある。

◎「花」が副葬された可能性について

前述のように7つの土壌については、検出された花粉化石が少ないものの、共通した種類が検出された。共通して検出された花粉化石は、一般に花粉分析を行なった際に優占して検出される種類や開発に伴う二次的な要因により試料に混入したと考えられる種類であること、さらに花粉化石検出量が絶対的に少なかったことから、これら7つの土壌につい

ては、植物（いわゆる「花」）が副葬された可能性は論じにくい。

今回の分析結果のNo.2510の土壌からはエゴノキ属（?）が特徴的に検出され、エゴノキ属（?）を副葬した結果であると考えられることも可能である。しかし、特定の種類の花粉が多く検出されることを、先に述べたように自然現象として説明することも可能である。また、エゴノキ属の花は小さく、現在の感覚では副葬されるとは考えにくい。しかしこれらのことは、「エゴノキ属（?）の副葬説」を否定する材料としては不十分である。またエゴノキ属（?）が副葬されたと考える場合、No.2510のみ少量ではあるが検出されるニシキギ属、スイカズラ属なども、同様に副葬されたと推定する事もできる。

今回の結果から、No.2510の土壌の特異性が明らかになったが、この土壌で「花」を副葬品として埋めた可能性を完全に否定することはできなかった。今後のデータの蓄積などにより、この問題が明らかにされることに期待したい。

◎ソバ属の検出について

今回分析した8試料の内7試料からソバ属が検出された。

前述のように花粉の由来について不確定な要素が多いが、土壌墓がつくられた縄文時代中期から後期以降、現代までのある時期に、この台地上でソバの栽培が行なわれていたと考えられる。

まとめ

池田寺遺跡において行なった今回の分析から以下の事が明らかになった。

- 1) 試料No.2510を除く7試料では花粉化石の検出量が少なかった。
- 2) 試料No.2510の花粉組成の特異性が明らかになった。
- 3) 試料No.2510はエゴノキ属（?）が特徴的に検出されることから初夏（5～6月頃）に埋められた可能性がある。
- 4) 試料No.2510で特徴的に検出される花粉化石が、副葬された「花」に由来する可能性を否定することはできなかった。
- 5) 時期は未定であるが台地上でソバを栽培した可能性が強い。

第13表 花粉分析結果表

花粉化石の種類	試料 No.								
	2503	2510	2519	2525	2934	3310	3311	3363	GL-40
マツ属 (複維管束亜属)	—	2	7	1	6	—	2	3	5
コウヤマキ属	1	—	1	—	—	1	1	—	—
スギ属	12	1	3	9	40	1	3	2	5
ヒノキ属	3	—	3	—	6	—	—	—	—
ヤマモモ属	1	—	—	—	—	—	—	—	—
ハンノキ属	—	—	—	—	5	—	1	4	—
クマシデ属	—	—	—	—	—	—	—	—	1
ブナ属	1	—	—	—	—	—	—	—	—
アカガシ亜属	1	6	—	—	—	2	1	—	—
コナラ亜属	—	—	1	1	1	1	—	—	—
ムクノキ属—エノキ属	—	—	—	—	1	—	—	—	—
ニレ属—ケヤキ属	1	—	—	—	—	—	1	1	—
ニシキギ属	—	2	—	—	—	—	—	—	—
モクセイ科	—	2	—	—	—	—	—	—	—
サルスベリ属	—	—	—	1	—	—	—	—	—
ツツジ属	—	2	—	—	—	—	—	—	—
エゴノキ属 (?)	—	125	—	—	—	—	—	—	—
スイカズラ属	—	1	—	—	—	—	—	—	—
カヤツリグサ科	—	—	2	—	—	1	—	—	—
イネ科 (40ミクロン未満)	3	1	9	4	1	5	4	5	1
イネ科 (40ミクロン以上)	—	4	—	—	5	—	—	4	—
アブラナ科	3	4	4	—	—	—	—	6	—
ナデシコ科	—	—	5	1	1	1	3	—	—
アカザ科	—	1	4	2	1	—	—	—	—
ソバ属	2	—	2	1	2	1	1	1	—
タデ科 (ウナギツカミ節 —サナエタデ節)	—	—	1	—	—	—	—	—	—
キク亜科	2	5	—	—	—	—	—	1	—
ヨモギ属	—	—	—	—	—	—	—	1	—
タンポポ亜科	—	1	2	—	—	—	—	—	—
花粉合計	30	157	44	20	69	9	17	28	10
単条溝胞子	35	7	53	11	39	20	17	23	37
三条溝胞子	7	3	30	5	14	11	11	4	13
合計	72	167	127	36	122	44	45	55	60

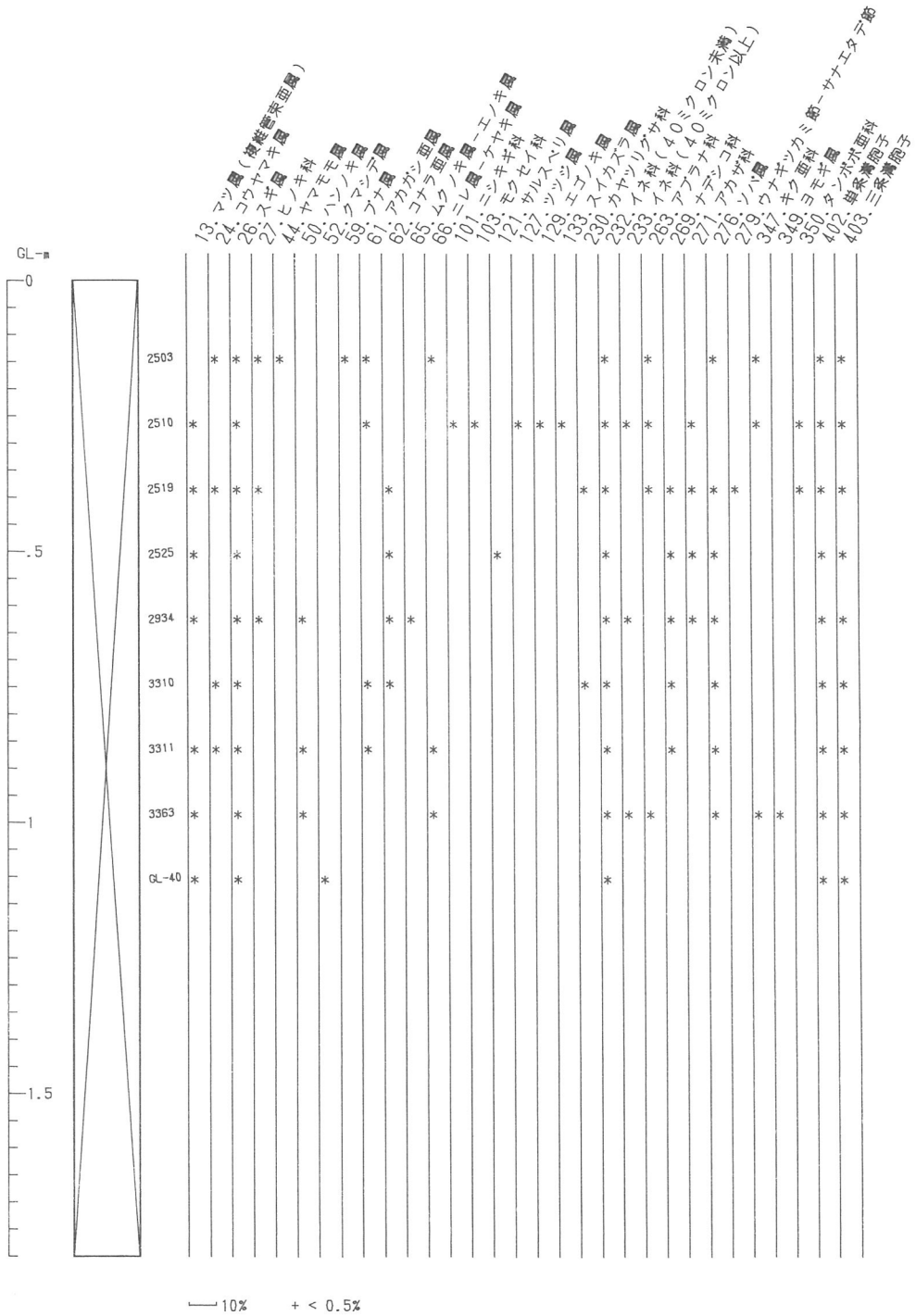


第292図 試料採取位置

第1節 池田寺遺跡の土壌墓埋土の花粉分析



第293図 花粉分析フローチャート



第294図 花粉ダイアグラム

第2節 池田寺遺跡出土の骨 図版92

大阪市立大学 安部みき子

縄文時代後期の、池田寺遺跡の土壌（2503-00）から出土した骨は全て小片だったが、保存状態は比較的良かった。全ての骨片は焼かれており、緻密質から骨髓腔に面する海綿質まで灰白色を呈していた。池田(1981)によると、この状態の骨は完全焼骨であり、700~800°C以上の熱を受けているとしている。骨片の多くは大型哺乳類であったが、ヒトのものも混入していた。

ヒトと同定された骨片左下顎骨の一部と胸椎の2片で、また、ヒトと思えるものが1片出土していた。

ヒトの左下顎骨は関節突起の下顎のみであり、これは外側部と後部が欠けているため計測はできなかったが、焼かれていることとも考えあわせて、大きさから成人のものと推定される。胸椎は椎弓の棘突起から左半分が残存し、棘突起の傾斜の程度から第1胸椎から第4胸椎のうちの一つにあたると思われ、骨化の状態から成人と推察される。しかしこれらの骨片から年齢や性の判定はできなかった。仙骨の底部の椎体の破片は小さかったのでヒトであるとは確定できなかった。

ヒト以外の骨片と思われたのは約30片あり、長骨の破片は緻密質の厚さから、肋骨の破片は肋骨の頭部と頸部および肋骨溝の形態から、シカあるいはイノシシなどの大型哺乳類である。しかし、骨片が小さく、焼けているため骨の変形があり復元は不可能であったため四肢骨の同定はできなかった。

参考文献

- 池田 次郎 1981 出土火葬骨について、奈良県史跡名勝天然記念物調査報告
「太安萬侶」 vol.43 : 79-88

第Ⅵ章 総 括

以上、調査で得られた事実とその所見について報告してきた。今回の調査で検出した遺構は、縄文時代から中世にかけての幅広い時期にわたり、遺構・遺物の数量も多い。たとえ紙幅と期間に余裕があっても、その全てを遺漏なく完全に報告することは不可能で、掲載にあたって所詮は取捨選択をせざるを得ないであろう。

本書に掲載した遺構・遺物も、代表的なもの、有意性の認識可能なもの、特異なものを選択した結果である。取捨選択の正しさを検証することは困難である。時には、あまりに主観的過ぎる価値判断がなされることもあろう。報告書から取捨された資料が公表される機会は、現実的には殆どなく、潜在的な問題は少なくない。

我々がこうした問題を幾らかでも克服するためにおこなったのは、出土遺物の破片数を逐一数えることであった。なにが、どこから、どれだけ出土しているか、基礎的な事実を把握し、すべての情報を一定のレベルでデータベース化することであった。

データベースの作成と運用については第Ⅰ章に記述したが、実のところ、この作業には整理期間の1/3近くを要した。こうした作業に対する批判的な意見も耳にはしたが、連続的に把握できない条件下の層位関係を、ある程度系統的に把握できたのも、3500を超える遺構の整理が可能となったのも、この作業の結果であろう。

本書はこの作業の産物でもある。本書の記述中には、混入遺物（上手に発掘できなかった証）の数量も提示されているし、本文中に掲載できなかった遺構については、付図に年代観の大略を示した。つまり、我々の主観的判断の積み重ねである発掘と整理作業の結果は、その成否を問わず、本書には必ずなんらかの形で示されている。また、資料の全てが、検索可能な状態で収納されている。従って、本書が全資料の代表に成功したとは限らないが、少なくとも、一応の資料の公表と事後の利用に対する責は果たしたと考えられる。

ところで、本書に報告した池田寺遺跡は、池田寺跡や対岸の万町北遺跡との関連を抜きには語ることは出来ない遺跡であろう。槇尾川流域の一大遺跡群をなしているこれらの遺跡には、幸か不幸か大規模開発がおよび、今までの調査面積は延べ数万㎡以上にも達する。一部報告されている資料からみると、これらの遺跡は有機的関係にあるものと考えられる。

例えば、万町北遺跡でも縄文時代中期～後期前葉の土壌墓群が発見されており、池田寺遺跡との集落・墓域の双分関係も想定される。しかしながら、最も興味深いのは、6世紀

～10世紀にかけての各遺跡相互の関係であろう。

当該期の遺構の数は多く、時期的な分布の変遷も見られるようである。当該期のこれらの遺跡は、「池田首」として文献に登場する氏族集団の本貫地に比定することができ、池田寺の造営も含めて、この集団の律令時代のエピローグからプロローグまでを具現した遺跡群と考えることが可能である。

仮に集落遺跡の変遷を通じて、一つの氏族集団の消長の歴史的復原に成功すれば、その史的価値は全国的にも極めて高いものといえる。本書がその一助となれば望外の幸であろう。近々予定される万町北遺跡の報告は、懸かる意味合いで期待されるどころ大である。

最後に縄文時代土壌から出土した骨片の鑑定結果について触れておきたい。当該期の土壌群を土壌墓群と考える根拠は第三章で記述しているが、その有力な根拠として人骨方の検出を挙げたわけである。ところが鑑定結果は非常に興味深いもので、人骨の検出すなわち墓塚とする単純思考に待ったをかけるものであった。

詳しくは鑑定の報告をみて頂きたいが、鑑定によると骨方には人骨の他に猪・鹿などのものがあり、その全てが高温で焼けているそうである。猪・鹿は狩猟の対象であり、その骨が焼けているとすれば、それはすなわち調理の結果とみるのが自然であろう。では人骨が焼けているのはどう解釈すべきなのであろうか。やけた人骨が単独で検出された場合は、火葬骨もしくは焼死によるものと考えられるが、現実には焼死によって骨が高温で焼けるような事態はまずないであろうから、焼死は除外してもよいだろう。そうなると、これらの骨が共伴して出土するという事は、人および猪・鹿と調理および火葬の組み合わせを想定するしかなくなるのである。

つまり、出土した骨の組み合わせは、人も獣も調理されたか、人も獣も火葬されたか、火葬された人と調理された獣か、調理された人と火葬された獣か、ということになろう。これらのうち、一番最後の組み合わせは最も蓋然性が少ない。縄文社会における食人風習も積極的には認められないが、あるとすれば葬祭儀礼に関わる可能性が大であろう。他の組み合わせは言うまでもなく葬祭儀礼に関わることである。そうすると、いずれにせよ人・獣の焼骨が出土した遺構を墓塚とするのは妥当な考えといえる。

出土遺物觀察表

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
24	20 81	2層	深鉢					山型おしがた 文幅0.5 cm	内面 ナデ	角閃石を含む	中	褐色 (7.5YR4/4)
25	20 81	3213 -OO	深鉢		波状口縁 2	無肥厚		内面擬縄文 7本/cm 刺突文	内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
26	20 81	3213 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節R 条線4/cm 節4/cm	垂下縄文AorB 単節R 条線3/cm 節3/cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	灰黄色 (2.5Y7/2)
27	20 81	2881 -OO	深鉢		波状口縁	肥厚 2		沈線文 0.4cm	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/4)
28	20 81	2560 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚			外面 貝殻条痕 内面 ナデ	金雲母を含む	中	褐色 (7.5YR7/6)
29	20 81	2553 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		条線文 A	内・外面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
30	20 81	2870 -OO	深鉢					深淺縄文 条線4/cm 節8/cm 沈線文 0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい褐色 (5YR6/4)
31	20 81	3213 -OO	浅鉢		平口縁 2	無肥厚		単節R 条線5/cm 節6/cm 沈線文 0.3cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	淡黄色 (2.5Y8/3)
32	20 81	2001 -OO	深鉢					単節R 条線3/cm 節6/cm 沈線文 0.4cm	外面 ミガキ		中	にぶい褐色 (7.5YR5/4)
33	20 81	2002 -OO	深鉢					単節L 条線4/cm 節7/cm 沈線文 0.5cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
213	37 91	2506 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節R 条線3/cm 節 不明	単節R 条線3/cm 節 不明 沈線文 0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
214	37 91	2506 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚 1		単節L 条線4/cm 節6/cm 沈線文 0.4cm	内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
215	37 91	2506 -OO	深鉢		波状口縁 2 a	肥厚 1	刻み目 0.5cm	単節L 条線4/cm 節 不明 沈線文0.5cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
216	37 91	2506 -OO	深鉢					単節L 条線4/cm 節 不明 沈線文0.45cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR5/4)
217	37 91	2506 -OO	深鉢					単節L 条線4/cm 節8/cm 沈線文0.35cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	軟	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
218	37 91	2506 -OO	浅鉢 又は 壺					単節L 条線5/cm 節9/cm 凸帯 2.0cm	内・外面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
219	39 91	2503 -OO	深鉢	口径 24.8 器高 11.1	波状口縁 2 b	肥厚 1	沈線 0.4 cm	単節L 条線6/cm 節 不明 沈線文0.5cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	褐色 (7.5YR6/6)
220	39 91	2503 -OO	深鉢			肥厚 1		単節R 条線3/cm 節5/cm 沈線文0.3cm			軟	浅黄褐色 (7.5YR8/6)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調整	胎土	焼成	色調
221	39 91	2503 -00	深鉢					単節R 条線6/cn 節8/cn 沈線文0.4cn	外面 ミガキ		中	にぶい橙色 (7.5YR7.4)
222	39 91	2503 -00	深鉢					単節R 条線5/cn 節7/cn 沈線文0.4cn	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR7.4)
223	41 93	2525 -00	深鉢	口径 27.1 器高 12.9	平口縁2	肥厚2	単節R 条線3/cn 節6/cn	単節R 条線4/cn 節5/cn 沈線文0.45cn	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR4.3)
224	41 93	2525 -00	深鉢	口径 31.1 器高 15.3	平口縁2	無肥厚		単節R 条線3/cn 節6/cn 沈線文0.5cn	内・外面 ナデ		中	灰黄褐色 (10YR4.2)
225	41 93	2525 -00	深鉢	口径 18.2 器高 9.1	波状口縁1	肥厚1	沈線 0.5cn	単節R 条線4/cn 節6/cn 沈線文0.45cn	内・外面 ナデ		中	橙色 (7.5YR6.6)
226	42 93	2525 -00	深鉢	口径 26.7 器高 29.7	波状口縁1	肥厚1	沈線 0.45cn	複節R 条線5/cn 節8/cn 沈線文0.4cn	外面 ミガキ 内面ナデ、 ミガキ	3.0mm以下の 砂粒を多く含む	中	灰黄褐色 (10YR5.2) 橙色 (2.5YR6.8)
227	42 94	2525 -00	深鉢		平口縁2	肥厚1		沈線文0.15cn	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR7.3)
228	42 94	2525 -00	深鉢		平口縁2	肥厚1		単節L 条線4/cn 節5/cn			中	灰黄褐色 (10YR4.2)
229	42 94	2525 -00	深鉢		平口縁2	肥厚1		無節1よりも どし 条線3/cn 沈線文0.5cn			中	にぶい黄褐色 (10YR5.3)
230	42 94	2525 -00	深鉢		平口縁2	肥厚1		巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR6.3・6.4)
231	42 94	2525 -00	深鉢					単節R 条線3/cn 節6/cn 沈線文0.3cn	内・外面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6.3)
232	42 94	2525 -00	深鉢		波状口縁 2 a	肥厚1	沈線 0.5cn	単節L 条線4/cn 節5/cn 沈線文0.4cn	外面 ミガキ	金雲母を含む	軟	にぶい黄褐色 (10YR5.3)
233	42 94	2525 -00	深鉢					単節L 条線4/cn 節9/cn 沈線文0.3cn	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR4.3)
234	42 94	2525 -00	深鉢						内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7.4)
235	42 94	2525 -00	深鉢						外面 ナデ	金雲母を含む	軟	橙色 (5YR6.6)
236	44 95	2510 -00	深鉢	口径 36.0 器高 31.2	平口縁1	無肥厚	無節1 条線8/cn	単節R 指頭庄痕 条線2/cn節5/cn 沈線文0.7cn	内・外面 ナデ	2.0~5.0mm大 の石英・チャー ト石粒を多く 含む	中	にぶい橙色 (7.5YR7.3)
237	44 95	2510 -00	深鉢		平口縁1	無肥厚	単節L 条線4/cn 節6/cn	単節L 条線4/cn 節6/cn 沈線文0.6cn	外面 ミガキ 内面 ナデ	角閃石・金雲 母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6.3)
238	44 95	2510 -00	深鉢		平口縁2	無肥厚	単節L 条線3/cn 節 不明	垂下縄文A 単節L 条線4/cn 節6/cn	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5.3)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
239	44 95	2510 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚		垂下縄文A 単節1 条線4/cm	内面 ナデ		軟	にぶい褐色 (7.5YR5/3)
240	44 95	2510 -OO	深鉢		平口縁	無肥厚	刺突	沈線文 不明 刺突文 凸帯		金雲母を含む	軟	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
241	44	2510 -OO	深鉢		平口縁	肥厚3	無節1 条線6 cm 節 不明		内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
242	44 95	2510 -OO	深鉢		平口縁1?	無肥厚		沈線文0.5cm	外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
243	44 95	2510 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚3			外面 ミガキ 内面 ナデ		中	灰黄褐色 (10YR5/2)
244	44 95	2510 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚			外面 ナデ 内面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
245	45 96	2510 -OO	深鉢	口径 17.0 器高 18.6	波状口縁 2 b	肥厚2	単節L 条線4 cm 節 不明	単節L 条線4 cm 節5 cm 沈線文0.45cm	外面 ミガキ 内面ナデ、 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
246	45 95	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2 a	肥厚1	単節L 条線3 cm 節6 cm 沈 線文0.55cm	単節L 条線3 cm 節6 cm 沈 線文0.5cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	明褐色 (7.5YR7/2)
247	45 95	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚1	単節L 条線4 cm 節6 cm	単節L 条線 3 cm 節6 cm 沈線文0.5cm 刺突文	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	灰黄褐色 (10YR5/2)
248	45 96	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2	肥厚1		単節R 条線4/cm 節8 cm 沈線文0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	角閃石・金雲 母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
249	45 95	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚1		単節R 条線5/cm 節8 cm 沈線文0.5cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
250	45 96	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2	肥厚1		単節L 条線3/cm 節5 cm 沈線文0.5cm	外面 ミガキ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
251	45 96	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2 a	肥厚2	沈線0.55cm	単節R 条線4/cm 節6 cm 沈線文0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
252	45 96	2510 -OO	深鉢		波状口縁 2	肥厚1		単節R 条線4/cm 節7 cm 沈線文0.5cm	外面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
253	45 96	2510 -OO	深鉢					単節L 条線4 cm 節8 cm 沈線文0.4cm	外面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
254	45 96	2510 -OO	深鉢					沈線文0.4cm 擬縄文7 cm (巻貝)	内面 ナデ	角閃石を含む	軟	浅黄褐色 (10YR8/3)
255	45 96	2510 -OO	深鉢					単節L 条線4/cm 節6 cm 沈線文0.5cm	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
256	45 96	2510 -OO	深鉢					複節R 条線 3 cm 節4 cm 沈線文0.45cm 刺突文	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
257	46 96	2510 -OO	深鉢					条線文 B			中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
258	46 96	2510 -OO	深鉢					単節 条線2/cm 節4/cm 沈線文0.4cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
259	46 96	2510 -OO	深鉢						内・外面 ケズリ ハケメ状		中	灰黄褐色 (10YR5/2)
260	46 96	2510 -OO	深鉢						外面 貝殻条痕 内面 ナデ	金雲母を含む	中	橙色 (7.5YR7/6)
261	46 95	2510 -OO	深鉢	口径 9.1 器高 7.7 底径 5.9	波状口縁 1	無肥厚			内・外面 ミガキ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR6/4)
262	46 96	2510 -OO	深鉢	器高 5.6 底径 9.7					内・外面 ナデ		中	灰黄褐色 (10YR6/2)
263	46 96	2510 -OO	深鉢	器高 3.8 底径 9.4					内・外面 ナデ	金雲母を含む	軟	浅黄褐色 (7.5YR8/4)
264	48 97	3569 -OO	深鉢	口径 21.9 器高 30.0 底径 10.1	平口縁 2	肥厚 1		単節 R 条線5/cm 節8/cm 沈線文0.35cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		軟	灰黄褐色 (10YR4/2)
265	48 97	3569 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		条線文 A	外面 貝殻条痕 内面 ナデ	角閃石を含む	軟	暗褐色 (10YR3/3)
266	48 97	3569 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚			外面 貝殻 条痕 ケズリ ・ナデ 内面ナデ		軟	黒褐色 (10YR3/2)
267	48 97	3569 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	刻み目 幅0.2 cm		外面 ケズリ 内面 ミガキ		中	橙色 (5YR6/6)
268	48 97	3569 -OO	深鉢			肥厚 2		単節 R 条線3/cm 節6/cm 沈線文0.3cm	内面 ナデ		軟	灰褐色 (7.5YR4/2)
269	48 97	3569 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚 1	沈線 幅0.5 cm	単節 R 条線5/cm 節8/cm 沈線文0.45cm	内面 ナデ		軟	明黄褐色 (10YR7/6)
270	48 97	3569 -OO	深鉢		波状口縁 1	肥厚 2	沈線 幅0.4 cm	単節 L 条線5/cm 節6/cm 沈線文0.35cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	角閃石を含む	軟	黒褐色 (7.5YR3/2)
271	48 97	3569 -OO	深鉢		波状口縁 1	肥厚 2	沈線 幅0.4 cm	単節 R 条線4/cm 節6/cm 沈線文0.35cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	軟	にぶい赤褐色 (5YR5/4)
272	48 97	3569 -OO	深鉢		波状口縁 2 a	肥厚 1	沈線 幅0.4 cm 刺突文	単節 R 条線5/cm 節7/cm 沈線文0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	暗赤褐色 (5YR3/2)
273	48 97	3569 -OO	深鉢					沈線文0.4cm 縄文単位不明	内面 ナデ	角閃石・金雲 母を含む	軟	褐色 (7.5YR4/3)
274	48 97	3569 -OO	深鉢					条線文 A	内面 ナデ		軟	にぶい黄褐色 (10YR7/4)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
275	48 97	3569 -OO	深鉢					単節R 単位不明 沈線文0.4cm	内面 ナデ		軟	灰褐色 (7.5YR5/2)
276	48 97	3569 -OO	深鉢					単節R 条線5/cm 節7/cm 沈線文0.35cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	角閃石・金雲 母を含む	軟	褐色 (7.5YR4/3)
277	50 98	2000 -OO	深鉢	口径 25.2 器高 27.2	平口縁1	無肥厚	単節L 単位不明	垂下縄文A 単節L 条線3/cm 節4/cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR4/3)
278	50	2000 -OO	深鉢	口径 26.8 器高 15.2	平口縁2	無肥厚		垂下縄文A 無節1 条線5/cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	褐色 (7.5YR4/4)
279	50 98	2000 -OO	深鉢	口径 25.4 器高 10.8	波状口縁 2 b	肥厚1	単節L 条線3/cm 節5/cm	単節L 条線3/cm 節5/cm 沈線文0.5cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	褐色 (7.5YR4/3)
280	51 98	2000 -OO	浅鉢		波状口縁	肥厚1	単節L 単位不明	沈線文0.4cm 刺突文	内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
281	51 98	2000 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚	単節R 単位不明	単節R 条線4/cm 節不明 沈線文0.55cm	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
282	51 98	2000 -OO	深鉢		波状口縁2	肥厚2		無節1 条線6/cm 沈線文0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
283	51 98	2000 -OO	浅鉢		波状口縁1	無肥厚	沈線 0.5 cm	無節1 条線7/cm 沈線文0.5cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
284	51 98	2000 -OO	深鉢					単節R 条線5/cm 節8/cm 沈線文0.4cm	内・外面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/4)
285	51 98	2000 -OO	深鉢					単節R 条線4/cm 節6/cm 沈線文0.4cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR6/4)
286	51 98	2000 -OO	深鉢					垂下縄文C 単節L 条線 2/cm 節4/cm 沈線文0.5cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/2)
287	53 94	3038 -OO	深鉢	器高 10.0 底径 11.6					内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR6/4)
288	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁1	無肥厚		水平凸帯 単 節L 条線4/cm 節5/cm 刺突文 沈線文0.75cm	内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
289	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁1	無肥厚	単節L 条線4/cm 節6/cm	単節L 条線3/cm 節6/cm 沈線文0.6cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
290	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁1	無肥厚	無節r 条線4/cm	凸帯縄文 無節r 条線3/cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
291	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁1	無肥厚		単節L 条線2/cm 節4/cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
292	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁1	無肥厚	縄文 単位不明	単節L 条線3/cm 節4/cm 沈線文0.85cm	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
293	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 1	無肥厚	単節 L 条線3/cn 節 不明	単節 L 条線3/cn 節4/cn 刺突文	内面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
294	55 99	3310 -OO	深鉢	口径 14.1 器高 7.1	平口縁 1	肥厚 2	無節 1 条線4/cn	羽状沈線文 0.3 cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
295	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 1 ?	無肥厚	単節 L 条線3/cn 節5/cn	単節 L 条線3/cn 節4/cn	内面 ナデ	角閃石・金雲 母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR5/4)
296	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節 L 条線3/cn 節 不明	単節 L 条線3/cn 節5/cn		角閃石・金雲 母を含む	中	褐色 (10YR4/1)
297	55 99	3310 -OO	深鉢	口径 19.7 器高 4.8	平口縁 2	無肥厚		垂下縄文 B 無節 1 条線4/cn			中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
298	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 1 ?	肥厚 2		単節 R 条線4/cn 節 不明 沈線文0.6cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	浅黄褐色 (7.5YR8/4)
299	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節 L 条線3/cn 節 不明	単節 L 条線3/cn 節6/cn 沈線文0.55cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
300	55	3310 -OO	深鉢		平口縁 1 ?	無肥厚		単節 L 条線3/cn 節4/cn 沈線文0.55cm	内面 貝殻条痕		中	浅黄褐色 (7.5YR8/3)
301	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 1 ?	無肥厚		単節 R 条線2/cn 節3/cn 沈線文0.6cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
302	55 99	3310 -OO	深鉢					複節 R 条線3/cn 節4/cn 沈線文0.65cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
303	55 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節 L 条線3/cn 節 5/cn	垂下縄文 C 単節 L 条線3/ cn 節5/cn 沈線文0.6cm	内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
304	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節 R 単位不明	単節 R 条線3/cn 節5/cn 沈線文0.5cm	内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
305	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	肥厚 1	単節 R 条線4/cn 節6/cn	単節 R 条線3/cn 節5/cn 沈線文0.3cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
306	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚	単節 L 条線2/cn 節 不明	単節 L 条線2/cn 節 不明 沈線文0.5cm	内・外面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
307	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		単節 条線2/cn 節3/cn 沈線文0.45cm	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR7/4)
308	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	肥厚 3		沈線文0.55cm	内・外面 ミガキ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
309	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		沈線文0.7cm	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
310	56 99	3310 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調整	胎土	焼成	色調
311	56 99	3310 -OO	深鉢					沈線文0.5cm 外面 ケズリ 内面 ナデ		角閃石・金雲 母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
312	56 99	3310 -OO	深鉢	口径 16.1 器高 5.4	平口縁 2	無肥厚	刻み目 幅0.15cm				中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
313	56 99	3310 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	無肥厚	単節 L 単位不明	単節 R 条線6/cm 節 不明 沈線文0.4cm		内・外面 ミガキ	中	にぶい黄褐色 (7.5YR6/4)
314	56 99	3310 -OO	深鉢		波状口縁 1	無肥厚		単節 L 条線3/cm 節5/cm 沈線文0.5cm		外面 ナデ	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
315	56 99	3310 -OO	深鉢		波状口縁 2	無肥厚		単節 L 条線8/cm 節11/cm 沈線文0.35cm		内・外面 ミガキ	中	浅黄橙 (7.5YR8/3)
316	56 99	3310 -OO	深鉢		波状口縁 2	無肥厚		無節 1 条線5/cm 沈線文0.45cm 刺突文		内・外面 ミガキ	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
317	56 99	3310 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	無肥厚	無節 1 条線5/cm	沈線文0.6cm		内・外面 ナデ	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
318	56 99	3310 -OO	深鉢					単節 L 条線4/cm 節 不明 沈線文0.5cm		内・外面 ナデ	中	にぶい褐色 (7.5YR5/3)
319	56 99	3310 -OO	深鉢					刺突文		内・外面 ナデ	中	にぶい褐色 (7.5YR5/3)
320	56 99	3310 -OO	深鉢					単節 L 条線7/cm 節7/cm 沈線文0.4cm		内・外面 ミガキ	中	浅黄褐色 (7.5YR8/4)
321	56 99	3310 -OO	深鉢					垂下縄文AorB 単節 L 条線3/cm 節8/cm		外面 ケズリ 内面 ナデ	中	灰黄褐色 (10YR5/2)
322	56 100	3310 -OO	深鉢					条線文 A 草状原体0.3cm		内・外面 ナデ	中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
323	56 100	3310 -OO	深鉢					条線文 A 草状原体0.45cm		外面 ケズリ 内面 ナデ	中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
324	57 100	3310 -OO	深鉢					巻貝条痕文		外面 ナデ 内面 貝殻条痕	中	にぶい黄褐色 (10YR4/3)
325	57 100	3310 -OO	深鉢					巻貝条痕文		外面 貝殻条痕 内面 ナデ	中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
326	57 100	3310 -OO	深鉢					巻貝条痕文		外面 貝殻条痕 内面 ナデ	軟	灰黄褐色 (10YR6/2)
327	57 100	3310 -OO	深鉢					巻貝条痕文		外面 貝殻条痕 内面 ナデ	中	にぶい褐色 (7.5YR6/3)
328	57 100	3310 -OO	深鉢					条線文 A		外面 貝殻条痕 内面 ナデ	中	浅黄橙 (7.5YR8/3)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
329	57 100	3310 -OO	深鉢					巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		軟	にぶい褐色 (7.5YR6/3)
330	57 100	3310 -OO	深鉢	器高 8.7 底径 5.0				単節R 条線7/cn 節8/cn 沈線文0.4cn	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR5/4)
331	57 100	3310 -OO	深鉢	器高 5.8 底径 12.7					内・外面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
332	57 100	3310 -OO	深鉢	器高 5.8 底径 8.7					内・外面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR5/4)
333	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚	無節1 単位不明	無節1 条線4/cn 沈線文0.65cn	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR7/4)
334	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚	無節1 単位不明	無節1 条線7/cn 沈線文0.7cn	内面 ナデ	金雲母を含む	中	浅黄褐色 (10YR8/3)
335	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚1	単節L 条線6/cn 節 不明	沈線文0.4cn 刺突文	内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR5/4)
336	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚3	無節1 条線4/cn	無節r 条線4/cn 節9/cn	内面 ミガキ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/3)
337	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚1	無節L 条線4/cn 節5/cn	垂下縄文C 単節L 条線 4/cn 節 不明 沈線文0.4cn	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
338	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚3	単節L 条線4/cn 節 不明	垂下縄文B 単節L 条線 4/cn 節3/cn	内・外面 ミガキ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
339	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚	無節L 条線7/cn 節 6/cn	垂下縄文A 単節L 条線 5/cn 節6/cn	内面 ナデ		中	浅黄褐色 (10YR8/4)
340	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚1		単節L 条線4/cn 節5/cn 沈線文0.4cn	外面 ナデ 内面 ミガキ		中	にぶい橙色 (7.5YR6/4)
341	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	肥厚1		単節L 条線4/cn 節 不明 沈線文0.4cn	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	浅黄褐色 (7.5YR8/3)
342	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁	肥厚1		単節L 条線4/cn 節6/cn 沈線文0.25cn	内・外面 ナデ		中	橙色 (5YR7/6)
343	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁2	無肥厚		条線文B	内面 ナデ		軟	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
344	59 101	2860 -OO	深鉢		波状口縁 2	無肥厚	単節L 条線4/cn 節6/cn	単節L 条線4/cn 節6/cn 沈線文0.35cn	外面 ミガキ 内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
345	59 101	2860 -OO	深鉢				単節L 条線3/cn 節 不明	刺突文	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR6/4)
346	59 101	2860 -OO	深鉢		波状口縁1	肥厚2	単節L 条線4/cn 節6/cn	単節L 条線4/cn 節6/cn 刺突文 沈線文0.35cn	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい褐色 (7.5YR7/3)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土遺構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
347	59 101	2860 -OO	深鉢		波状口縁 1	肥厚 2		沈線文0.55cm 刺突文	内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/3)
348	59 101	2860 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		沈線文0.45cm 巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
349	59 101	2860 -OO	深鉢					巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	浅黄褐色 (10YR8/3)
350	59 101	2860 -OO	深鉢		波状口縁 2 a	肥厚 2	刺突文	単筋L 条線4/cm 節6/cm 沈線文0.4cm	内・外面 ミガキ		中	にぶい橙色 (7.5YR6/4)
351	59 101	2860 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚 1		単筋L 条線4/cm 節 不明 沈線文0.4cm		金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR7/4)
352	60 101	2860 -OO						単筋L 条線3/cm 節 不明 凸帯文	内面 ミガキ		中	にぶい橙色 (7.5YR7/3)
353	60 101	2860 -OO	深鉢					沈線文0.4cm 二枚貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
354	60 101	2860 -OO	深鉢					単筋L 条線3/cm 節 不明 沈線文0.4cm	外面 ナデ 内面 ミガキ	金雲母を含む	中	灰黄褐色 (10YR6/2)
355	60 101	2860 -OO	深鉢					単筋L 条線4/cm 節4/cm 沈線文0.45cm	外面 ナデ 内面 ミガキ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/3)
356	60 101	2860 -OO	深鉢					条線文A			軟	にぶい褐色 (7.5YR6/3)
357	60 101	2860 -OO	深鉢					巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR5/4)
358	60 101	2860 -OO	深鉢					垂下縄文AorB 単筋L 条線3/cm 節3/cm	内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
359	60 101	2860 -OO	深鉢					条線文B	内面 ミガキ	金雲母を含む	軟	にぶい黄褐色 (10YR4/5)
360	60 101	2860 -OO	壺					単筋R 条線6/cm 節 不明 沈線文0.3cm	内・外面 ミガキ	角閃石を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
361	60	2860 -OO	深鉢	器高 6.8 底径 11.5					内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
362	60 101	2860 -OO	深鉢	器高 1.9 底径 8.4					外面 ナデ	金雲母を含む	軟	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
363	60 101	2860 -OO	深鉢	器高 5.4 底径 7.9					内・外面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
364	62 102	3599 -OO	深鉢	口径 26.0 器高 15.4	平口縁 2	無肥厚		巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ	金雲母を含む	中	褐灰色 (5YR4/1)

遺物番号	挿図番号 図版番号	出土構 層位	器種	法 量 (cm)	口縁部形態	口唇部形態	口唇部文様 縄文・沈線	口縁・体部文様 縄文・沈線	調 整	胎 土	焼成	色 調
365	62 102	3599 -OO	深鉢		平口縁	肥厚 1		単節L 条線8/cn 節 10/cn 沈線文0.3cm			中	にぶい黄褐色 (10YR7/4)
366	62 102	3599 -OO	深鉢		平口縁	無肥厚	単節R 条線4/cn 節 6/cn	単節R 条線4/cn 節 7/cn 沈線文0.4cm	内面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR5/3)
367	62 102	3599 -OO	深鉢		平口縁	肥厚 1		単節R 条線5/cn 節 8/cn 沈線文0.4cm	内・外面 ナデ		中	にぶい赤褐色 (5YR4/4)
368	62 102	3599 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚 2	沈線 幅0.45cm	単節R 条線4/cn 節 8/cn 沈線文0.35cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	灰褐色 (7.5YR4/2)
369	62 102	3599 -OO	深鉢		平口縁	無肥厚		単節R 条線5/cn 節 8/cn 刺突文		金雲母を含む	中	灰褐色 (7.5YR4/2)
370	62 102	3599 -OO	深鉢					単節L 条線4/cn 節 9/cn 沈線文0.3cm	外面 ミガキ	金雲母を含む	中	にぶい橙色 (7.5YR6/4)
371	62 102	3599 -OO	深鉢					単節R 条線5/cn 節 7/cn 沈線文0.4cm	内・外面 ナデ		中	にぶい褐色 (7.5YR6/3)
372	62 102	3599 -OO	深鉢					単節L 条線5/cn 節 8/cn 沈線文0.3cm	内・外面 ナデ		軟	にぶい黄褐色 (10YR6/4)
373	62 102	3599 -OO	深鉢					巻貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ		中	灰褐色 (7.5YR4/2)
374	62 102	3599 -OO	深鉢					沈線文0.2cm	内面 ナデ	角閃石・金雲 母を含む	中	灰褐色 (7.5YR4/2)
375	76 102	2522 -OO	深鉢		波状口縁 2 b	肥厚 1	沈線 0.4 cm	単節L 条線4/cn 節 5/cn 沈線文0.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい赤褐色 (5YR5/4)
376	76 102	2521 -OO	深鉢			肥厚 1	無節 1 単位不明	無節 1 条線5/cn	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR5/3)
377	76 102	2520 -OO	深鉢		平口縁 2	肥厚 2		垂下縄文A 単節L 条線4/cn 節 不明	内面 ナデ		軟	にぶい黄褐色 (10YR7/3)
378	76 102	2519 -OO	深鉢		平口縁 2	無肥厚		単節L 条線5/cn 節 不明 沈線文0.3cm	内・外面 ミガキ		中	にぶい褐色 (10YR5/3)
379	76 102	3363 -OO	壺					単節R 条線4/cn 節 5/cn 沈線文0.4cm	内・外面 ミガキ	金雲母を含む	軟	にぶい褐色 (7.5YR5/3)
380	76 102	2519 -OO	深鉢		平口縁 2	肥厚 2		二枚貝条痕文	外面 貝殻条痕 内面 ナデ	金雲母を含む	中	にぶい黄褐色 (10YR5/4)
381	76 102	2519 -OO	深鉢		平口縁 2	肥厚 2	沈線 0.3 cm	沈線文0.5cm	内面 ナデ	金雲母を含む	軟	にぶい黄褐色 (10YR7/2)
382	76 102	2520 -OO	深鉢					条線文A	内面 ナデ		中	にぶい黄褐色 (10YR7/3)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)		胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
1	17	79	石鏃	2層	長 1.610 厚さ 0.355 0.330	幅 2.240 重 1.060				
2	17	79	石鏃	3層	長 2.150 厚さ 0.370 0.365	幅 1.575 重 0.960				
3	17	79	石鏃	1281-OD	長 2.440 厚さ 0.345	幅 2.030 重 1.450				
4	17	79	石鏃	241-OD	長 2.770 厚さ 0.535 0.530	幅 2.030 重 2.840				
5	17	79	石鏃	3層	長 1.525 厚さ 0.370 0.345	幅 1.930 重 1.010				
6	17	79	石鏃	1層	長 1.960 厚さ 0.385 0.335	幅 1.650 重 1.400				
7	17	79	石鏃	5 a層	長 2.355 厚さ 0.305	幅 1.180 重 0.880				
8	17	79	石鏃	2層	長 2.750 厚さ 0.405	幅 1.335 重 1.090				
9	17	79	石鏃	3層	長 3.635 厚さ 0.525 0.495	幅 1.335 重 2.370				
10	17	79	石錐	3層	長 4.210 厚さ 0.920 0.495(錐部) 0.770 [※]	幅 4.035 重 17.160				
11	17	79	スクレイパー	2層	長 3.405 厚さ 0.680	幅 3.205 重 10.600				
12	17	79	スクレイパー	2123-OX	長 6.440 厚さ 0.690	幅 4.380 重 14.630				
13	18	79	スクレイパー	2746-OX	長 4.365 厚さ 1.170 1.160	幅 5.670 重 26.730				
14	18	79	不定形刃器	206-OS	長 4.190 厚さ 0.540	幅 2.775 重 6.040				
15	18	79	石鏃の未製品	2層	長 2.355 厚さ 0.475	幅 1.835 重 1.500				
16	18	80	二次加工の ある剥片	3層	長 3.670 厚さ 1.175	幅 3.070 重 11.200				
17	18	80	石核	3層	長 3.580 厚さ 1.465	幅 3.215 重 17.370				
18	18	80	石核	3層	長 5.035 厚さ 1.405	幅 2.880 重 20.960				

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
19	18	80	石核	3層	長 5.695 幅 3.960 厚さ 1.565 重 43.140				
20	19	80	石包丁	1659-OS	長 3.720 幅 3.480 厚さ 0.705 重 12.380				
21	19	80	石包丁	1655-OO	長 3.830 幅 6.160 厚さ 0.830 重 12.380				
22	19	80	叩き石	2層	長 11.905 幅 2.920 厚さ 2.155 重 124.870				
23	19	80	石錘	366-OD	長 8.880 幅 7.770 厚さ 6.810 重 725.100				
34	21	81	弥生土器 甕	366-OD	口径 (15.6) 器高 (10.9)	1.0mm以下の砂粒 を多く含む	中	外 赤褐色(10R5/4) 橙色(10YR6/6) 断 黒色(10YR2/1) 内 橙色(5YR7/6)	・体部外面ハケメ(12本/cm) ・体部内面ハケメ(12本/cm) の後ナデ調整
35	21	81	弥生土器 壺	4層	口径 (27.2) 器高 (7.7)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にふい黄褐色(10YR6/4) 断 灰色(5Y4/1) 内 にふい黄褐色(10YR6/4)	・口縁部外面 刺突文 (11本/単位) 藤状文 (11本/単位) 直線文 (11本/単位)
36	21	81	弥生土器 甕	2171-OO	口径 (35.6) 器高 (19.2)	0.1~0.5mm大の白色 砂粒を含む	中	外 橙色(7.5YR6/6) 断 にふい黄褐色(10YR7/4) 内 淡黄色(2.5Y8/3)	・口縁部・体部外面 ハケメ(6本/cm)
37	22		須恵器 蓋H a	5 a層	口径 (14.4) 器高 (4.6)	1.5mm大の白・褐色 砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y8/1) 断 灰白色(5Y8/1) 内 灰白色(5Y8/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
38	22		須恵器 蓋H a	6層	口径 (13.8) 器高 3.8	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗オリーブ色(7.5Y4/3) 袖 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(N5/7) 内 明青灰色(5PB7/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
39	22		須恵器 蓋H a	4層	口径 (14.2) 器高 3.4	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
40	22		須恵器 蓋H a	4層	口径 (14.0) 器高 3.4	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y5/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
41	22		須恵器 蓋H a	4層	口径 (12.2) 器高 (3.8)	4.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰白色(N7/1) 内 灰白色(N7/1)	・ロクロ回転方向不明
42	22		須恵器 杯H a	5 a層	口径 (12.3) 器高 3.9	2.0mm以下の黒色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
43	22	82	須恵器 杯H b	3層	口径 (11.0) 器高 3.8	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰色(5Y5/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周 回転ヘラケズリ調整
44	22		須恵器 杯H a	5 a層	口径 (10.2) 器高 3.5	3.0mm以下の褐色・ 白色砂粒を含む	中	外 オリーブ灰色(2.5GY6/ 1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(10Y6/1・10Y5/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
45	22		須恵器 杯H c	5 a層	口径 (8.0) 器高 (3.0)	1.0mm大の黒色砂 粒、2.0~3.5mm大 の白色砂粒を多く 含む	硬	外 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断 灰白色(2.5Y7/1) 内 灰白色(10YR7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
46	22	82	須恵器 蓋B	4層	口径 (15.4) 器高 3.7	1.0mm大の白色砂 粒を少し含む	硬	外 灰色(N5/7) 内 灰色(N6/7)	・ロクロ回転方向 反時計廻り

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
47	22		須恵器 蓋B	3層	口径(13.8) 器高(2.5)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 青灰色(5BG6/1) 断 青灰色(5BG6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
48	22		須恵器 蓋G a	5 a層	口径(7.8) 器高 2.4	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
49	22		須恵器 杯G a	5 a層	口径(11.6) 器高(3.0)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N5/) 断 灰色(10Y5/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
50	22		須恵器 杯G c	4層	口径(10.4) 器高(3.6)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 緑灰色(5G5/1) 断 青灰色(5B5/1) 内 青灰色(5B5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
51	22		須恵器 杯G a	3層	口径(9.8) 器高(2.9)	0.5mm大の黒色砂 粒を含む	硬	外 灰白色(5Y8/1) 断 黄褐色(2.5Y5/6) 灰白色(5Y8/1) 内 黄褐色(2.5Y5/6) 灰白色(5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明
52	22	82	須恵器 蓋	5 a層	口径 20.4 器高 2.8	砂粒を含まない	硬	外 灰色(N5/) 断 灰色(N7/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部外周 ヘラミガキ調整
53	22		須恵器 蓋B	5 a層	口径(16.5) 器高 2.6	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 暗青灰色(5B4/1) 断 暗紫灰色(5RP4/1) 内 暗緑灰色(5G4/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
54	22		須恵器 蓋B	5 a層	口径(15.6) 器高 3.4	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N4/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
55	22		須恵器 蓋B	5 a層	口径(16.5) 器高 2.8	2.0mm以下の白・ 灰・褐色砂粒を含 む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 暗黄褐色(10YR4/2) オリーブ灰色(5GY5/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
56	22		須恵器 蓋B	5 a層	口径(16.4) 器高 2.2	1.5 mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 灰色(N4/) 断 灰色(N6・N4/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
57	22		須恵器 皿A	5 a層	口径(17.0) 器高(3.6)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N4/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
58	22	82	須恵器 杯A	4層	口径(14.4) 器高 4.3	2.5mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 褐灰色(10YR4/1) 内 ぶい赤褐色 (2.5YR5.4)	・ロクロ回転方向不明
59	22		須恵器 杯B	5 a層	口径(15.2) 器高 5.7	黒・白色砂粒を含 む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部回転ヘラケズリ調整
60	22	82	須恵器 杯B	4層	口径(17.8) 器高 5.5	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N5/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周 回転ヘラケズリ調整
61	22		須恵器 杯B	6層	口径(20.6) 器高 8.1	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 内 灰色(7.5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明
62	22		須恵器 杯B	3層	口径(14.3) 器高 4.0	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6/1) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
63	22		須恵器 杯B	5 a層	口径(14.0) 器高 4.5	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り ・底部外周 回転ヘラケズリ調整
64	22		須恵器 皿B	4層	口径(14.6) 器高 4.0	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(10Y6/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周 回転ヘラケズリ調整

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (ca, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
65	22		須恵器 皿B	5 a層	口径 (15.1) 器高 3.6	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰色(N5/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
66	22		須恵器 皿B	4層	口径 (22.8) 器高 4.7	2.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 青灰色(5B6/1) 断 灰白色(2.5GY8/1) 内 青灰色(5B5/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
67	23	82	須恵器 高杯H I	5 a層	口径 15.9 器高 17.0	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰オリーブ色(5Y6/2) 断 灰オリーブ色(5Y6/2) 内 灰オリーブ色(5Y6/2)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・スカシ2方向
68	23		須恵器 高杯H I	5 a層	口径 (13.9) 器高 16.2	3.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(2.5GY8/1) 釉 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ3方向
69	23	82	須恵器 蓋	4層	口径 13.8 器高 3.9	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(5GY5/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
70	23	82	須恵器 高杯H I	5 a層	口径 (11.4) 器高 13.3	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 黄灰色(2.5Y5/1) 断 黄灰色(2.5Y7/2) 内 黄灰色(2.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
71	23		須恵器 高杯H II	4層	口径 (12.7) 器高 6.4 底径 8.3	0.5~3.0mm大の白 色砂粒を含む	中	外 暗灰色(N3/) 灰色(N6/・N4/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
72	23	82	須恵器 高杯H II	6層	口径 (9.5) 器高 6.9 底径 (8.9)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	釉 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
73	23		須恵器 鉢A	4層	口径 (21.3) 器高 (12.0)	3.0mm以下の黒・ 白色砂粒を含む	軟	外 青灰色(5B6/1) 断 明青灰色(5B7/1) 内 青灰色(5B6/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・外面回転ヘラミガキ調整
74	23	83	須恵器 鉢A	4層	口径 (26.0) 器高 (10.5)	0.1~0.5mm大の白 色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰白色(2.5GY8/1) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向不明 ・外面・回転ヘラミガキ調 整
75	23	83	須恵器 鉢	3層	口径 (22.0) 器高 (5.6)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 黄灰色(2.5Y6/2) 内 灰色(10Y5/1)	・ロクロ回転方向不明
76	23	84	須恵器 鉢	4層	口径 (25.6) 器高 (13.5)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y4/1) 断 灰色(10Y4/1) 内 灰色(7.5Y4/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り ・底部静止ヘラケズリ調整
77	23	83	須恵器 碗	4層	口径 (11.0) 器高 (6.1)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
78	23	83	須恵器 碗	5 a層	口径 (14.0) 器高 (6.5)	黒・白色砂粒を含 む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
79	23	83	須恵器 鉢A	5 a層	口径 (21.0) 器高 (7.1)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰色(N4/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
80	23		須恵器 鉢A	5 a層	口径 (21.0) 器高 (7.2)	2.0mm以下の白・ 褐色砂粒、0.5mm 以下の黒色砂粒を 含む	軟	外 灰白色(5Y8/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明
81	23		須恵器 鉢	3層	口径 (8.7) 器高 8.2 底径 5.6	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	軟	外 灰白色(2.5Y7/1) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(2.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
82	23		須恵器 鉢	3層	口径 (11.8) 器高 (10.9)	白・黒色砂粒を含 む	中	外 灰白色(10YR7/1) 断 明褐灰色(7.5YR7/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
83	24	83	須恵器壺A	2層	口径 (7.3) 器高 (5.4)	1.5mm以下の白・灰・黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7.1) 灰色(5Y4.1) 断 灰色(5Y4.1) 内 灰色(5Y6.1)	・ロクロ回転方向不明
84	24	83	須恵器壺A	3層	口径 (6.2) 器高 (5.6)	1.0mm以下の白・黒色砂粒を含む	中	外 灰色(N5/) 灰白色(7.5Y7.1) 断 灰白色(7.5Y7.1) 内 灰色(N6/) 灰白色(7.5Y7.1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
85	24	84	須恵器壺A	2層	口径 (7.0) 器高 6.8	2.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7.1) 灰色(5Y4.1) 断 灰色(7.5Y6.1) 内 灰白色(5Y8.1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
86	24		須恵器 広口壺	3層	口径 (9.0) 器高 (10.4)	1.5mm以下の白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6.1) 断 灰白色(5Y7.1) 内 灰白色(7.5Y7.1)	・ロクロ回転方向不明
87	24	83	須恵器鉢	6層	口径 (13.4) 器高 (6.2)	2.0mm以下の白色砂粒、1.0mm以下の褐色砂粒を含む	中	外 灰白色(10Y8.1) 断 灰色(10Y5.1) 内 灰白色(10Y8.1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
88	24	84	須恵器鉢	3層	口径 (16.6) 器高 (12.9)	2.0mm以下の灰色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(5Y6.1) 断 灰色(5Y6.1) 内 灰色(5Y6.1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部ヘラ記号あり
89	24		須恵器壺A	3層	口径 (9.6) 器高 (8.0)	黒・白色砂粒を含む	硬	外 暗灰黄色(2.5Y5/2) 釉 灰オリーブ色(5Y5/2) 断 褐灰色(7.5YR6.1) 内 黄灰色(2.5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部刺突文 ・体部ヘラガキ文
90	24		須恵器壺L	3層	器高 (11.2)	4.0mm以下の白・灰・黒色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(5Y4.1・7.5Y6.1) 断 灰色(7.5Y4.1) 内 灰色(7.5Y6.1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部手持ちヘラケズリ調整 ・体部刺突文
91	24		須恵器壺	3層	器高 (15.2) 底径 (10.2)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(7.5Y7.1) 釉 オリーブ灰色(10Y4/2) 断 灰色(7.5Y5.1) 灰白色(7.5Y7.1) 内 灰白色(7.5Y7.1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・体部回転ヘラケズリ調整 ・底部不調整
92	24	84	須恵器壺A	4層	口径 (13.0) 器高 (14.3)	1.5mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 黄灰色(2.5Y6.1) 断 灰白色(2.5Y7.1) 内 灰色(7.5Y6.1)	・ロクロ回転方向不明
93	24		須恵器蓋	4層	口径 (4.5) 器高 2.4	黒・白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(5Y7.1)	・ロクロ回転方向不明
94	24	82	須恵器蓋	6層	口径 (6.7) 器高 (2.1)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 内 灰色(N4/)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部静止ヘラケズリ調整
95	24	82	須恵器蓋	4層	口径 4.4 器高 2.5	2.0mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 釉 灰オリーブ色(7.5Y5/3) 断 灰色(N5/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
96	24	83	須恵器壺L	5a層	口径 (5.1) 器高 (2.7)	2.0mm以下の黒・白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 灰白色(2.5GY8/1) 断 明オリーブ灰色(2.5GY7.1) 内 暗オリーブ灰(5GY4/1)	・ロクロ回転方向不明
97	24	83	須恵器壺L	5a層	口径 (12.2) 器高 (6.0)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰色(7.5Y6.1) 内 灰色(7.5Y6.1)	・ロクロ回転方向不明
98	24	84	須恵器平瓶	4層	器高 (4.5) 底径 8.1	1.0mm以下の黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 釉 暗オリーブ灰色(5GY3/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周回転ヘラケズリ調整
99	24		須恵器平瓶	4層	器高 (7.9)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(2.5GY5/1) 断 オリーブ灰色(5GY6.1) 内 オリーブ灰色(5GY5/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
100	24		須恵器蝓壺	4層	器高 9.5	砂粒を含まない	硬	外 灰白色(7.5Y7.1) 内 灰白色(7.5Y7.1)	・ロクロ回転方向不明

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
101	24		須恵器 甗	6層	口径 (12.1) 器高 (4.3)	2.0mm以下の白色砂粒、1.0mm以下の黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰色(N5/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
102	24		須恵器 甗	3層	器高 (10.9)	3.0mm以下の白色砂粒を多く含む	中	外 緑灰色(7.5GY5/1) 断 灰色(N6/) 内 オリーブ灰(2.5GY5/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
103	25	84	須恵器 横瓶	5 a層	口径 10.8 器高 (26.5)	砂粒を含まない	硬	外 灰白色(N5/) 断 灰赤色(7.5R5/2) 内 灰白色(N5/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面 擬格子状平行タタキ (4本/cm) カキ目(8~9本/cm)
104	25	84	須恵器 広口壺	4層	口径 (22.5) 器高 (41.5)	2.0mm以下の白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y4/1) 断 暗赤灰(10R4/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面格子状タタキ (3本/cm) ・体部内面同心円文のナデ 消し
105	25	84	須恵器 甗	4層	口径 (45.8) 器高 11.8 底径 (27.4)	2.0mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 灰白色(10Y7/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰白色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・把手部ヘラケズリ調整
106	25		須恵器 甗	3層	口径 (32.8) 器高 (6.3)	4.0mm大の白色小砂粒、2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N5/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・把手部手つくね整形
107	25		須恵器 甗	3層	口径 (32.0) 器高 (17.4)	0.1~0.5mm大の白色砂粒を含む	中	外 灰白色(2.5GY8/1) 断 灰白色(5Y8/2) 内 灰白色(5Y8/2)	・ロクロ回転方向不明 ・体部カキ目(7本/cm)
108	26		須恵器 広口壺	3層	口径 16.2 器高 (8.8)	白・褐色砂粒を含む	軟	外 浅黄色(2.5Y7/3) 断 橙色(5YR6/8) 内 浅黄色(2.5Y7/3)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面平行タタキ(3本/cm)の後カキ目(8本/cm)
109	26		須恵器 広口壺	6層	口径 (23.4) 器高 (10.6)	1.0~5.0mm大の白色小砂粒を含む	中	外 灰色(5Y6/1) 釉 暗オリーブ色(7.5Y4/3) 断 黄灰色(2.5Y6/2) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面カキ目(6本/cm) タタキ(4本/cm)
110	26		須恵器 甗	3層	口径 (28.5) 器高 (10.9)	白色砂粒を含む	硬	外 灰褐色(5YR5/2) 釉 灰オリーブ色(7.5Y5/3) 断 灰黄褐色(10YR6/2) 灰色(N5/) 内 黄灰色(2.5Y5/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・口縁部外面ヘラガキ文
111	26		須恵器 甗	3層	口径 (30.6) 器高 (12.6)	2.0mm以下の白色砂粒を多く含む	硬	外 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰白色(7.5Y7/1・N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部外面波状文 (6本/cm) ・体部外面タタキ(3本/cm)
112	26		須恵器 甗	6層	口径 (32.8) 器高 (7.6)	3.0mm大の白色砂粒を多く含む	中	外 灰色(10Y6/1) 釉 灰オリーブ色(7.5Y4/2) 断 灰色(N4/) 内 灰白色(5Y7/1) 釉 灰オリーブ色(5Y5/3)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部外面波状文 (6本/cm)
113	26		須恵器 甗	4層	口径 (51.6) 器高 (21.6)	3.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 黄灰色(2.5Y5/1) 断 黄灰色(2.5Y4/1) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部波状文(5本/cm) ・体部外面タタキ(3本/cm) カキ目(8本/cm)
114	27		土師器 皿	5 a層	口径 (10.0) 器高 (2.3)	白色砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR6/4) 断 明赤褐色(5YR5/6) 内 にぶい橙色(7.5YR6/4)	・底部不調整
115	27		土師器 皿	5 a層	口径 (11.4) 器高 (2.5)	1.0mm以下の褐色砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(5YR6/4) 断 にぶい橙色(5YR6/4) 内 にぶい橙色(5YR6/4)	・底部不調整
116	27	85	土師器 皿	5 a層	口径 (12.0) 器高 3.2	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 にぶい橙色(5YR6/6) 断 にぶい黄褐色(10YR7/2) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	・底部不調整
117	27	85	土師器 皿	5 a層	口径 (12.4) 器高 3.2	1.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 橙色(7.5YR6/6) 断 橙色(7.5YR7/6) 内 橙色(7.5YR7/6)	・底部不調整
118	27		土師器 皿	3層	口径 (11.0) 器高 (2.7)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	軟	外 浅黄褐色(10YR8/3) 断 浅黄褐色(10YR8/3) 内 浅黄褐色(10YR8/3)	・底部不調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
119	27	85	土師器 皿	3層	口径 (11.8) 器高 2.5	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を少し含 む	中	外 にぶい橙色(7.5YR6/4) 断 にぶい橙色(5YR7/4) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	・底部不調整
120	27	85	土師器 皿	3層	口径 (11.8) 器高 2.9	2.0mm以下の灰・ 褐色砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR6/4) 断 にぶい橙色(7.5YR6/4) 内 にぶい橙色(7.5YR6/4)	・底部不調整
121	27	85	土師器 皿	3層	口径 (11.7) 器高 2.5	1.5mm以下の褐色 砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR6/4) 断 にぶい橙色(7.5YR6/4) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	・底部不調整
122	27		土師器 皿	5 a層	口径 (12.0) 器高 2.7	1.5mm以下の白・ 灰・褐色砂粒を含 む	中	外 にぶい橙色(7.5YR7/4) 断 にぶい橙色(7.5YR7/3) 内 にぶい橙色(7.5YR7/3)	・底部不調整
123	27	85	土師器 皿	5 a層	口径 12.4 器高 2.9	黒色砂粒、2.0mm 以下の白色砂粒を 含む	硬	外 橙色(7.5YR7/6) 断 にぶい橙色(7.5YR7/3) 内 橙色(7.5YR7/6)	・底部不定方向のナデ調整
124	27	85	土師器 皿	3層	口径 (12.4) 器高 (2.7)	1.5mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR7/4) 断 にぶい橙色(7.5YR7/4) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	・底部不調整
125	27		土師器 皿	5 a層	口径 (13.0) 器高 (2.8)	2.0mm以下の灰・ 褐色砂粒を含む	中	外 にぶい黄橙色(10YR7/3) 断 にぶい黄橙色(10YR7/3) 内 にぶい黄橙色(10YR7/3)	・底部不調整
126	27	85	土師器 皿	3層	口径 (16.0) 器高 2.1	2.0mm以下の白・ 褐色砂粒を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR5/4) 断 明褐色(7.5YR5/6) 内 にぶい褐色(5YR6/4)	・底部不調整
127	27		土師器 皿	5 a層	口径 (20.0) 器高 (3.0)	1.0mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 橙色(5YR6/6) 断 にぶい黄橙色(10YR7/4) 内 にぶい黄橙色(10YR7/4)	・内面放射状暗文
128	27		土師器 皿	4層	口径 21.0 器高 2.9	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明赤褐色(2.5YR5/6) 断 明赤褐色(2.5YR5/6) 内 明赤褐色(2.5YR5/6)	・口縁部外面ヘラミガキ調 整 ・内面放射状暗文
129	27	85	土師器 杯	5 a層	口径 (14.0) 器高 (4.9)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 橙色(5YR6/6) 断 にぶい赤褐色(5YR5/4) 内 橙色(2.5YR6/6)	・内・外面ヘラミガキ調整
130	27	85	土師器 杯	5 a層	口径 (18.8) 器高 (5.5)	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明赤褐色(5YR5/6) 内 明赤褐色(5YR5/8)	・底部ヘラケズリ調整 ・内面にミガキ痕あり
131	27		製塩土器	4層	口径 (9.7) 器高 (6.1)	2.5mm以下の褐色 砂粒を含む	中	外 灰白色(2.5Y8/2) 断 灰白色(2.5Y8/2) 内 灰白色(2.5Y8/2)	
132	27		黒色土器 椀	5 a層	口径 (17.0) 器高 (13.5)	1.0mm以下の白色 砂粒、金雲母、雲 母を含む	中	外 にぶい黄橙色(10YR7/3) 断 にぶい黄橙色(10YR7/3) 内 黒色(N2/)	・内面ヘラミガキ調整
133	27		黒色土器 椀	5 a層	口径 (14.4) 器高 (4.2)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明赤褐色(5YR5/8) 断 明褐色(7.5YR5/6・5/8) 内 黒色(N2/)	・内面ヘラミガキ調整
134	27		黒色土器 椀	5 a層	口径 (16.0) 器高 (5.4)	1.0mm以下の白・ 褐色砂粒、金雲母、 赤色酸化粒を含む	中	外 明赤褐色(2.5YR5/8) 断 橙色(7.5YR6/6) 内 暗灰色(N3/)	・内面ヘラミガキ調整
135	28		土師器 甕A	3層	口径 (9.3) 器高 (7.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 橙色(5YR6/6) 断 橙色(5YR6/6) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	
136	28		土師器 甕A	5 a層	口径 (15.5) 器高 (13.9)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 暗赤褐色(5YR3/6) 断 褐色(7.5YR4/4) 内 褐色(7.5YR4/3)	

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
137	28		土師器 甕A	2層	口径 (14.2) 器高 (5.2)	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 褐色(10YR4/6) 断 ぶい黄褐色(10YR5/4) 内 灰黄色(2.5Y6/2)	
138	28		土師器 甕A	5 a層	口径 (17.4) 器高 (5.4)	5.0mm大の灰色小 石粒、4.0mm以下 の褐・白色砂粒を 多く含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR6/3) 断 ぶい褐色(5YR6/3) 内 灰黄褐色(10YR4/2)	・体部内・外面ハケメ
139	28		土師器 甕A	5 a層	口径 (20.4) 器高 (7.2)	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を多く含 む	中	外 明褐色(7.5YR5/6) 断 ぶい褐色(7.5YR6/4) 内 ぶい褐色(7.5YR6/4)	
140	28		土師器 鍋A	5 a層	口径 (24.1) 器高 (7.9)	白・黒色砂粒を含 む	硬	外 灰黄褐色(10YR5/2) 断 ぶい褐色(7.5YR6/4) 内 ぶい黄褐色(10YR6/3)	・口縁部内面ハケメ (8本/cm) ・体部内・外面ハケメ (8本/cm) の後ヘラケズリ調整
141	28		土師器 甕A	3層	口径 (18.4) 器高 (5.4)	2.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 明黄褐色(10YR6/6) 断 明赤褐色(5YR5/6) 内 褐色(5YR6/6)	
142	28		土師器 甕C2	5 a層	口径 (18.0) 器高 (3.9)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR5/4) 断 ぶい褐色(7.5YR6/4) 内 ぶい黄褐色(10YR5/3)	・体部外面ハケメ(10本/cm)
143	28		土師器 甕C2	3層	口径 (20.6) 器高 (5.7)	4.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 明黄褐色(10YR6/6) 断 ぶい黄褐色(10YR7/4) 内 褐色(7.5YR6/6)	
144	28		土師器 甕C2	4層	口径 (23.6) 器高 (8.4)	1.5mm以下の灰・ 白色砂粒を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR6/4) 断 ぶい黄褐色 (7.5YR6/4) 内 ぶい褐色(7.5YR6/4)	・口縁部内面ハケメ (10本/cm) ・体部外面ハケメ (10本/cm) 内面ヘラケズリ調整
145	28		土師器 甕C2	5 a層	口径 (25.0) 器高 (7.6)	5.0mm大の灰色小 石粒、2.0mm以下 の灰・白色砂粒を 含む	中	外 明黄褐色(10YR7/6) 断 ぶい黄褐色(10YR7/4) 内 ぶい黄褐色(10YR7/3)	・体部内・外面ハケメ (14本/cm)
146	28		土師器 甕C2	4層	口径 (25.0) 器高 (6.5)	3.0mm以下の灰・ 白色砂粒を多く含 む	中	外 にぶい褐色(7.5YR7/4) 断 褐色(7.5YR6/6) 内 ぶい黄褐色(10YR7/4)	・体部外面ハケメ (12~14本/cm)
147	28	85	土師器 甕C2	3層	口径 (25.4) 器高 (8.2)	1.0mm大の砂粒を 含む	硬	外 褐色(2.5YR6/8) 断 褐色(2.5YR6/8) 内 褐色(2.5YR6/8)	・口縁部内面ハケメ (7本/cm) ・体部外面ハケメ (6~8本/cm) ・体部内面ヘラケズリ、 後ハケメ、後ナデ調整
148	28	85	土師器 羽釜	4層	口径 (37.0) 器高 (8.5)	3.0mm以下の赤色 酸化粒を多く含む	中	外 明黄褐色(10YR7/6) 断 ぶい黄褐色(10YR7/3) 内 浅黄褐色(10YR8/4)	
149	29		土師器系 小皿	5 a層	口径 9.5 器高 1.7	砂粒を含まない	軟	外 浅黄褐色(10YR8/3) 内 浅黄褐色(7.5YR8/3)	・底部不調整
150	29		土師器系 小皿	4層	口径 (10.6) 器高 (1.3)	0.1~0.3mm大の白 色砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR7/4) 断 ぶい黄褐色(10YR7/4) 内 ぶい黄褐色(10YR7/4)	
151	29		瓦器 小皿	4層	口径 8.3 器高 2.1	砂粒を少し含む	中	外 暗灰色(N3/) 断 灰白色(2.5Y8/2) 内 黒色(N2/)	
152	29		瓦器 小皿	3層	口径 (8.6) 器高 (2.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(5Y4/1) 断 浅黄褐色(10YR8/3) 内 オリーブ黒色(5Y3/1)	・内面ヘラミガキ調整
153	29	86	瓦器 小皿	4層	口径 9.1 器高 2.1	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰白色(10Y7/1) 内 灰色(10Y4/1)	
154	29	86	瓦器 小皿	4層	口径 9.1 器高 2.0	2.0mm以下の灰色 砂粒、3.0mm大の 暗灰色小石粒を含 む	硬	外 暗灰色(N3/) 断 灰白色(10Y8/1) 内 灰色(N5/)	・内面ヘラミガキ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (ca. g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
155	29		瓦器 小皿	3層	口径 (10.0) 器高 2.5	1.5mm以下の黒・ 灰色砂粒を含む	中	外 オリーブ黒色(10Y3/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(7.5Y4/1)	・内面暗文あり
156	29		瓦器 小皿	3層	口径 (10.3) 器高 (2.5)	0.1mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N5/)	・内面暗文あり
157	29		瓦器 椀	4層	口径 (13.6) 器高 5.0	0.1mm大の黒色砂 粒を含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰白色(10Y8/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・内面暗文あり
158	29	86	瓦器 椀	4層	口径 (15.4) 器高 5.0	2.0mm以下の灰色 砂粒、2.0~4.0mm 大の茶色小石粒を 含む	軟	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N7/) 内 暗灰色(N3/)	・内面ヘラミガキ調整
159	29	86	瓦器 椀	4層	口径 (15.3) 器高 5.4	砂粒を含まない	硬	外 暗灰色(N3/) 断 灰白色(N7/) 内 暗灰色(N3/)	・内・外面ヘラミガキ調整
160	29		瓦器 椀	4層	口径 (16.2) 器高 5.1	2.0mm以下の灰色 砂粒、4.0~7.0mm 大の暗灰色小石粒 を含む	硬	外 灰色(N5/) 断 灰白色(N8/) 内 灰色(N6/)	・内面ヘラミガキ調整
161	29	86	瓦器系 羽釜	3層	口径 (26.2) 器高 (6.2)	2.0mm以下の灰白 砂粒を含む	中	外 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 断 灰白色(5Y7/2) 内 オリーブ黒色(7.5Y3/1)	・体部外面ヘラケズリ調整 内面ハケメ(10本/cm)
162	29		瓦器系 摺鉢	3層	口径 (22.0) 器高 (4.9)	3.0mm以下の砂粒 を多く含む	中	外 暗灰色(N3/) 断 橙色(7.5YR6/6) 内 橙色(7.5YR6/6)	・内面ハケメ(18本/cm) スリ目(5本/cm)
163	29		瓦器系 摺鉢	3層	口径 (31.0) 器高 (8.8)	0.1~0.3mm大の白 色砂粒を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR6/3) 断 にぶい褐色(7.5YR6/3) 内 灰褐色(7.5YR4/2)	・口縁部外面ハケメ (8本/cm) 内面スリ目(5本/cm)
164	29	86	瓦器系 羽釜	2層	口径 (21.8) 器高 (5.9)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含 む	中	外 にぶい褐色(7.5YR5/4) 断 にぶい赤褐色 (2.5YR5/4) 内 にぶい褐色(7.5YR5/3)	・体部外面ヘラケズリ調整 ・口縁部内面ハケメ (7本/cm)
165	29	86	土師器系 羽釜	3層	口径 (24.0) 器高 (4.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 橙色(5YR6/6) 内 にぶい黄褐色(10YR7/3)	
166	29	86	土師器 羽釜	3層	口径 (29.4) 器高 (6.4)	3.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR5/4) 断 にぶい褐色(7.5YR6/4) 内 にぶい黄褐色(10YR7/2)	・体部ヘラケズリ調整
167	30	86	須恵器系 鉢	4層	口径 (36.8) 器高 (8.0)	0.1~0.5mm大の白 色砂粒、1.0mm以 下の黒色砂粒を含 む	硬	外 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 断 紫灰色(5P6/1) 内 灰色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
168	30	86	須恵器系 鉢	4層	口径 (36.1) 器高 (5.8)	0.1~0.5mm大の白 色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
169	30	86	須恵器系 鉢	1層	口径 (36.4) 器高 (5.0)	0.1~0.3mm大の白 色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N8/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
170	31	87	白磁 椀	2層	口径 (13.4) 器高 (2.3)	砂粒を含まない	硬	釉 灰白色(10Y7/1) 断 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	
171	31	87	白磁 椀	3層	口径 (15.0) 器高 (2.9)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	釉 灰白色(5Y7/2) 断 灰白色(5Y7/1)	
172	31	87	白磁 椀	3層	口径 (15.6) 器高 (3.3)	1.0mm大の黒色砂 粒を少し含む	硬	釉 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断 灰白色(10Y7/1)	

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (ca, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
173	31	87	白磁 碗	3層	器高 (2.2)	砂粒を含まない	硬	釉 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断 灰白色(N8/) 露胎 灰白色(7.5Y7/1)	・底部外面 回転ヘラケズリ調整
174	31	87	白磁 碗	3層	器高 (2.7)	砂粒を含まない	硬	釉 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断 灰白色(7.5Y8/1) 露胎 灰白色(7.5Y7/1)	
175	31	87	白磁 鉢	3層	器高 (2.9)	1.0mm大の白色砂 粒を少し含む	硬	釉 明緑灰色(7.5GY7/1) 断 灰白色(10Y8/1) 露胎 灰白色(10Y8/1)	
176	31	87	白磁 皿	3層	口径 (13.1) 器高 (3.0)	砂粒を含まない	軟	釉 灰白色(10Y8/2) 断 灰白色(7.5Y8/2) 露胎 灰白色(7.5Y8/2)	
177	31	87	白磁 皿	3層	口径 (9.8) 器高 (1.6)	砂粒を含まない	硬	釉 灰白色(5GY8/1) 断 灰白色(7.5GY8/1) 露胎 灰白色(2.5GY8/1)	
178	31	87	白磁 皿	2層	器高 (1.5)	砂粒を含まない	硬	釉 灰白色(5GY8/1) 断 灰白色(7.5Y8/1)	
179	31	87	白磁 四耳壺	3層	口径 (11.4) 器高 (2.9)	1.0mm大の黒色砂 粒を含む	硬	釉 明オリーブ灰色 (5GY7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1)	
180	31	87	青磁 碗	3層	口径 (13.2) 器高 (3.6)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	釉 オリーブ灰色(10Y6/2) 断 灰白色(10Y7/1)	
181	31	87	青磁 碗	3層	口径 (13.6) 器高 (3.3)	砂粒を含まない	硬	釉 灰オリーブ色(7.5Y5/2) 断 灰色(7.5Y6/1)	
182	31	87	青磁 碗	3層	口径 (13.6) 器高 (3.8)	砂粒を含まない	硬	釉 灰オリーブ色 (7.5Y6/2・5/2) 断 灰白色(10Y7/1)	
183	31		青磁 碗	1層	口径 (14.0) 器高 (3.3)	砂粒を含まない	中	釉 オリーブ灰色(10Y5/2) 断 灰色(7.5Y4/1)	
184	31	87	青磁 碗	2層	口径 (14.5) 器高 (3.8)	砂粒を含まない	硬	釉 オリーブ灰色 (10Y5/2・4/2) 断 灰色(10Y6/1)	
185	31	87	青磁 碗	3層	口径 (14.8) 器高 (4.8)	砂粒を含まない	硬	釉 明緑灰色(7.5GY7/1) 緑灰色(7.5GY5/1) 断 灰白色(10Y8/1)	
186	31	87	青磁 碗	3層	口径 (15.5) 器高 (4.3)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	釉 うす緑色 断 灰白色(7.5Y7/1)	
187	31	87	青磁 碗	3層	口径 (16.2) 器高 (2.1)	砂粒を含まない	硬	釉 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断 灰白色(7.5Y7/1)	
188	31	87	青磁 碗	3層	器高 (3.6)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	釉 オリーブ灰色(10Y5/2) 断 灰色(10Y6/1)	
189	31	87	青磁 碗	2層	器高 (2.2)	砂粒を含まない	硬	釉 オリーブ灰(10Y6/2) 断 灰白色(5Y7/1) 露胎 灰オリーブ色(5Y6/2)	
190	31	87	青磁 碗	3層	器高 (2.6)	1.0mm以下の黒色 砂粒を含む	中	釉 明オリーブ灰色 (5GY7/1) 緑灰色(7.5GY6/1) 断 明オリーブ灰色 (5GY7/1)	
191	31	87	青磁 杯	3層	口径 (13.6) 器高 (3.5)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	釉 オリーブ灰色(10Y5/2) 断 灰白色(7.5Y8/1)	

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
192	31	87	青磁 杯	2層	口径 (21.0) 器高 (2.4)	砂粒を含まない	硬	釉 明緑灰色(5G7/1) 断 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	
193	31	87	青花 碗	3層	器高 (1.5)	1.0mm大の黒色砂 粒を少し含む	硬	釉 明緑灰色(7.5GY8/1) 断 灰白色(10Y8/1) 呉須(濃) 青黒色(10BG2/1) (淡) 青灰色(10BG6/1)	
194	31	87	青花 皿	1層	器高 (1.1)	砂粒を含まない	硬	釉 明緑灰色(10GY8/1) 断 灰白色(10Y8/1) 露胎 灰白色(5Y8/2) 呉須(濃) 青黒色 (10BG1・7/1) (淡) 青灰色(5B5/1)	
195	32	88	軒丸瓦	384-OS	厚さ 2.7	1.0mm大の砂粒を 多く含む	中	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	
196	32	88	軒丸瓦	3層	厚さ 2.3	砂粒を含まない	軟	外 明灰黄色(2.5Y5/2) 断 黄灰色(2.5Y6/1) 内 灰色(5Y5/1)	
197	32	88	鴟尾	3層	厚さ 2.1	4.0~5.0mm大の小 石粒を含む	中	外 灰色(10Y5/1) 断 灰白色(10Y8/2) 内 灰色(10Y5/1)	・ヘラ切り・ナデ調整
198	32	88	鴟尾	4層	厚さ 0.6	砂粒を含まない	中	外 灰色(10Y5/1) 断 灰白色(10Y8/2) 内 灰色(10Y5/1)	・ヘラで成形
199	32		丸瓦	4層	厚さ 1.7	5.0mm大の赤褐色 小石粒、2.0mm以 下の赤褐色砂粒を 含む	中	凸 灰白色(10YR8/1) 黒褐色(10Y3/1) 断 明褐色(7.5YR5/6) 凹 灰白色(10YR8/1)	・凸面 縄目タタキ (4本/cm) ・凹面 布目(10本/cm)
200	32	89	平瓦	4層	厚さ 1.7	砂粒を含まない	中	凸 灰色(5Y5/1) 断 灰白色(5Y8/1) 凹 灰色(5Y5/1)	・凹面 布目(11~12本/cm) ・ユミ跡あり
201	32	89	平瓦	1681-OS	厚さ 2.1	砂粒を含まない	中	凸 灰色(5Y5/1) 断 灰白色(5Y8/1) 凹 灰白色(5Y8/1)	・模骨幅(2.9~3.4cm) ・凹面 布目(11本/cm)
202	32	89	平瓦	970-00	厚さ 1.7	砂粒を含まない	中	凸 灰色(5Y5/1) 断 灰白色(5Y8/1) 凹 灰白色(5Y8/1)	・凹面 布目(11本/cm) ・ユミ跡が顕著
203	33		平瓦	5 a層	厚さ 1.6	5.0~7.0mm大の黒色 小石粒、1.0mm 以下の黒・茶褐色 砂粒を含む	硬	凸 浅黄色(5Y7/3) 断 にぶい橙色(7.5YR6/3) 凹 灰黄褐色(10YR4/2)	・凸面縄目タタキ(4本/cm) ・凹面布目(9本/cm)
204	33		平瓦	1705-OS	厚さ 1.6	4.0mm以下の黒・ 白・赤褐色砂粒を 含む	軟	凸 淡黄色(5Y8/3) 灰オリーブ色(5Y4/2) 断 淡黄色(5Y8/3) 凹 オリーブ黒色(5Y3/1)	・凸面縄目タタキ(5本/cm) ・凹面布目(6本/cm)
205	33		平瓦	1705-OS	厚さ 2.2	3.0~5.0mm大の黒色 小石粒を含む	硬	凸 明青灰色(5B7/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 凹 灰白色(7.5Y8/1)	・模骨幅(3.0cm) ・凹面布目(10本/cm)
206	33		平瓦	1705-OS	厚さ 2.2	6.0mm以下の黒色 小石粒、2.0mm以 下の黒・茶褐色砂 粒を含む	中	凸 にぶい黄橙色(10Y7/4) 断 灰色(7.5Y6/1) 凹 灰白色(7.5Y8/1)	・模骨幅(3.0cm) ・凹面布目(10本/cm)
207	34	90	土錘	3層	長 9.3 幅 2.6 内径 1.0 重 64.950	1.0mm大の赤褐・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(10YR8/2) 断 明黄褐色(10YR7/6) 内 黒色(10YR2/1)	
208	34	90	土錘	2層	長 3.4 幅 1.2 内径 0.2 重 3.450	1.0mm以下の黒色 砂粒を多く含む	中	外 橙色(2.5YR6/6) 内 明赤褐色(2.5YR5/6)	

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
209	34	90	フィゴの羽口	3層	長幅 6.4 5.0 内径 1.8	2.0mm以下の黒・赤褐色砂粒を含む	中	外 黄褐色(10YR7/8) 断 灰白色(7.5YR8/1) 内 灰白色(7.5YR8/2)	
210	34	90	不明鉄製品	3層	長幅 2.545 2.535 厚さ 0.525 0.370 重 3.430				
211	34	90	鋤先	4層	長幅 7.210 2.415 5.190 厚さ 0.950 重 31.930				
212	34	90	巡方	2層	長幅 3.700 3.900 厚さ 0.800 重 24.800				
386	80	103	弥生土器甕	2461-OD	口径 (22.2) 器高 (4.0)	2.0mm以下の黒・白色砂粒を含む	軟	外 橙色(7.5YR7/6) 断 にぶい橙色(7.5YR7/4) 内 灰白色(2.5Y7/1)	
387	80	103	弥生土器甕	2461-OD	器高 (2.9) 底径 7.3	1.0~2.0mm大の白・茶・黒色砂粒を多く含む	軟	外 黒褐色(10YR3/1) 断 明黄褐色(10YR6/6) 内 にぶい黄褐色(10YR7/4)	
388	83	103	弥生土器広口壺	3109-OO	器高 (22.7)	2.0~5.0mm大の白色小石粒を含む	中	外 にぶい赤褐色(5YR5/3) 断 にぶい赤褐色(5YR4/3) 内 明赤褐色(5YR5/6)	
389	85	103	弥生土器広口壺	313-OO	口径 (21.4) 器高 29.6 底径 7.5	1.0mm大の白色砂粒を多く含む	軟	外 橙色(7.5YR7/6) 断 橙色(7.5YR7/6) 内 淡橙色(5YR8/4)	
390	85	103	弥生土器甕	313-OO	器高 (13.0) 底径 (14.0)	1.0mm大の砂粒を多く含む	硬	外 明褐色(7.5YR7/2) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 浅黄褐色(7.5YR8/3)	
391	87	103	弥生土器広口壺	3117-OO	口径 (17.7) 器高 43.5 底径 10.0	2.0~6.0mm大の白・灰色小石粒を含む	中	外 にぶい赤褐色(5YR5/3) 断 にぶい赤褐色(5YR5/4) 内 にぶい橙色(5YR6/4)	
392	87	103	弥生土器甕	3117-OO	口径 44.6 器高 30.6 底径 8.8	2.0~3.0mm大の白・灰色砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(5YR6/4) 断 にぶい褐色(7.5YR6/3) 内 褐色(7.5YR6/6)	
393	89	104	弥生土器広口壺	2441-OO	口径 27.4 器高 (16.5)	1.0~3.0mm大の白色砂粒を多く含む	硬	外 にぶい褐色(7.5YR5/3) 断 黒褐色(10YR3/1) 内 浅黄褐色(7.5YR8/3)	
394	89		弥生土器広口壺	2441-OO	口径 30.0 器高 (15.8)	1.0~4.0mm大の白色砂粒を含む	軟	外 浅黄褐色(7.5YR8/4) 断 浅黄褐色(7.5YR8/4) 内 浅黄褐色(7.5YR8/4)	
395	89		弥生土器広口壺	2441-OO	口径 (24.3) 器高 (2.0)	1.5mm以下の黒色砂粒を多く含む	硬	外 褐色(7.5YR6/6) 断 灰褐色(7.5YR4/2) 内 褐色(7.5YR6/6)	
396	89	104	弥生土器台付無頸壺	2441-OO	口径 14.0 器高 (10.3)	1.0~3.0mm大の白色砂粒・角閃石を多く含む	中	外 褐色(7.5YR4/4) 断 褐色(7.5YR4/4) 内 褐色(7.5YR4/4)	
397	89	104	弥生土器甕	2441-OO	口径 (13.1) 器高 (18.1)	1.0~2.0mm大の白色砂粒を多く含む	硬	外 黒褐色(5YR3/1) 断 黒褐色(5YR2/1) 内 黒褐色(5YR2/1)	
398	89	104	弥生土器台付無頸壺	2441-OO	口径 (21.2) 器高 (8.8)	1.0~3.0mm大の白色砂粒・角閃石を多く含む	硬	外 暗赤褐色(5YR3/6) 断 赤褐色(5YR4/8) 内 赤褐色(5YR4/8)	
399	93	105	須恵器蓋Ha	325-OD	口径 13.3 器高 (3.4)	2.0mm大の白色砂粒を多く含む	中	外 青灰色(5BG5/1) 釉 灰白色(10Y7/1) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向時計廻り

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法的特徴
400	93	105	須恵器 蓋H a	325-OD	口径 14.1 器高 3.2	1.0~2.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 暗灰色(N3/ 断 青灰色(5B5 1) にぶい赤褐色 (2.5YR4 3) 内 灰色(N4)	・ロクロ回転方向 時計廻り
401	93	105	須恵器 蓋H b	325-OD	口径 14.0 器高 4.1	2.0~4.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(10BG4 1) 断 青灰色(10BG5 1) 内 青灰色(5BG5 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・天井部外周 回転ヘラケズリ調整
402	93	105	須恵器 杯H c	325-OD	口径 (12.6) 器高 3.5	1.0~2.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 青灰色(10BG5 1) 断 青灰色(5BG5 1) 内 青灰色(5BG5 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・底部不調整
403	93	105	須恵器 杯H a	325-OD	口径 12.6 器高 4.3	1.0mm大の白色砂粒を多く含む	軟	外 にぶい黄褐色(10YR7 3) 断 灰白色(2.5Y8 2) 内 灰白色(2.5Y8 2)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
404	93	105	須恵器 杯H a	325-OD	口径 12.2 器高 4.2	2.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 青灰色(5B5 1) 断 青灰色(5B6 1) 内 青灰色(5B6 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・底部内面同心円文あり
405	93	105	須恵器 無蓋高杯H a II	325-OD	口径 12.6 器高 7.5 底径 8.4	1.0~5.0mm大の白色砂粒を多く含む	軟	外 青灰色(5GB6 1) 断 緑灰色(5G5 1) 内 青灰色(5BG6 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
406	93	105	須恵器 台付碗	325-OD	口径 10.2 器高 10.4 底径 8.3	1.0mm大の白色砂粒を多く含む	軟	外 灰色(10Y6 1) 断 灰色(10Y6 1) 内 灰色(10Y6 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
407	93	105	須恵器 壺A	325-OD	口径 3.8 器高 3.5	2.0mm大の白色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰色(N5) 内 灰色(N5)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周静止 ヘラケズリ調整
408	93	105	須恵器 広口壺	325-OD	器高 9.0	1.0~4.0mm大の白色砂粒を含む	軟	外 灰色(N5) 断 灰黄色(2.5Y7/2) 断 灰白色(10Y8 1) 内 灰白色(10Y8 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
409	93		土師器 甗	325-OD	口径 (22.5) 器高 27.5 底径 11.5	1.0~2.0mm大の白色砂粒を多く含む	硬	外 橙色(10YR6 8) 断 橙色(7.5YR7 6) 内 橙色(7.5YR7 6)	・体部外面ハケメ(10本/cm) 内面ナデ調整
410	95		須恵器 碗	1179-OD	口径 (11.2) 器高 6.0	2.0mm以下の黑色砂粒を含む	硬	外 灰オリーブ色(5Y6 2) 断 灰色(5Y6 1) 内 灰色(7.5Y6 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
411	97		須恵器 杯G a	366-OD	口径 (12.0) 器高 (3.9)	1.0~4.0mm大の白色砂粒を多く含む	硬	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 オリーブ黒色(10Y3/1) 断 灰色(N4) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
412	97		須恵器 杯H c	366-OD	口径 (10.7) 器高 3.8	1.0~3.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N4) 断 灰色(10Y6 1) 内 灰色(10Y6 1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
413	97		須恵器 杯H c	366-OD	口径 (10.4) 器高 (3.4)	1.0mm大の白色砂粒を少し含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰色(10Y6) 内 灰色(10Y6)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
414	97		須恵器 蓋	366-OD	口径 (13.0) 器高 4.0	1.0~2.0mm大の白色砂粒を多く含む	硬	外 灰白色(10Y8 1) 断 灰オリーブ色(7.5Y5/2) 断 赤褐色(10R4/3) 内 灰白色(10Y8 1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
415	97	106	須恵器 高杯Ha I	366-OD	口径 11.0 器高 13.4 底径 12.1	1.0mm大の白色砂粒を含む	軟	外 灰白色(10Y7/1) 断 灰色(10Y5/1) 内 灰白色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り ・スカシ2方向
416	97		須恵器 広口壺	366-OD	口径 (17.2) 器高 (4.5)	1.0~2.0mm大の白色砂粒を含む	中	外 青灰色(5BG6/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6 1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY6 1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面 擬格子状平行タタキ (3本/cm)の後、カキ目 (8本/cm)
417	99	106	土師器 甗A	241-OD	口径 (12.1) 器高 (10.3)	1.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 暗褐色(7.5YR3/3) 内 明赤褐色(5YR5 6) にぶい黄褐色(10YR4/3)	・体部外面ハケメ(10本/cm) 内面ヘラケズリ調整 ・口縁部内面ハケメ (8~9本/cm)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
418	99	106	土師器 碗A	241-OD	口径 10.6 器高 (6.4)	赤色酸化粒、1.0 ～2.0mm大の白色 砂粒を含む	中	外 明赤褐色(5YR5/8) 断 浅黄褐色(10YR8/4) 内 橙色(7.5YR6/6)	・外面ハケメ(10本/cm) の後ヘラミガキ調整
419	101		須恵器 杯H	3150-OD	口径 (13.2) 器高 (2.7)	2.5mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(5Y5/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
420	101		須恵器 鉢	3150-OD	口径 (12.4) 器高 (3.8)	4.0mm大の白色小 石粒、2.0mm以下 の白色砂粒を含む	硬	外 青灰色(5B6/1) 断 灰色(N6/) 内 青灰色(5B6/1)	・ロクロ回転方向不明
421	103	106	須恵器 蓋H a	1805-OD	口径 12.0 器高 3.4	白色砂粒を少し含 む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向 時計廻り
422	103	106	須恵器 杯H a	1805-OD	口径 11.8 器高 4.3	白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
423	103		須恵器 杯	1805-OD	口径 (12.8) 器高 (4.3)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
424	103		須恵器 高杯Ha I	1805-OD	口径 (10.6) 器高 (4.0)	黒・白色砂粒、 3.5・8.0mm大の灰 色小石粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
425	105	106	須恵器 高杯Hc I	3231-OD	口径 12.6 器高 14.6 底径 (14.0)	2.5mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰白色(5Y8/2)	・ロクロ回転方向 ・スカシ2方向
426	107		須恵器 杯H a	1916-OD	口径 (11.9) 器高 (3.5)	4.0mm大の白色小 石粒、1.0mm以下 の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰色(N6/) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
427	109		須恵器 蓋H a	1281-OD	口径 (14.8) 器高 (3.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 緑灰色(10GY6/1) 断 緑灰色(10GY6/1) 内 緑灰色(10GY6/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
428	109		須恵器 蓋H a	1281-OD	口径 (13.0) 器高 4.0	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5B5/1) 断 暗赤灰色(5R4/1) 内 青灰色(5B5/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
429	109		須恵器 蓋H c	1281-OD	口径 (12.2) 器高 4.0	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 時計廻り ・天井部不調整
430	109	107	須恵器 蓋H a	1281-OD	口径 (12.4) 器高 (2.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5B4/1) 青灰色(5B5/1) 断 暗青灰色(5B4/1) 内 青灰色(5B6/1)	・ロクロ回転方向不明
431	109		須恵器 杯H c	1281-OD	口径 (12.0) 器高 (3.9)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N5/) 断 緑灰色(10GY6/1) 内 緑灰色(10GY6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
432	109	107	須恵器 杯H a	1281-OD	口径 11.6 器高 4.3	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(5GY6/1) 断 灰黄褐色(10YR6/2) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向 反時計廻り
433	109		須恵器 杯H a	1281-OD	口径 11.6 器高 (3.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5BG4/1) 断 緑灰色(10G5/1) 内 暗青灰色(5BG4/1)	・ロクロ回転方向 時計廻り
434	109		須恵器 杯H a	1281-OD	口径 (11.5) 器高 (3.1)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 緑灰色(10GY6/1) 断 緑灰色(10GY6/1) 内 緑灰色(10GY6/1)	・ロクロ回転方向不明 時計廻り
435	109	107	須恵器 高杯Ha I	1281-OD	口径 13.0 器高 (11.7)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 緑灰色(10GY6/1) 断 緑灰色(10GY6/1) 内 緑灰色(10GY6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
436	109		須恵器 高杯H1	1281-OD	器高 (7.7) 底径 (13.0)	1.0mm以下の砂粒 を含む	中	外 灰色(N5) 断 青灰色(5B5 1) 内 青灰色(5B5 1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ3方向
437	109	107	須恵器 碗	1281-OD	口径 (12.9) 器高 (7.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 青黒色(5PB2 1) 断 紫灰色(5P5 1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部波状文(3本/cm)
438	109		須恵器 広口壺	1281-OD	口径 (19.5) 器高 (4.6)	1.0mm以下の砂粒 を含む	中	外 灰色(N6) 断 灰白色(7.5Y8 1) 内 灰白色(7.5Y8 1)	
439	109		須恵器 広口壺	1281-OD	口径 (18.9) 器高 (7.3)	1.0mm以下の砂粒 を含む	軟	外 灰白色(10Y8) 断 灰白色(10Y8) 内 灰白色(10Y8)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面タタキ(3本・cm) の後・カキ目(6本・cm)
440	110	107	須恵器 蓋Hc	1405-OD	口径 (14.4) 器高 (4.7)	白色砂粒3.0mm大 の灰色小石粒を含 む	中	外 灰色(5Y6 1) 断 灰黄褐色(10YR5 2) 内 黄灰色(2.5Y6 1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部不調整
441	110		須恵器 蓋Ha	1405-OD	口径 (12.2) 器高 (3.9)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6 1) 断 灰色(7.5Y6 1) 内 灰色(5Y6 1)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
442	110		須恵器 杯Hb	1405-OD	口径 (10.2) 器高 3.1	白色砂粒3.5~7.0 mm大の小石粒を含 む	硬	外 灰色(N6) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6 1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY5 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周回転ヘラケズリ 調整
443	112	107	須恵器 杯Ha	2836-OD	口径 (12.3) 器高 4.0	2.0mm以下の黒・ 白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7) 断 オリーブ灰色(10Y5 2) 内 灰白色(5Y7 1)	・ロクロ回転方向不明
444	112	107	須恵器 杯Hc	2836-OD	口径 (11.8) 器高 4.2	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y4 1) 断 暗褐色(7.5Y3 3) 内 灰色(10Y4 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整 ・底部内面同心円文
445	112	107	須恵器 高杯Ha1	2836-OD	口径 12.3 器高 (16.1)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰色(N6) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向反時計 廻り ・スカシ2方向
446	114	108	須恵器 蓋Ha	3032-OD	口径 (15.1) 器高 (3.2)	1.5mm大の白・灰 色砂粒を含む	硬	外 灰オリーブ色(5Y6 2) 断 灰オリーブ色(5Y6 2) にふい橙色(7.5Y6 4) 内 灰白色(10Y7 1)	・ロクロ回転反時計廻り
447	114		須恵器 蓋Ha	3032-OD	口径 (15.8) 器高 4.1	2.0mm以下の灰・ 黒色砂粒を含む	中	外 浅黄色(2.5Y7 3) 断 浅黄色(2.5Y7 3) 内 浅黄色(2.5Y7 3)	・ロクロ回転方向時計廻り
448	114	108	須恵器 杯H	3032-OD	口径 (14.7) 器高 (3.4)	4.0mm大の灰色小 石粒、1.5mm以下 の灰色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y8 1) 断 灰白色(7.5Y8 1) 内 灰白色(7.5Y8 1)	・ロクロ回転方向時計廻り
449	153		須恵器 蓋H	1613-OB (3517-OP)	口径 (15.0) 器高 (1.9)	白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 断 暗オリーブ灰色 (2.5GY4 1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明
450	153	108	須恵器 杯Gc	1623-OB (24-OP)	口径 (12.4) 器高 (3.7)	0.1~0.5mm大の白 色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7) 断 灰白色(7.5Y7 1) 内 灰白色(5Y7 1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
451	153	108	須恵器 蓋Gもしくは B	1548-OB (554-OP)	口径 14.4 器高 3.2	3.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り
452	153	108	須恵器 皿	2168-OB (2173-OP)	口径 (13.8) 器高 (1.5)	1.0mm大の黒・茶 褐色砂粒を含む	硬	外 灰白色(10Y7 1) 断 灰色(10Y5 1) 内 灰色(10Y6 1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
453	153	108	須恵器 杯B	1624-OB (23-OP)	器高 (3.4)	1.0mm以下の砂粒 を少し含む	中	外 青灰色(10BG5 1) 断 青灰色(10BG5 1) 内 青灰色(10BG6 1)	・ロクロ回転方向不明

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
454	153	108	土師器 杯A	1624-OB (27-OP)	口径 (13.8) 器高 3.0	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(10YR8/2) にぶい橙色(7.5YR7/4) 断 灰白色(10YR8/2) にぶい橙色(7.5YR7/4) 内 灰白色(10YR8/2) にぶい橙色(7.5YR7/4)	
455	154	108	紡錘車	1233-OP	直径 3.600 厚さ 0.800			上面 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 断面 灰色(7.5Y5/1) 下面 灰オリーブ色(5Y6/2)	
456	157		須恵器 蓋H b	206-OS	口径 (13.2) 器高 (4.3)	白色砂粒、黒色還元 粒を多く含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周回転ヘラケズリ調整
457	157	109	須恵器 蓋H c	206-OS	口径 (11.3) 器高 3.9	白色砂粒を少し含む	硬	外 灰白色(N7) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部不調整
458	157		須恵器 蓋H c	206-OS	口径 (12.4) 器高 (3.6)	1.0~3.0mm大の砂 粒を含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周回転ヘラケズリ調整
459	157	109	須恵器 杯H b	206-OS	口径 10.5 器高 4.3	1.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 断 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ調整
460	157		須恵器 杯H a	206-OS	口径 (10.8) 器高 3.5	1.0mm大の砂粒を 少し含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(10Y4/1) 内 暗赤灰色(7.5R4/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
461	157		須恵器 杯H a	206-OS	口径 (9.8) 器高 3.5	2.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰赤色(7.5R5/2) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
462	157	109	須恵器 蓋G a	206-OS	口径 (11.5) 器高 3.6	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	外 青灰色(10BG5/1) 断 暗青灰色(10BG4/1) 内 青灰色(10BG5/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
463	157	109	須恵器 蓋G a	206-OS	口径 11.0 器高 3.4	砂粒を少し含む	軟	外 灰白色(7.5Y8/2) 灰色(10Y6/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
464	157		須恵器 蓋G a	206-OS	口径 (10.8) 器高 (12.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	中	外 灰色(N5) 断 灰色(N5) 内 灰色(N5)	・ロクロ回転方向時計廻り
465	157	109	須恵器 蓋G a	206-OS	口径 10.6 器高 3.2	1.0mm大の砂粒を 多く含む	硬	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り
466	157	109	須恵器 蓋G a	206-OS	口径 10.2 器高 2.9	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	外 暗オリーブ灰色 (7.5Y4/3) 断 緑灰色(10GY5/1) 内 青灰色(5BG5/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
467	157		須恵器 蓋G a	206-OS	口径 9.6 器高 2.9	1.0~2.0mm大の砂 粒を含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰色(N5) 内 灰色(N5)	・ロクロ回転方向時計廻り
468	157		須恵器 杯G b	206-OS	口径 9.0 器高 3.7	2.0mm大の砂粒を 含む	硬	外 灰色(N4) 断 灰色(N5) 内 灰色(N5)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ調整
469	157	109	須恵器 杯G c	206-OS	口径 (10.0) 器高 4.0	砂粒を含む	硬	外 灰白色(10Y8/1) 断 灰白色(10Y8/1) 内 灰白色(10Y8/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部ヘラ切りの後、簡単なナデ調整
470	157	109	須恵器 杯G c	206-OS	口径 (9.6) 器高 3.4	1.0mm以下の砂粒 を含む	硬	外 灰白色(N7) 断 灰色(N5) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部ヘラ切りの後、簡単なナデ調整
471	157	109	須恵器 杯G c	206-OS	口径 9.4 器高 3.6	1.0mm大の白色粒 を含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
472	157	110	須恵器 杯G c	206-OS	口径 (10.4) 器高 3.6	1.0~2.0mm大の砂 粒を少し含む	硬	外 青灰色(5BG6/1) 灰色(N5/) 断 暗青灰色(5BG4/1) 内 青灰色(5BG6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
473	157		須恵器 杯G c	206-OS	口径 10.4 器高 3.4	1.0mm以下の砂粒 を含む	中	外 明オリブ灰色 (2.5GY7/1) 断 明緑灰色(7.5GY7/1) 内 明緑灰色(7.5GY7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
474	157		須恵器 杯G	206-OS	口径 (11.8) 器高 4.0	1.0~2.0mmの砂粒 を含む	軟	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部ヘラ切りの後・簡単 なナデ調整
475	157		須恵器 杯A	206-OS	口径 (12.7) 器高 (3.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	中	外 灰色(N5/) 断 灰色(N4/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
476	157		須恵器 高杯H a	206-OS	口径 (11.5) 器高 (4.2)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 明オリブ灰色 (2.5GY7/1) 断 明オリブ灰色 (2.5GY7/1) 内 明オリブ灰色 (2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
477	157		須恵器 高杯	206-OS	器高 底径 (4.1) 8.7	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5BG5/1) 断 青灰色(5BG5/1) 内 青灰色(5BG5/1)	・ロクロ回転方向不明
478	157	110	須恵器 皿	206-OS	口径 (28.4) 器高 (5.6)	2.0mm以下の黒色 砂粒を多く含む	軟	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
479	157		須恵器 皿	206-OS	器高 底径 (11.9) 15.2	2.0~5.0mm大の黒色 砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR7/2) 断 灰白色(7.5Y8/2) 内 灰白色(10YR7/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
480	157	110	須恵器 鉢A	206-OS	口径 (16.4) 器高 (9.6)	3.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 明赤灰色(5R7/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
481	157		須恵器 鉢A	206-OS	口径 20.2 器高 5.9	白・黒色砂粒を少し 含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰色(5Y6/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・外面回転ヘラミガキ調整
482	157		須恵器 皿	206-OS	口径 (23.2) 器高 (4.7)	2.5mm以下の白・ 灰・褐色砂粒を含む	中	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
483	157	110	須恵器 皿	206-OS	口径 (25.0) 器高 (5.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(7.5Y4/1) 内 灰色(10Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
484	158	110	須恵器 壺A	206-OS	口径 3.2 器高 5.8	2.0mm~8.0mm大の 小石粒を含む	硬	外 オリブ灰色 (2.5GY5/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(7.5Y5/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・底部不調整
485	158	110	須恵器 壺A	206-OS	口径 5.6 器高 7.8	1.0~2.0mm大の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部静止ヘラケズリ調整
486	158		須恵器 壺A	206-OS	口径 (6.8) 器高 (4.5)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	外 灰色(N6/) 断 赤灰色(2.5YR4/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
487	158	110	須恵器 壺A	206-OS	口径 (8.0) 器高 7.6	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5BG4/1) 断 暗青灰色(5BG4/1) 内 暗青灰色(5BG4/1)	・ロクロ回転方向不明
488	158	110	須恵器 壺A	206-OS	口径 (3.4) 器高 (9.4)	白・黒色砂粒、2. 0~4.5mm大の白・ 灰色小石粒を含む	中	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面擬格子状 タタキ(4本・cm)の後、 ナデ調整
489	158		須恵器 蛸壺	206-OS	器高 (7.5)	1.0~2.0mm大の白色 砂粒を含む	硬	釉 オリブ灰色(10YR4/2)	

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
490	158		須恵器 竇壺	206-OS	器高 (8.6)	1.0mm以下の白色砂粒を少し含む	中	外 灰白色(N7) 断 灰白色(N4) 内 灰白色(N5)	・ロクロ回転方向不明
491	158		須恵器 大口壺	206-OS	器高 (11.3)	2.0mm以下の白・灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6・5Y6 1) 断 暗オリーブ灰色(2.5GY4 1) 内 暗オリーブ灰色(2.5GY4 1) 暗緑灰色(10GY4 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部回転ヘラケズリ
492	158		須恵器 甗	206-OS	器高 (7.5) 底径 (6.4)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7) 断 灰白色(10Y7 2) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面刺突文(4本/cm) クシ目文(7本/cm)
493	158		須恵器 甗	206-OS	器高 (10.4)	1.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部、体部外面刺突文(3本/cm) ・底部内面突き出し痕あり
494	158		須恵器 大口壺	206-OS	口径 (12.6) 器高 (4.1)	1.0mm以下の白色砂粒を少し含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰色(N6) 内 灰色(10Y5 1)	・ロクロ回転方向不明
495	158	111	須恵器 大口壺	206-OS	口径 (13.1) 器高 (21.9)	3.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 暗オリーブ灰色(5GY4 1) 断 オリーブ灰色(2.5GY5 1) 内 暗オリーブ灰色(2.5GY4 1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面タタキ(4本/cm) の後カキ目(6本/cm)
496	158		須恵器 大口壺	206-OS	口径 (19.0) 器高 (6.7)	1.0~2.0mm大の白色砂粒を少し含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面平行タタキ(3本/cm) カキ目(10本/cm)
497	158	111	須恵器 甗	206-OS	口径 (29.3) 器高 (6.3)	1.0mm以下の白色砂粒を少し含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰白色(10Y8 1) 内 灰白色(10Y7 2)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部外面クシ目文
498	158	111	須恵器 甗	206-OS	口径 (30.5) 器高 (11.4)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰色(N5) 断 暗オリーブ灰色(5GY4 1) 内 赤灰色(5R5 1)	・ロクロ回転方向不明
499	159	111	土師器 杯A	206-OS	口径 (16.8) 器高 (4.7)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 橙色(5YR6 6) 断 橙色(5YR6 6) 内 橙色(5YR6 6)	・口縁部外面ヘラミガキ調整 ・内面ヘラミガキ調整 ・放射状暗文 ・底部外面ヘラケズリ調整
500	159	111	土師器 皿A	206-OS	口径 (20.2) 器高 (3.2)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 にぶい橙色(7.5YR7/4) 断 橙色(7.5YR6/6) 内 橙色(7.5YR7/6)	・底部ヘラケズリの後ヘラミガキ調整 ・内面放射状暗文
501	159	111	土師器 高杯	206-OS	口径 12.6 器高 9.1 底径 (9.6)	白色砂粒、3.0mm以下の黒色小石粒を多く含む	中	外 橙色(5YR6 6) 断 橙色(5YR6 6) 内 にぶい橙色(5YR7/4)	・杯部底部ハケメ(7本/cm)
502	159	111	土師器 高杯	206-OS	口径 15.9 器高 11.3 底径 11.8	1.0mm以下の白色砂粒を含む	軟	外 橙色(7.5YR7 6) 断 にぶい黄橙色(10YR6/4) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	
503	159		土師器 甗C1	206-OS	口径 (12.4) 器高 (5.5)	1.5mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 にぶい褐色(7.5YR5/3) 断 にぶい褐色(7.5YR5/4) 内 にぶい橙褐色(7.5YR6 4)	・体部外面ハケメ(8本/cm) ・体部内面ハケメ(8本/cm) の後ヘラケズリ調整
504	159		土師器 甗C1	206-OS	口径 11.2 器高 6.0	2.0mm大の白色砂粒を多く含む	中	外 明赤褐色(2.5YR5/6) 断 橙褐色(5YR6 6) 内 にぶい赤褐色(5YR5/3)	
505	159	111	土師器 鉢	206-OS	口径 (24.4) 器高 (9.3)	1.0mm大の白色砂粒を含む	中	外 橙褐色(5YR5 8) 断 橙褐色(5YR5 8) 内 橙褐色(5YR5 8)	・体部外面ハケメ(10本/cm) ・口縁部内面ハケメ(11~13本/cm)
506	159		土師器 甗C2	206-OS	口径 (27.8) 器高 (5.8)	1.0mm以下の白色砂粒を少し含む	硬	外 橙褐色(7.5YR7 6) 断 黄褐色(10YR7 2) 内 橙褐色(5YR7 6)	・体部内・外面ハケメ(8~9本/cm) ・口縁部内面ハケメ(8~9本/cm)
507	161	112	須恵器 蓋H b	1670-OS	口径 12.2 器高 4.5	1.0mm大の白色砂粒、黒色還元粒を含む	中	外 灰褐色(10Y6 1) 断 灰白色(10Y7 1) 内 灰白色(10Y7 1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周回転ヘラケズリ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
508	161	112	須恵器 蓋H a	1670-OS	口径 12.9 器高 4.3	3.0mm以下の白・ 黒・灰色砂粒を含 む	中	外 暗青灰色(10BG4/1) 内 青灰色(10BG6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
509	161		須恵器 蓋H c	1670-OS	口径 (10.8) 器高 (3.8)	1.5mm以下の黒・ 白色砂粒を含む	中	外 灰色(5Y6/1) 断 浅黄橙色(10YR8/3) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部不調整
510	161	112	須恵器 蓋H a	1670-OS	口径 11.0 器高 4.6	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
511	161	112	須恵器 蓋H b	1670-OS	口径 11.8 器高 4.1	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明青灰色(5B7/1) 断 明青灰色(5B7/1) 内 明青灰色(5B7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周回転ヘラケズ リ調整
512	161		須恵器 杯H c	1670-OS	口径 (11.1) 器高 (4.5)	3.0mm以下の白・ 黒・赤褐色砂粒を 含む	中	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
513	161	112	須恵器 杯H a	1670-OS	口径 11.4 器高 4.1	1.0mm以下の砂粒 を含む	硬	外 灰白色(7.5Y7/2) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向時計廻り
514	161		須恵器 杯H a	1670-OS	口径 (12.6) 器高 3.8	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 灰白色(10Y7/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
515	161		須恵器 杯H a	1670-OS	口径 10.4 器高 4.2	2.0mm以下の黒・ 白色砂粒を含む	中	外 褐灰色(10YR4.1) 内 灰色(N4.0)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
516	161	112	須恵器 杯H a	1670-OS	口径 11.8 器高 4.0	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り
517	161	112	須恵器 杯H b	1670-OS	口径 10.3 器高 3.5	1.0~3.0mm大の砂 粒を多く含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズ リ調整
518	161		須恵器 杯H c	1670-OS	口径 (10.8) 器高 3.6	白・黒色砂粒を含 む	中	外 暗灰黄色(2.5Y4.2) 断 赤灰色(2.5YR6.1) 内 黄灰色(2.5Y6.1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
519	161		須恵器 杯	1670-OS	口径 (9.0) 器高 2.9	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明オリープ灰色 (2.5GY7.1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明 ・底部ヘラ切り不調整
520	161		須恵器 椀	1670-OS	口径 (10.8) 器高 4.2	白色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5.1) 断 オリープ灰色(2.5Y5.1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズ リ調整
521	161	112	須恵器 椀	1670-OS	口径 (10.6) 器高 (5.0)	1.0~2.0mm大の白 色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(10Y5.1) 断 灰色(N4) 内 灰色(N4)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部ヘラ切りの後、簡 単なナデ調整
522	161	112	須恵器 椀	1670-OS	口径 (15.2) 器高 7.1	白・黒色砂粒、黒 色還元粒を含む	軟	外 暗灰黄色(2.5Y5.2) 断 灰白色(2.5Y7.1) 内 黄褐色(2.5Y5.3)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズ リ調整
523	161	112	須恵器 鉢A	1670-OS	口径 (17.9) 器高 (9.6)	2.0mm以下の黒色 砂粒を含む	中	外 灰色(N6) 断 明茶灰色(5P7/1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明
524	161	113	須恵器 蓋	1670-OS	口径 14.5 器高 15.4	3.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	軟	外 灰白色(10YR8.2) 内 灰白色(10YR8.1)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
525	161	113	須恵器 高杯Ha I	1670-OS	口径 (11.4) 器高 11.6 底径 (11.6)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒、2.0~ 4.0mm大の白色小 石粒を含む	硬	外 灰色(N5) 断 褐灰色(7.5YR5.1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明
526	161	113	須恵器 高杯Ga I	1670-OS	口径 (12.0) 器高 13.0 底径 10.4	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒、5.0mm 以下の白色小石粒 を多く含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰白色(2.5Y8.1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明
527	161	113	須恵器 高杯Ga I	1670-OS	口径 10.7 器高 12.0 底径 10.0	1.0mm以下の砂粒 を少し含む	硬	外 灰白色(N8/) 断 褐灰色(7.5YR5.1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ3方向

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺構・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
528	161	113	須恵器 高杯Ga1	1670-OS	口径 10.5 器高 12.6 底径 9.2	1.0mm以下の黒色砂粒、4.0mm大の灰色小石粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 褐灰色(10YR5/1) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
529	161		須恵器 壺	1670-OS	口径 (10.5) 器高 14.5	2.0mm以下の白・黒色砂粒を含む	中	外 灰色(N5/) 断 灰色(N6/) 内 青灰色(10BG5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部ヘラケズリ調整
530	161	114	須恵器 壺	1670-OS	口径 (11.8) 器高 (16.1)	白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰色(7.5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部外面沈線文(8本/cm) ・体部外面刺突文(3本/cm) ・底部ヘラケズリの後ナデ調整
531	161		須恵器 壺	1670-OS	器高 (6.8)	4.0mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 釉 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N6/)	・底部静止ヘラケズリ調整 ・把手部ナデ調整
532	162		須恵器 壺L	1670-OS	口径 (7.8) 器高 (13.5)	5.0mm以下の黒・白色砂粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N4/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・体部外面刺突文(4本/cm)
533	162	114	須恵器 壺L	1670-OS	口径 8.2 器高 (17.8)	3.0mm以下の白・黒・灰色砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(5GY5/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 オリーブ灰色(5GY6/1)	・ロクロ回転方向不明
534	162		須恵器 壺L	1670-OS	口径 (10.3) 器高 17.7	2.0mm以下の白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 釉 灰オリーブ色(7.5Y5/3) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・口縁部外面波状文(8本/cm) ・体部外面波状文(8本/cm)
535	162	114	須恵器 壺A	1670-OS	口径 (5.3) 器高 11.2	1.0mm以下の白色砂粒を含む		外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ調整
536	162	114	須恵器 壺A	1670-OS	口径 (12.2) 器高 (15.4)	1.0~3.0mm白色砂粒を多く含む	軟	外 灰色(N6/) 断 灰白色(10Y7/1) 内 灰色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
537	162	114	須恵器 平瓶	1670-OS	口径 5.3 器高 12.3	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 赤褐色(10R5/4) 断 緑灰色(10G6/1) 内 緑灰色(10G6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面カキ目(7~8本/cm)
538	162		須恵器 横瓶	1670-OS	口径 (12.5) 器高 (8.5)	2.0mm大の黒色砂粒を少し含む	中	外 灰白色(2.5GY8/1) 断 にぶい黄褐色(10YR7/3) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面タタキ(4本/cm) の後カキ目(6本/cm)
539	162		須恵器 短頸壺	1670-OS	口径 (12.2) 器高 (27.6)	4.0mm以下の灰色砂粒を含む	軟	外 灰白色(10Y8/1) 断 にぶい橙色(5YR7/3) 内 灰白色(10Y8/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面格子状タタキ(3本/cm) の後カキ目(6本/cm) ・体部内面車輪文
540	163	115	須恵器 短頸壺	1670-OS	口径 (22.8) 器高 49.6	2.0mm以下の茶色砂粒を含む	軟	外 灰白色(10Y8/1) 断 灰白色(10Y8/1) 内 灰白色(10Y8/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面擬格子状タタキ(3本/cm) の後カキ目(6~7本/cm) ・口縁部外面ヘラ記号
541	163	115	須恵器 甕	1670-OS	口径 (30.0) 器高 (20.5)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 明赤灰色(10R7/1) 断 暗褐色(10R3/2) 釉 暗オリーブ色(7.5Y4/3) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ(4本/cm) の後カキ目(14本/cm) ・口縁部外面タテ方向のヘラガキ文
542	163		須恵器 短頸壺	1670-OS	口径 (24.0) 器高 (20.6)	白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 釉 灰オリーブ色(7.5Y5/3) 断 赤灰色(2.5YR6/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ(4本/cm) の後カキ目(7本/cm)
543	163	115	須恵器 甕	1670-OS	口径 40.7 器高 80.6	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 青灰色(5B5/1) 釉 黄色(5Y7/6) 断 灰赤色(2.5YR5/2) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面ヘラガキ文カキ目(5本/cm) ・体部外面擬格子状平行タタキ(3本/cm)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
544	164	116	不明 鉄器	1670-OS	長 8.02 幅 5.93 厚 0.81 重 31.130				
545	164	116	土師器 台付壺	1670-OS	口径 8.8 器高 12.8 底径 8.2	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR7 4) 断 橙色(7.5YR6 6) 内 橙色(7.5YR7 6)	
546	164	116	土師器 甕A	1670-OS	口径 12.3 器高 10.9	1.0~2.0mm大の砂 粒を含む	軟	外 にぶい橙色(5YR7 4) 断 橙色(5YR6 6) 内 にぶい橙色(5YR7 4)	・体部外面ハケメ(10本 cm) ・体部内面ヘラケズリ調整
547	164		土師器 甕A	1670-OS	口径 (13.0) 器高 (11.5)	2.0mm以下の灰・ 褐色砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR6 4) 断 にぶい黄褐色(10YR6 4) 内 にぶい黄褐色(10YR6 4)	・体部外面ハケメ(16本 cm) ・体部内面ハケメ(14本 cm) の後ヘラケズリ調整
548	164	116	土師器 甕C2	1670-OS	口径 (23.0) 器高 (27.9)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 にぶい黄褐色(10YR6 4) 断 にぶい黄褐色(10YR6 4) 内 にぶい褐色(7.5YR5 4)	・体部外面ハケメ(10本 cm) ・体部内面ハケメ(10本 cm) の後ヘラケズリ調整
549	164	116	土師器 甕	1670-OS	口径 23.8 器高 37.0 焚口の広さ 44.4 円孔の直径 2.4	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 橙色(2.5YR6 6) 断 明赤褐色(2.5YR5 6) 内 にぶい橙色(2.5YR6 4)	・外面ハケメ(9本 cm) ・把手部ナデ調整 ・内面ナデ調整
550	166		須恵器 蓋Ha	1171-OS	口径 12.2 器高 4.4	白・黒色砂粒、4.0 mm大の灰色小石粒 を含む	中	外 灰白色(5Y7 1) 断 褐灰色(10YR6 1) 内 灰白色(N7)	・クロロ回転方向時計廻り
551	166		須恵器 杯Ha	1171-OS	口径 (11.8) 器高 (2.7)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 灰色(N6) 断 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・クロロ回転方向時計廻り
552	166		須恵器 杯Ha	1171-OS	口径 (12.5) 器高 (2.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(N7) 断 灰色(N6) 内 灰白色(N7)	・クロロ回転方向時計廻り
553	166		須恵器 杯Ha	1171-OS	口径 (10.8) 器高 3.5	1.5mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(2.5GY6 1) 断 灰白色(7.5Y7 1) 内 オリーブ灰色(2.5GY5 1)	・クロロ回転方向時計廻り
554	166		須恵器 高杯HaII	1171-OS	口径 (10.5) 器高 (5.2)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(7.5Y6/1) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・クロロ回転方向時計廻り
555	166		須恵器 高杯HaII	1171-OS	器高 (4.5) 底径 (7.7)	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(5B4/1) 断 青灰色(5B5/1) 内 青灰色(5B5/1)	・クロロ回転方向反時計廻り
556	167		須恵器 蓋Ha	1659-OS	口径 (15.2) 器高 (4.5)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(N5) 内 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	・クロロ回転方向不明
557	167	117	須恵器 蓋Ha	1659-OS	口径 13.0 器高 4.6	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒、2.0~ 3.0mmの黒・茶色 砂粒を含む	軟	外 灰色(5Y6/1) 内 灰色(5Y6/1)	・クロロ回転方向時計廻り
558	167		須恵器 蓋Hc	1659-OS	口径 12.2 器高 4.1	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含 む	中	外 灰色(N5) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・クロロ回転方向時計廻り ・天井部不調整
559	167		須恵器 蓋Hc	1659-OS	口径 (12.7) 器高 (2.9)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含 む	硬	外 灰白色(N7) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 青灰色(5PB6/1)	・クロロ回転方向不明 ・天井部不調整
560	167		須恵器 杯Hc	1659-OS	口径 11.6 器高 3.3	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰色(N6) 内 灰色(7.5Y6/1)	・クロロ回転方向不明 ・底部不調整
561	167		須恵器 碗	1659-OS	口径 (10.5) 器高 (4.5)	1.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(2.5GY6/1) 断 暗灰色(N3) 内 灰色(N6)	・クロロ回転方向不明 ・底部回転ヘラケズリ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺構 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
562	167	117	須恵器 碗	1659-OS	口径 (9.6) 器高 3.5	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周回転ヘラケズリ 調整
563	167		須恵器 高杯	1659-OS	器高 (7.8) 底径 (13.2)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒、黒色還元 粒を含む	中	外 灰色(N5/) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
564	167		須恵器 高杯	1659-OS	器高 (7.9) 底径 (14.2)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5BG4/1) 断 灰赤色(2.5YR5/2) 内 暗緑灰色(10G3/1)	・ロクロ回転方向不明
565	167		須恵器 鉢	1659-OS	器高 (8.2) 底径 (7.6)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N7/) 内 灰色(N8/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部回転ヘラケズリ調整
566	167		須恵器 把手	1659-OS	長さ 8.1 厚さ 2.2	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 粗 暗オリーブ色(7.5Y4/3)	・ナデ調整
567	167	117	須恵器 甌	1659-OS	口径 (22.7) 器高 (20.1)	1.0mm大の白色砂 粒を多く含む	軟	外 灰白色(2.5GY8/1) 断 灰白色(2.5GY8/1) 内 灰白色(2.5GY8/1)	・ロクロ回転方向不明
568	167	117	須恵器 甌	1659-OS	器高 (11.0)	1.0~2.0mm大の白色 砂粒を多く含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰赤色(10R4/2) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部内面突き出し痕あり
569	167	117	須恵器 壺A	1659-OS	口径 10.3 器高 14.5	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 暗赤灰色(7.5R4/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/) 暗赤灰色(7.5R4/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部回転ヘラケズリ調整 静止ヘラケズリ調整
570	167	117	須恵器 壺L	1659-OS	口径 10.0 器高 (23.6)	1.0~3.0mm大の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 粗 暗オリーブ色(7.5Y4/3) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面刺突文(4本/cm) クシ目(8本/cm) ・体部外面回転ヘラケズリ の後回転ヘラミガキ調整
571	167		須恵器 壺L	1659-OS	器高 (18.0)	2.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	硬	外 褐灰色(7.5YR4/1) 断 灰褐色(7.5YR6/2) 内 褐灰色(7.5YR6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面刺突文 カキ目(7本/cm) ・底部カキ目の後板状工具 にてナデ消し
572	167		須恵器 大口壺	1659-OS	口径 (21.8) 器高 (7.4)	白色砂粒を含む	硬	外 灰赤色(2.5YR5/2) 断 灰黄褐色(10YR6/2) 断 灰褐色(5YR6/2) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm)の後カキ目 (5本/cm)
573	169		須恵器 蓋H b	1228-OS	口径 (12.0) 器高 3.8	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 青灰色(10BG6/1) 断 にぶい赤褐色(5YR4/3) 内 青灰色(10BG6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ 調整
574	169		須恵器 杯H a	1228-OS	口径 (13.1) 器高 (3.6)	2.5mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
575	169	118	須恵器 杯H a	1228-OS	口径 (10.0) 器高 3.8	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰色(5Y4/1) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
576	169		須恵器 杯H a	1228-OS	口径 (10.0) 器高 3.3	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 青灰色(10BG6/1) 断 青灰色(10BG6/1) 内 青灰色(10BG6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
577	169		須恵器 高杯H	1228-OS	口径 (11.4) 器高 (4.2)	2.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
578	169		須恵器 高杯H	1228-OS	器高 (12.5)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
579	169		須恵器 大口壺	1228-OS	口径 (14.4) 器高 (6.3)	2.5mm以下の灰・ 白色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (4本/cm)の後 カキ目(7本/cm)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
580	169		須恵器 甕	1228-OS	口径 (24.8) 器高 (5.9)	1.5mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7 1) 断 灰白色(10Y7 1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
581	169		土師器 甕C2	1228-OS	口径 (21.8) 器高 (5.9)	2.0mm以下の灰・ 白色砂粒を含む	中	外 にぶい黄橙色(10YR7 4) 断 にぶい黄橙色(10YR7 3) 内 にぶい黄橙色(10YR7 4)	・体部内面ハケメ(5本・cm) の後粗いナデ調整
582	171	118	須恵器 杯H a	1004-OS	口径 10.4 器高 3.3	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向反時計廻り
583	171		須恵器 杯H c	1004-OS	口径 (10.7) 器高 (3.1)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(N7) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部へら切り不調整
584	171		須恵器 杯H a	1004-OS	口径 (10.2) 器高 2.6	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(10BG6 1) 断 青灰色(5PB6/1) 内 青灰色(10BG6 1)	・ロクロ回転方向時計廻り
585	171		須恵器 高杯H I	1004-OS	器高 (3.3) 底径 (10.5)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5B6) 断 青灰色(5B5) 内 青灰色(5B5)	・ロクロ回転方向不明
586	171		須恵器 鉢	1004-OS	器高 (7.1) 底径 (8.2)	3.0mm大の白・茶 色砂粒、0.5mm大 の黒色砂粒を多く 含む	中	外 灰白色(5Y8 1) 断 灰白色(5Y7 1) 内 灰色(2.5Y7 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部へら切りの後 粗いナデ調整
587	171		須恵器 広口壺	1004-OS	口径 (16.2) 器高 (5.3)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(N7) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面タタキの後 カキ目
588	171	118	須恵器 広口壺	1004-OS	口径 (18.0) 器高 (29.1)	2.0mm以下の砂粒 を多く含む	軟	外 灰白色(2.5Y8 1) 浅黄色(2.5Y7 4) 断 灰白色(2.5Y8 1) 浅黄色(2.5Y7 4) 内 灰白色(2.5Y8 1) 浅黄色(2.5Y7 4)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面タタキ(3本・cm) の後カキ目
589	171	118	須恵器 広口壺	1004-OS	口径 (25.0) 器高 54.5	2.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰白色(N7) 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 袖 暗オリーブ色(7.5Y4/3) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・体部外面平行タタキ (3本・cm)の後カキ目 (9本・cm)
590	173		須恵器 蓋H a	333-OS	口径 (12.9) 器高 4.0	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(N7) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部へら記号あり
591	173		須恵器 蓋H a	333-OS	口径 (12.9) 器高 4.1	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N4) 断 灰色(N5) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・天井部へら記号あり
592	173		須恵器 蓋H a	333-OS	口径 (13.0) 器高 (3.6)	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5BG6/1) 断 青灰色(5BG6/1) 内 青灰色(5BG6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
593	173		須恵器 杯H a	333-OS	口径 (12.5) 器高 (3.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	中	外 青灰色(10BG5/1) 断 青灰色(5R6 1) 内 青灰色(10BG5 1)	・ロクロ回転方向時計廻り
594	173		須恵器 杯H a	333-OS	口径 (11.7) 器高 (3.3)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5PB4/1) 断 赤灰色(5R5 1) 内 青灰色(5PB5 1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
595	173		須恵器 高杯H	333-OS	口径 (12.8) 器高 (3.9)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 オリーブ灰色 (2.5GY5 1) 断 暗オリーブ灰色 (2.5GY4 1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明
596	173	118	須恵器 蓋	333-OS	口径 (10.8) 器高 3.5	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向反時計廻り
597	173		須恵器 杯B	333-OS	口径 (15.2) 器高 (4.1)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 緑灰色(7.5GY6/1) 断 青灰色(10BG6/1) 内 青灰色(10BG6 1)	・ロクロ回転方向不明

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
598	173		須恵器壺A	333-OS	器高 (9.8)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 暗青灰色(10BG4/1) 断 赤灰色(5R5/1) 内 青灰色(10BG6/1)	・ロクロ回転方向不明
599	173	118	須恵器壺	333-OS	口径 (9.9) 器高 (11.7)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	軟	外 明緑灰色(7.5GY7/1) 断 明緑灰色(7.5GY7/1) 内 明緑灰色(7.5GY7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面カキ目(8本/cm)
600	173		須恵器壺A	333-OS	器高 (11.0)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面刺突文(2本/cm) ・底部外面カキ目(8本/cm)
601	173		須恵器広口壺	333-OS	口径 (15.8) 器高 (3.5)	0.5~2.0mmの黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明
602	173		須恵器広口壺	333-OS	口径 (16.4) 器高 (7.7)	2.0mm以下の白・灰色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 橙(7.5YR6/6) 灰白色(7.5Y7/1) 内 橙(7.5YR6/6) 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
603	173		須恵器甗	333-OS	口径 (19.6) 器高 (13.5)	3.0mm以下の白・赤褐・茶褐色砂粒を含む	中	外 明黄褐色(10YR6/6) 黒色(10YR1.7/1) 断 明黄褐色(10YR7/6) 内 明黄褐色(10YR7/6)	
604	173		須恵器甗A	333-OS	口径 (12.4) 器高 (6.7)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 にぶい橙(5YR6/3) 断 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	
605	174		須恵器杯Ha	500-OS	口径 (12.3) 器高 (2.9)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰色(N6) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り
606	174		須恵器杯Ha	500-OS	口径 (11.4) 器高 (3.0)	3.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 オリーブ灰色(2.5GY5/1) 断 にぶい赤褐色(2.5YR5/3) 内 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
607	174	118	須恵器壺	500-OS	口径 7.5 器高 6.6	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7) 断 オリーブ灰色(2.5GY6/1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計廻り
608	174		須恵器壺A	500-OS	口径 10.4 器高 (6.6)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 青灰色(5B6/1) 断 青灰色(5B6/1) 内 青灰色(5B6/1)	・ロクロ回転方向不明
609	174		須恵器壺	500-OS	口径 (19.8) 器高 (7.7)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰色(N6) 断 灰白色(N7) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向時計不明 ・体部外面平行タタキ(3本/cm) の後カキ目(6本/cm)
610	174	118	須恵器壺	500-OS	口径 16.6 器高 (14.4)	2.0mm以下の白色砂粒を多く含む	軟	外 灰色(N4) 断 灰白色(5Y7/2) 内 灰白色(5Y7/2)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部タタキ(4本/cm) の後カキ目(6本/cm)
611	175		須恵器蓋Ha	3208-OS	口径 13.3 器高 4.0	2.0mm以下の白・灰色砂粒を含む	軟	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(5Y5/1) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
612	175	119	須恵器蓋Ha	3208-OS	口径 13.4 器高 4.1	白・黒砂粒を含む	軟	外 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
613	175	119	須恵器蓋Hc	3208-OS	口径 (12.6) 器高 3.7	4.0mm以下の白色小石粒、白色砂粒を含む	硬	外 にぶい橙(5YR6/3) 断 にぶい橙(5YR6/4) 内 にぶい橙(5YR6/3)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・天井部不調整
614	175		須恵器蓋Ha	3208-OS	口径 (11.5) 器高 (3.2)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(2.5GY5/1) 断 灰色(N4) 内 オリーブ灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明
615	175		須恵器蓋	3208-OS	口径 (9.9) 器高 3.7	1.0~2.0mmの白色砂粒を含む	硬	外 赤褐色(10R5/3) 内 にぶい褐色(7.5YR5/3)	・ロクロ回転方向反時計廻り

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法量 (cm , g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
616	175	119	須恵器 高杯H1a	3208-OS	口径 (12.5) 器高 (16.3)	2.0mm以下の灰色砂粒、黒色鉱物粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(10Y6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・スカシ2方向
617	175	119	須恵器 碗	3208-OS	口径 (10.8) 器高 7.0	3.0mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り
618	175		須恵器 壺A	3208-OS	口径 (18.8) 器高 (11.3)	2.0mm以下の灰色砂粒、2.0~5.0mm大の灰色小石粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰色(N4/) 灰赤色(10R4/2) 内 灰色(N4/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ(3本/cm)の後ナデ調整 ・把手部ナデ調整
619	175		須恵器 甌	3208-OS	口径 (27.8) 器高 (29.3)	4.0mm以下の灰色小石粒、砂粒を多く含む	硬	外 灰オリーブ色(5Y6/2) 断 灰オリーブ色(5Y6/2) 内 灰オリーブ色(5Y5/2)	・ロクロ回転方向不明 ・底部静止ヘラケズリ調整
620	175	119	土師器 甕A	3208-OS	口径 (12.2) 器高 13.3	3.0mm大の灰白色小石粒を少し含む	硬	外 にぶい黄褐色(10YR5/3) 内 にぶい褐色(7.5YR5/4)	・体部外面ハケメ(8本/cm)
621	176		須恵器 高杯H II	3208-OS	口径 (7.9) 器高 (4.6)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(N4/) 内 灰色(10Y5/1)	・ロクロ回転方向不明
622	176		須恵器 壺	3208-OS	口径 (13.0) 器高 (14.7)	3.0mm以下の白・黒色砂粒を含む	硬	外 浅黄色(7.5Y7/3) 灰色(7.5Y5/1) 断 灰色(7.5Y7/3) 内 灰色(7.5Y5/1) 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ(4本/cm)の後カキ目(8本/cm)
623	176		土師器 杯	3208-OS	口径 (17.0) 器高 (6.5)	3.0mm以下の灰色砂粒、4.5mm大の灰色小石粒を含む	中	外 浅黄色(5Y7/3) 断 浅黄色(5Y7/3) 内 浅黄色(5Y7/3)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
624	178		須恵器 蓋H a	1183-OO	口径 (14.1) 器高 (4.8)	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
625	178	119	須恵器 蓋	1183-OO	口径 13.6 器高 4.6	2.0mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り
626	178	119	須恵器 杯H a	1183-OO	口径 (11.3) 器高 (3.1)	3.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 暗緑灰色(5G4/1) 内 青灰色(5BG6/1)	・ロクロ回転方向不明
627	178		須恵器 杯H a	1183-OO	口径 (11.0) 器高 3.5	1.5mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
628	178		土師器 碗	1183-OO	口径 (18.0) 器高 (7.9)	1.0mm大の白・赤褐色砂粒を含む	中	外 赤褐色(10YR5/4) にぶい橙色(7.5YR6/4) 断 褐色(7.5YR4/3) 内 橙色(7.5YR6/6)	・体部外面ハケメ(10本/cm)
629	178		土師器 甌	1183-OO	口径 (25.0) 器高 (10.1)	3.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR7/4) 断 にぶい橙色(7.5YR7/4) 内 にぶい黄褐色(10YR7/4)	・体部外面ハケメ(12本/cm) ・体部内面ヘラケズリ調整
630	180	119	須恵器 蓋H a	2176-OO	口径 (13.6) 器高 3.8	白色砂粒、黒色還元粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(5GY5/1) 内 オリーブ灰色(2.5GY6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
631	180		須恵器 蓋	2176-OO	口径 (11.8) 器高 (2.5)	1.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(2.5GY8/1) 断 灰白色(N7/) 内 青灰色(5PB6/1)	・ロクロ回転方向不明
632	180		須恵器 杯H a	2176-OO	口径 (13.5) 器高 4.0	4.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
633	180	119	須恵器 杯H b	2176-OO	口径 (11.8) 器高 3.8	3.0mm以下の灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰色(5Y4/1) 内 オリーブ灰色(2.5GY5/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (<small>cm, g</small>)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
634	184		須恵器 蓋H c	1128-00	口径 (15.5) 器高 4.4	1.5mm以下の砂粒、 8.0mm大の礫を含む	中	外 灰色(5Y6/1) 断 灰白色(10YR8/1) 内 灰白色(2.5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部粗い不定方向の ナデ調整
635	184		須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (13.7) 器高 (3.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5B4/1) 断 灰色(N5/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
636	184		須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (13.1) 器高 (3.8)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(10Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
637	184	120	須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (13.8) 器高 3.8	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
638	184	120	須恵器 蓋H b	1128-00	口径 (13.5) 器高 4.5	2.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部外周回転ヘラケズリ 調整
639	184		須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (12.8) 器高 (2.9)	2.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 暗緑灰色(7.5GY4/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
640	184		須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (13.8) 器高 (3.8)	1.0mm大の白色砂 粒を多く含む	軟	外 灰白色(5Y8/1) 断 灰白色(5Y8/1) 内 灰白色(5Y8/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
641	184		須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (13.4) 器高 4.4	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
642	184		須恵器 蓋H a	1128-00	口径 (12.0) 器高 (3.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 灰色(N5/) 断 灰色(N5/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
643	184	120	須恵器 杯H a	1128-00	口径 13.8 器高 3.5	3.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
644	184	120	須恵器 杯H c	1128-00	口径 13.1 器高 4.2	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
645	184		須恵器 杯H a	1128-00	口径 12.3 器高 4.2	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(10YR8/1) 断 灰白色(10YR8/1) 内 灰白色(10YR8/1)	・ロクロ回転方向不明
646	184	120	須恵器 杯H a	1128-00	口径 13.4 器高 4.7	2.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
647	184		須恵器 杯H b	1128-00	口径 (12.6) 器高 4.1	3.0mm大の白色砂 粒を多く含む	軟	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(10Y7/1) 内 灰白色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ 調整
648	184	120	須恵器 杯H a	1128-00	口径 12.0 器高 3.9	3.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 灰白色(N7/) 軸 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 灰色(7.5Y5/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
649	184	120	須恵器 杯H a	1128-00	口径 (13.1) 器高 4.4	1.0~5.0mm大の白色 砂粒、小石粒を 多く含む	軟	外 灰白色(2.5Y8/1) 断 にぶい黄橙色(10YR7/3) 内 にぶい黄橙色(10YR7/3)	・ロクロ回転方向時計廻り
650	184		須恵器 杯H b	1128-00	口径 (12.6) 器高 (3.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ 調整
651	184		須恵器 杯H a	1128-00	口径 (11.8) 器高 3.7	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 紫灰色(5RP6/1) 断 暗青灰色(5B4/1) 内 青灰色(5B6/1)	・ロクロ回転方向不明

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
652	184		須恵器 高杯H	1128-00	口径 12.1 器高 (4.9)	3.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 青灰色(5BG5/1) 断 青灰色(10BG6/1) 内 青灰色(10BG6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
653	184		須恵器 高杯H I	1128-00	器高 10.8 底径 14.0	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 灰色(N6/) 内 オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
654	184	120	須恵器 椀	1128-00	口径 (10.5) 器高 (4.3)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
655	184		須恵器 匙	1128-00	口径 (16.2) 器高 (7.6)	4.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(5Y5/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・口縁部外面ヘラガキ文 (4本/cm)
656	184		須恵器 広口壺	1128-00	口径 (15.4) 器高 (9.9)	2.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	軟	外 灰色(N6/) 断 灰色(N5/) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (4本/cm)の後カキ目 (4本/cm)
657	186	120	須恵器 蓋H a	1480-00	口径 14.0 器高 3.4	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 暗青灰色(5B4/1) 灰褐色(7.5YR5/2) 断 赤灰色(5R5/1) 内 赤灰色(5R5/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
658	186	120	須恵器 蓋H a	1480-00	口径 13.4 器高 3.6	1.0~5.0mm大の白 色砂粒、小石粒を 含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
659	186	120	須恵器 蓋H a	1480-00	口径 (13.3) 器高 3.9	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	軟	外 浅黄色(2.5Y7/3) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
660	186		須恵器 杯H a	1480-00	口径 (12.6) 器高 3.8	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5BG6/1) 断 青灰色(5BG6/1) 内 青灰色(5BG6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
661	186		須恵器 杯H a	1480-00	口径 (11.2) 器高 (3.8)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
662	186		須恵器 杯H a	1480-00	口径 (11.1) 器高 (3.5)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 断 灰白色(N7/) 内 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向不明
663	186		須恵器 杯H a	1480-00	口径 (12.9) 器高 (3.6)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 緑灰色(10G6/1) 断 緑灰色(10G6/1) 内 緑灰色(10G6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
664	186	120	須恵器 杯H a	1480-00	口径 11.2 器高 3.7	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(10BG5/1) 断 青灰色(10BG5/1) 内 青灰色(10BG5/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
665	186	121	須恵器 杯H a	1480-00	口径 11.5 器高 3.2	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗緑灰色(10G4/1) 断 緑灰色(10G5/1) 内 緑灰色(10G5/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
666	186	121	須恵器 杯H a	1480-00	口径 11.3 器高 3.6	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰色(7.5Y6/1) 断 赤灰色(2.5YR5/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
667	186	121	須恵器 台付椀	1480-00	口径 (10.5) 器高 8.6 底径 (8.1)	1.5mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
668	186		須恵器 壺	1480-00	口径 (11.0) 器高 (5.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(7.5Y8/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明
669	186		須恵器 壺	1480-00	口径 (11.8) 器高 (7.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	軟	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面カキ目(5本/cm)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (ca, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
670	186		須恵器 壺	1480-00	口径 (11.8) 器高 (4.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外断 灰白色(7.5Y7/1) 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
671	186		須恵器 広口壺	1480-00	口径 (13.8) 器高 (4.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外断 灰白色(2.5GY8/1) 灰白色(2.5GY8/1) 内 灰白色(2.5GY8/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面カキ目(6本/cm)
672	186		須恵器 広口壺	1480-00	口径 (19.0) 器高 (4.3)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外断 灰色(7.5Y6/1) 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
673	186	121	須恵器 鉢	1480-00	口径 (23.7) 器高 (10.5)	2.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	軟	外 淡黄色(5Y8/3) 断 灰白色(5Y7/1) 内 淡黄色(5Y8/3)	・ロクロ回転方向不明
674	186		須恵器 鉢	1480-00	口径 (26.7) 器高 (9.7)	5.0mm以下の小石 粒、白色砂粒を含 む	軟	外 灰白色(2.5GY8/1) 断 灰白色(5Y8/2) 内 灰白色(5Y8/2)	・ロクロ回転方向不明 ・底部内面不調整 同心円文あり
675	186		土師器 甕	1480-00	口径 (12.6) 器高 (4.2)	1.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR6/3) 断 にぶい黄褐色(10YR6/3) 内 にぶい黄褐色(10YR6/3)	
676	186		土師器 甕	1480-00	口径 (22.0) 器高 (3.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 橙褐色(7.5YR6/6) 断 橙褐色(7.5YR6/6) 内 橙褐色(7.5YR6/6)	・ロクロ回転方向不明
677	188		須恵器 蓋H a	1323-00	口径 (13.4) 器高 4.3	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 オリーブ灰色(5GY5/1) 断 オリーブ灰色(5GY5/1) 内 オリーブ灰色(5GY5/1)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
678	188	121	須恵器 蓋H a	1323-00	口径 (13.0) 器高 3.5	5.0mm以下の小石 粒、砂粒を含む	軟	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
679	188		須恵器 杯H a	1323-00	口径 (12.4) 器高 (3.5)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 灰色(N5/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
680	188		須恵器 台付壺	1323-00	器高 (4.6) 底径 (12.5)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰オリーブ色(7.5Y4/2) 断 灰色(N5/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ3方向
681	188		須恵器 高杯H I	1323-00	器高 (7.5) 底径 (13.5)	4.0mm大の黒・白 色小石粒、1.0mm 以下の白色砂粒を含 む	中	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
682	188	121	須恵器 高杯H II a	1323-00	口径 12.6 器高 7.7 底径 7.8	2.0mm以下の白色 砂粒、4.0mm大の 白色小石粒を含む	軟	外 にぶい黄色(2.5Y6/3) 断 灰黄色(2.5Y7/2) 内 灰黄色(2.5Y7/2)	・ロクロ回転方向不明
683	190	121	須恵器 蓋H a	1349-00	口径 14.3 器高 3.8	1.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	軟	外 淡黄色(2.5Y8/3) 断 淡黄色(2.5Y8/3) 内 淡黄色(2.5Y8/3)	・ロクロ回転方向不明
684	190		須恵器 蓋H a	1349-00	口径 (13.8) 器高 (3.9)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 オリーブ灰色(5GY5/1) 断 オリーブ灰色(5GY5/1) 内 オリーブ灰色(5GY5/1)	・ロクロ回転方向不明
685	190		須恵器 蓋H a	1349-00	口径 (12.2) 器高 (3.8)	2.0mm以下の白色 砂粒、3.0~4.0mm 大の小石粒を含む	中	外 灰色(N5/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
686	190		須恵器 蓋H a	1349-00	口径 (11.2) 器高 (3.2)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰色(N6/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
687	190		須恵器 杯H a	1349-00	口径 (12.2) 器高 (3.0)	4.0mm大の白色小 石粒、2.0mm以下 の白色砂粒を多く 含む	中	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻 り

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
688	190	121	須恵器 杯H a	1349-00	口径 11.5 器高 4.3	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
689	190		須恵器 杯H a	1349-00	口径 (11.0) 器高 (3.5)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明オリープ灰色 (5GY4 1) 断 暗紫灰色(5P3 1) 内 灰赤色(10R5 2)	・ロクロ回転方向不明
690	190		須恵器 高杯H	1349-00	口径 (14.5) 器高 (4.2)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗オリープ灰色 (5GY4 1) 断 暗オリープ灰色 (2.5GY4 1) 内 灰白色(5Y7 1)	・ロクロ回転方向不明
691	190		須恵器 高杯H	1349-00	器高 (3.4) 底径 (9.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5BG6 1) 断 青灰色(5BG6 1) 内 青灰色(5BG6 1)	・ロクロ回転方向不明
692	190	122	須恵器 盃	1349-00	器高 (11.1)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 オリープ黒色(5GY2 1) 灰色(7.5Y6 1) 断 オリープ灰色(5GY5 1) 内 黒色(2.5GY2 1)	・ロクロ回転方向不明
693	190		須恵器 広口壺	1349-00	口径 (18.2) 器高 (5.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(10BG5 1) 断 オリープ灰色(5GY6 1) 内 青灰色(10BG5 1)	・ロクロ回転方向不明
694	190		須恵器 広口壺	1349-00	口径 (18.8) 器高 (9.9)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7 1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm) カキ目(5本/cm)
695	190	122	土師器 碗	1349-00	口径 13.6 器高 (6.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR5/4) 断 にぶい橙色(7.5YR6 4) 内 明褐色(7.5YR5/6)	・口縁部内・外面 ハケメ(5本/cm) ・底部内面ヘラケズリ調整 外面スス付着
696	190	122	土師器 甕C1	1349-00	口径 (15.6) 器高 (11.2)	1.0mm以下の白色 砂粒を多く含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR7/4) 断 にぶい黄褐色(10YR7/4) 内 にぶい黄褐色(10YR7/4)	・体部外面ハケメ(7本/cm)
697	192		須恵器 蓋H a	1662-00	口径 (13.5) 器高 (3.9)	2.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y8 1) 内 灰白色(7.5Y8 1)	・ロクロ回転方向不明
698	192		須恵器 杯H c	1662-00	口径 (11.5) 器高 4.7	1.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(7.5Y5/1) 断 灰白色(7.5Y6/1) 内 灰白色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
699	192		須恵器 高杯H I	1662-00	口径 (12.2) 器高 12.8 底径 (11.6)	2.0~4.0mm大の白 色砂粒・小石粒を 含む	硬	外 暗青灰色(5B3/1) 断 暗青灰色(5B7/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻 り
700	192		須恵器 高杯H I	1662-00	器高 (11.0) 底径 (12.0)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 青灰色(10BG6/1) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ4方向
701	192		須恵器 高杯H II	1662-00	器高 (5.2) 底径 (8.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 明オリープ灰色 (2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向不明
702	192		土師器 甕C 2	1662-00	口径 (22.0) 器高 (9.6)	3.0mm大の灰色小 石粒、1.0mm以下 の白色砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR7/3) 断 褐色(5YR6/6) 内 褐色(5YR6/6)	・体部内面ヘラケズリ調整
703	194	122	須恵器 蓋H a	2601-00	口径 (15.6) 器高 (4.2)	1.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
704	194	122	土師器 甕C 1	2601-00	口径 (13.4) 器高 (15.6)	3.0mm以下の灰・ 黒色砂粒を含む	硬	外 褐色(10YR4/4) 断 灰黄褐色(10YR5/2) 内 にぶい黄褐色(10YR5/3)	・口縁部内面ハケメ (8本/cm) ・体部外面ハケメ(8本/cm) 内面ヘラケズリ調整
705	196		須恵器 蓋H a	377-00	口径 (12.2) 器高 3.2	1.0mm以下の白色 砂粒、黒色還元粒 を多く含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N6/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻 り

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
706	196	122	須恵器蓋	377-00	口径 13.2 器高 4.6	1.0mm 大の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N6/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
707	196	122	土師器甕C 2	377-00	口径 (21.7) 器高 (36.5)	1.0mm 大の白色砂粒、クサリ礫をわずかに含む	中	外 褐色(7.5YR6/6) 断 褐色(5YR6/6) 内 褐色(5YR6/6)	・体部外面ハケメ(10本/cm) 内面一部ハケメ(10本/cm) ヘラケズリ調整
708	198	123	須恵器蓋H b	3263-00	口径 12.4 器高 3.9	2.0mm 大の赤褐色・白・黒色砂粒を含む	中	外 灰オリーブ色(5Y6/2) 内 灰オリーブ色(5Y6/2)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周回転ヘラケズリ調整
709	198	123	須恵器高杯	3263-00	口径 (13.6) 器高 (5.0)	2.0mm 以下の灰色砂粒、2.0~7.0mm 大の灰色小石粒を含む	硬	外 灰色(N5/) 断 灰赤色(7.5YR4/2) 内 灰色(N5/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・スカシ 3 方向
710	198		須恵器杯H a	3263-00	口径 11.2 器高 4.3	砂粒を含まない	硬	外 灰褐色(7.5YR4 2) 断 灰白色(N7/) 内 褐灰色(10YR5 1)	・ロクロ回転方向時計廻り
711	200		須恵器蓋H a	3572-00	口径 (13.7) 器高 (3.5)	3.0mm 以下の白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N5/) 断 灰白色(N7/) 断 灰色(N5/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
712	200	123	須恵器蓋H a	3572-00	口径 (13.9) 器高 4.0	4.0mm 以下の白色小石粒・砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y8/1) 断 灰色(5Y5 1) 内 灰白色(5Y8/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
713	200		須恵器杯H a	3572-00	口径 10.5 器高 4.0	3.5mm 以下の白色小石粒、1.5mm 以下の褐色砂粒を含む	軟	外 灰色(10Y6/1・5/1) 断 灰白色(2.5Y8/1) 断 灰白色(2.5Y8/1) 内 灰白色(2.5Y8/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
714	200	123	須恵器杯H a	3572-00	口径 (12.0) 器高 3.8	2.0mm 以下の灰色砂粒、2.0~4.0mm 大の灰色小石粒を含む	中	外 灰色(N4/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向時計廻り
715	200	123	須恵器高杯H II a	3572-00	口径 (12.1) 器高 (7.1) 底径 10.3	4.0mm 以下の白色小石粒・砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・杯部 底部回転ヘラケズリの後、ナデ調整
716	200	123	須恵器鉢	3572-00	口径 (13.6) 器高 (16.1) 底径 (7.8)	6.0mm 以下の白色小石粒、白・黒色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(5Y6 1) 釉 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 断 灰色(7.5Y5 1) 内 黄灰色(2.5Y4/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
717	202		須恵器杯H a	587-00	口径 (12.6) 器高 (3.6)	砂粒を含まない	中	外 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 断 紫灰色(5P6 1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
718	202		須恵器杯H a	587-00	口径 10.8 器高 (3.3)	1.0mm 以下の白色砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5B4/1) 断 暗赤褐色(5YR3/4) 内 暗青灰色(5B4/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
719	204	123	須恵器蓋H a	1909-00	口径 12.8 器高 3.9	1.0mm 大の白・黒色砂粒、3.0mm 大の白色小石粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 灰色(N6/) 内 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
720	206	123	須恵器壺L	10-00	口径 (9.8) 器高 26.7 底径 (10.4)	1.0mm 以下の白色砂粒を含む	中	外 灰色(N6/1) 釉 灰色(N5/) 断 灰色(N6/1) 内 灰色(N6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部底部静止ヘラケズリ調整
721	206		須恵器広口壺	10-00	口径 (18.9) 器高 (5.3)	砂粒を含まない	中	外 明青灰色(10BG7/1) 断 赤灰色(5R6 1) 内 明青灰色(10BG7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面タキ(4本/cm)の後、カキ目(6本/cm) ・体部内面同心円文の後、ナデ調整
722	207		須恵器蓋H a	2721-00	口径 (14.8) 器高 (3.4)	1.0mm 以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 明オリーブ灰色(2.5GY7/1) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
723	207		須恵器蓋H b	3070-00	口径 (14.5) 器高 (4.2)	1.0mm 大の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y7 2) 断 灰白色(5Y7 2) 内 灰白色(5Y7 2)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周回転ヘラケズリ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
724	207		須恵器 蓋H a	3070-00	口径 (14.0) 器高 (4.1)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(7.5Y6 1) 断 灰白色(5Y7 1) 内 灰白色(5Y7 1)	・ロクロ回転方向時計廻り
725	207		須恵器 蓋H c	3335-00	口径 (11.3) 器高 3.5	2.0mm大の灰・白 色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6 1) 内 灰色(7.5Y6 1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部不調整
726	207	124	須恵器 蓋H c	2999-00	口径 11.4 器高 4.2	2.0mm以下の白・ 褐色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7 1) 内 灰白色(7.5Y7 1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部不調整
727	207	124	須恵器 杯H a	2230-00	口径 (11.0) 器高 3.5	1.0~3.0mm大の白・ 灰色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7) 軸 オリーブ黒色(7.5Y2 2) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明
728	207	124	須恵器 椀	1655-00	口径 8.8 器高 6.7	3.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(7.5Y7 1) 内 灰白色(7.5Y7 1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
729	207		須恵器 高杯H II	3070-00	器高 (3.8)	1.0mm大の黒・褐 色砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6 1) 断 灰色(10Y6 1) 内 灰黄色(2.5Y7 2)	・ロクロ回転方向不明
730	207	124	須恵器 鉢	2999-00	口径 (19.4) 器高 (10.3)	白色砂粒を多く含 む	硬	外 灰オリーブ色(5Y6 2) にぶい橙色(5YR6 3) 断 灰白色(10Y7 1) 内 灰色(7.5Y5 1)	・ロクロ回転方向時計廻り
731	207	124	須恵器 壺	2374-00	口径 (3.6) 器高 5.7	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 軸 オリーブ黄色(7.5Y6 3) 断 灰白色(10Y7 1) 内 灰白色(10Y7 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部静止ヘラケズリ調整
732	207		須恵器 広口壺	1908-00	口径 (10.0) 器高 (7.0)	1.0mm以下の灰色 砂粒を含む	軟	外 灰白色(7.5Y7 1) 断 灰白色(7.5Y7 1) 内 灰白色(7.5Y7 1)	・ロクロ回転方向不明
733	207		須恵器 広口壺	2999-00	口径 (23.6) 器高 (14.8)	1.5mm以下の黒色 砂粒を多く含む	軟	外 灰白色(5Y7 1) 断 灰黄色(2.5Y7/2) 内 灰白色(5Y8 1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面 格子状クタクキ(2本/cm) の後、カキ目(6本/cm)
734	208		須恵器 杯H a	3291-00	口径 (14.3) 器高 (4.1)	2.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 紫灰色(5RP5 1) 断 青灰色(5B5 1) 内 オリーブ灰色 (2.5Y5 1)	・ロクロ回転方向不明
735	208		須恵器 杯H a	3299-00	口径 (11.8) 器高 (3.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部内面同心円文
736	208		須恵器 杯H	3370-00	口径 (13.4) 器高 (3.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 青灰色(5B5 1) 断 紫灰色(5RP5 1) 内 青灰色(5B5 1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
737	208	124	須恵器 蓋H a	3072-00	口径 (14.4) 器高 4.7	1.0mm大の白・灰 色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6 1) 断 灰白色(7.5Y7 1) 内 灰色(10Y6 1)	・ロクロ回転方向不明
738	208		須恵器 杯H c	3072-00	口径 (11.9) 器高 (2.8)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7 1) 断 灰色 (10Y4 1・7.5Y6 1) 内 灰色(5Y4 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
739	208		須恵器 杯G c	3072-00	口径 (9.2) 器高 (3.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N5) 断 褐灰色(10YR5 1) 内 灰白色(5Y7 1) 灰色(5Y4 1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
740	208		須恵器 椀	3072-00	口径 (10.8) 器高 (3.7)	2.0mm大の白色砂 粒を少し含む	硬	外 灰色(N5) 軸 灰白色(10Y8 1) 断 暗紫灰色(5RP4 1) 内 青灰色(5B5 1)	・ロクロ回転方向不明
741	208		須恵器 椀	3072-00	口径 (12.4) 器高 (4.8)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 黄灰色(2.5Y6 1) 断 灰色(10Y6 1) 内 灰色(7.5Y6 1)	・ロクロ回転方向不明

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法量 (cm, g)	胎土	焼成	色調	手法的特徴
742	208		須恵器 杯H a	1965-00	口径 (12.1) 器高 3.9	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/2) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
743	208		須恵器 杯H a	1965-00	口径 (10.4) 器高 (3.2)	1.0mm大の白・黒 色砂粒を含む	中	外 灰黄褐色(10YR5/2) 断 灰褐色(5YR6/2) 内 ぶい・橙色(5YR6/4)	・ロクロ回転方向不明
744	208	124	須恵器 椀	3352-00	口径 (9.0) 器高 5.5	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y4/1) 内 灰色(7.5Y4/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
745	208		須恵器 蓋H a	2956-00	口径 (13.0) 器高 (3.0)	2.0mm以下の黒・ 白色砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(5B4/1) 断 青灰色(5BG5/1) 内 青灰色(5BG5/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
746	208	124	須恵器 匙	2956-00	器高 (12.3)	2.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(5Y5/1) 内 暗オリーブ灰色 (5GY4/1)	・ロクロ回転方向不明
747	208		須恵器 蓋H c	3177-00	口径 (12.2) 器高 4.1	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	軟	外 灰黄色(2.5Y7/2) 内 灰褐色(7.5YR6/2)	・ロクロ回転方向時計廻り ・天井部外周 回転ヘラケズリ調整
748	208		須恵器 高杯H I a	3177-00	器高 (11.2) 底径 (10.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(5B4/1) 断 暗青灰色(5B4/1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・スカシ2方向
749	208		須恵器 高杯	1490-00	口径 (11.3) 器高 (4.6)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N6) 断 紫灰色(5RP6/1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明 ・スカシ2方向
750	210	125	須恵器 蓋B	1910-00	口径 (19.6) 器高 2.0	2.5mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(N6) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
751	210		須恵器 蓋B	1910-00	口径 (18.4) 器高 (2.3)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 灰褐色(7.5YR5/2) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り
752	210		須恵器 蓋B	1910-00	口径 (16.2) 器高 (2.0)	1.5mm大の褐色砂 粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
753	210	125	須恵器 杯B	1910-00	口径 (15.2) 器高 4.1	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を多く含 む	硬	外 灰色(5Y4/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
754	210		須恵器 杯G c	1910-00	口径 (11.6) 器高 (3.4)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 灰白色(N7)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
755	210		須恵器 杯B	1910-00	口径 (15.6) 器高 (3.6)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 断 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向不明
756	210		須恵器 皿	1910-00	口径 (25.6) 器高 (6.6)	2.5mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
757	210		須恵器 鉢	1910-00	口径 (19.4) 器高 (5.6)	1.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
758	210	125	須恵器 壺	1910-00	口径 (5.1) 器高 5.1	2.0~3.0mm大の白 色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周回転ヘラケズリ の後、ナデ調整
759	210	125	須恵器 甕	1910-00	口径 (32.0) 器高 (26.3)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 断 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面、擬格子状 タタキ(3本/cn)の後、 ナデ調整・体部内面、 同心円文(直径約5cm) の後、ナデ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
760	210		土師器 杯	1910-00	口径 (15.0) 器高 (3.5)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR7/3) 断 明赤褐色(5YR5/8) 内 明赤褐色(5YR5/6)	・底部不調整 ・内面放射状暗文
761	210		土師器 甕	1910-00	口径 (19.0) 器高 (4.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい黄橙色(10YR7/4) 断 にぶい黄橙色(10YR7/3) 内 にぶい黄橙色(10YR7/4)	・体部外面ハケメ(11本/cm)
762	212		須恵器 杯H a	1057-00	口径 (10.7) 器高 (2.9)	2.0mm大の白・黒 色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
763	212		須恵器 杯H a	1057-00	口径 (10.1) 器高 (3.0)	1.0mm大の白・黒 色砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向不明
764	212		須恵器 杯H b	1057-00	口径 (9.8) 器高 (3.8)	3.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 明青灰色(5PB7/1) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(N8/)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周回転ヘラケズリ 調整
765	212		須恵器 杯B	1057-00	器高 (1.8) 底径 8.8	4.0mm大の白色小 石粒、1.5mm大の 黒・白色砂粒を含 む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明
766	212		須恵器 高杯H	1057-00	口径 (15.4) 器高 (4.6)	3.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	軟	外 灰白色(5Y8/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
767	212		須恵器 壺A	1057-00	口径 (6.8) 器高 6.7	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	軟	外 暗灰色(N3/) 断 灰オリーブ色(7.5Y6/2) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整
768	212		須恵器 広口壺	1057-00	口径 (20.4) 器高 (18.2)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y4/1) 袖 オリーブ黒色(7.5Y3/2) 断 赤灰色(7.5R6/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm)の後、カキ目 (8本/cm)
769	212		須恵器 壺B	1057-00	口径 (17.4) 器高 (22.2)	2.0mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含 む	軟	外 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰オリーブ色(5Y6/2) 内 灰白色(5Y8/2)	・ロクロ回転方向時計廻り ・体部外面平行タタキ (2本/cm)の後、 カキ目(9本/cm) ・底部内面不調整、 突き出し痕あり
770	212		土師器 羽釜	1057-00	器高 (6.5)	1.5mm大の白色砂 粒、金雲母を含む	中	外 褐灰色(5YR4/1) 断 赤褐色(5YR4/6) 内 明赤褐色(5YR5/6)	・体部外面ハケメ(14本/cm)
771	212		瓦器 椀	1057-00	口径 (12.8) 器高 (3.2)	1.0mm大の黒色砂 粒を含む	中	外 黒色(2.5Y2/1) 断 灰白色(2.5Y8/2) 内 黒色(2.5Y2/1)	
772	212		瓦器 椀	1057-00	器高 (1.1)	1.0mm大の赤褐色 砂粒を含む	中	外 黒色(5YR1.7/1) 断 褐灰色(5YR5/1) にぶい褐色(5YR7/4) 内 黒色(5YR1.7/1)	・底部内面平行線暗文
773	214		須恵器 蓋H b	2123-00	口径 (11.8) 器高 (3.5)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部外周 回転ヘラケズリ調整
774	214		須恵器 蓋H c	2123-00	口径 (11.2) 器高 (3.3)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部不調整
775	214		須恵器 杯H a	2123-00	口径 (11.6) 器高 3.6	3.0mm以下の黒色 還元粒を含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明
776	214		須恵器 蓋G a	2123-00	口径 12.5 器高 3.1	黒色砂粒を含む	中	外 オリーブ黄色(5Y6/3) 断 灰色(5Y5/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
777	214		須恵器 杯G a	2123-00	口径 9.4 器高 4.4	1.0mm以下の白色 砂粒、1.5~4.0mm 大の白色小石粒を 含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部切りはなしの後 不足方向のナデ調整

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
778	214		須恵器 杯G c	2123-〇〇	口径 (9.2) 器高 4.0	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
779	214		須恵器 杯G a	2123-〇〇	口径 (10.6) 器高 (5.6)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y5/1) 断 灰色(N5) 内 灰白色(N8)	・ロクロ回転方向不明
780	214		須恵器 蓋B	2123-〇〇	口径 (21.0) 器高 (2.0)	1.0mm以下の白・ 褐色砂粒を含む	硬	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
781	214		須恵器 皿A	2123-〇〇	口径 (20.0) 器高 (4.2)	1.0mm以下の白・ 褐色砂粒を含む	硬	外 灰白色(7.5Y8/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明
782	214		須恵器 杯B	2123-〇〇	口径 (13.0) 器高 (3.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 断 灰色(N7) 内 灰色(N7)	・ロクロ回転方向不明
783	214		須恵器 広口壺	2123-〇〇	口径 (14.6) 器高 (4.4)	3.0mm以下の茶褐 色砂粒を多く含む	軟	外 灰白色(10Y8/1) 断 灰白色(10Y8/1) 内 灰白色(10Y8/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面カキ目(5本/cm)
784	214		土師器 杯A	2123-〇〇	口径 (14.0) 器高 (3.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR5/3) 断 断赤褐色(5Y5/6) 内 にぶい褐色(7.5YR6/3)	・底部不調整
785	214		土師器 皿A	2123-〇〇	口径 (22.8) 器高 (2.3)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR7/4) 断 浅黄褐色(10YR8/3) 内 にぶい褐色(7.5YR7/4)	・内面放射状暗文
786	214		土師器 甕C 2	2123-〇〇	口径 (19.8) 器高 (7.4)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 褐色(5YR7/6) 断 褐色(2.5YR6/6) 内 にぶい褐色(5YR7/3)	・口縁部内面ハケメ (10本/cm) ・体部内面ハケメ(10本/cm) の後、ミガキ調整 ・体部外面ハケメ(11本/cm)
787	214		土師器 甕C 2	2123-〇〇	口径 (21.6) 器高 (17.0)	2.5mm以下の白・ 黒色砂粒、角閃石 を含む	中	外 にぶい褐色(7.5YR5/4) 断 にぶい褐色(7.5YR6/4) 内 にぶい黄褐色(10YR5/3)	・口縁部内面ハケメ (10本/cm) ・体部内面ヘラケズリ調整 外面ハケメ(10本/cm)
788	216		須恵器 杯H a	2096-〇〇	口径 (11.0) 器高 (3.7)	1.0mm大の黒色砂 粒を多く含む	中	外 灰オリーブ色(5Y6/2) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
789	216		須恵器 杯G a	2096-〇〇	口径 (11.0) 器高 (3.7)	3.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N6) 内 灰色(N6)	・ロクロ回転方向時計廻り
790	216		須恵器 杯B	2096-〇〇	器高 (2.1)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
791	216		須恵器 杯G c	2096-〇〇	口径 (10.9) 器高 (4.4)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(10Y7/1) 断 灰白色(10Y7/1) 内 灰白色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
792	216		須恵器 皿B	2096-〇〇	口径 (23.4) 器高 (4.3)	2.0mm以下の灰・ 白色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
793	216		須恵器 鉢	2096-〇〇	口径 (21.4) 器高 (10.7)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗褐色(10YR3/3) 内 灰色(7.5Y4/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
794	216		須恵器 蓋	2096-〇〇	口径 (11.2) 器高 (2.8)	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り
795	216		須恵器 蟬壺	2096-〇〇	器高 (8.4)	1.0mm以下の黒色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 灰色(5Y5/1) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
796	216		須恵器 壺	2096-00	口径 (16.3) 器高 (11.2)	1.5mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7/2) 灰色(7.5Y5/1) 断 灰白色(5Y8/1) 内 灰色(7.5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明
797	218		須恵器 杯B	2277-00	器高 (2.2)	1.5mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰白色(N7/) 断 明青灰色(5PB7/1) 灰白色(N7/) 内 明青灰色(5PB7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
798	218		須恵器 広口壺	2277-00	口径 (21.5) 器高 (6.1)	3.0mm以下の黒・ 赤褐色砂粒を含む	中	外 褐色(7.5YR6/1) 断 灰白色(7.5YR8/1) 内 ぶい橙色(5YR7/4)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm)の後、 カキ目(6本/cm)
799	218		須恵器 広口壺	2277-00	口径 (22.8) 器高 (8.9)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm)の後、 カキ目(7本/cm)
800	218	125	土師器 甕C 2	2277-00	口径 (21.6) 器高 (28.0)	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰黄褐色(10YR5/2) 断 ぶい褐色(7.5Y5/4) 内 ぶい黄褐色(10YR6/3)	・口縁部内面ハケメ (8本/cm) ・体部外面ハケメ(8本/cm) ・体部内面ハケメ(12本/cm) の後、ヘラケズリ調整
801	220	125	須恵器 甕	2868-00	口径 (68.0) 器高 (13.4)	1.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(5BG4/1) 断 暗青灰色(5BG4/1) 内 暗青灰色(10BG3/1)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm) の後、カキ目(8本/cm)
802	220		須恵器 皿B	2868-00	口径 (21.2) 器高 (4.4)	1.0mm大の茶褐色 砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(5B4/1) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 灰色(10Y4/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部外周 回転ヘラケズリ調整
803	222	125	須恵器 蓋B	344-00	口径 16.8 器高 3.5	1.0mm以下の白色 砂粒を少し含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻り
804	222		土師器 杯A	344-00	口径 (22.2) 器高 (5.2)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明褐色(7.5YR5/6) 断 明褐色(7.5YR5/6) 内 ぶい褐色(7.5YR6/3)	・口縁部外面 ヘラミカキ調整 ・底部ヘラケズリ調整
805	224	125	須恵器 蓋B	2789-00	口径 (19.4) 器高 (2.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部回転ヘラケズリ 調整
806	224		須恵器 蓋	2789-00	口径 (12.0) 器高 (2.4)	3.0mm大の白・黒 色小石粒、1.0mm 以下の黒色砂粒を 含む	硬	外 灰色(10Y4/1) オリーブ黄色(5Y6/3) 断 紫灰色(5P5/1) 内 灰色(10Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部回転ヘラケズリ 調整
807	224	125	須恵器 杯B	2789-00	器高 (1.2)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(10Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
808	224	125	須恵器 杯A	2789-00	口径 (12.2) 器高 (3.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y5/1) 断 ぶい赤褐色(5YR5/3) 内 灰色(7.5Y4/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
809	224	125	須恵器 鉢A	2789-00	口径 (18.4) 器高 (7.3)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 黄灰色(2.5Y6/1) 内 灰黄色(2.5Y7/2)	・ロクロ回転方向時計廻り
810	224		土師器 甕A	2789-00	口径 (15.8) 器高 (11.4)	3.0mm以下の灰・ 褐色砂粒を含む	中	外 ぶい褐色(7.5YR5/4) 褐色(7.5YR4/3) 断 褐色(7.5YR4/3) 内 ぶい褐色(7.5YR5/4) 褐色(7.5YR4/3)	・口縁部内面ハケメ (7本/cm) ・体部外面ハケメ (6~7本/cm) ・体部内面板状工具痕 ・指圧痕あり
811	226	126	須恵器 杯A	1268-00	口径 (12.2) 器高 3.8	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 青灰色(5BG6/1) 断 青灰色(5BG6/1) 内 青灰色(5BG6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
812	226		須恵器 杯A	1268-00	口径 (14.9) 器高 (3.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	軟	外 緑灰色(10GY6/1) 灰白色(7.5Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・ロクロ回転方向不明
813	226	126	土師器 鍋A	1268-00	口径 37.8 器高 (11.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 ぶい赤褐色(5YR5/4) 断 褐色(5YR6/6) 内 ぶい橙色(5YR6/4)	・体部外面ハケメ(8本/cm) ・体部内面ハケメ(7本/cm) の後、ナデ調整 ・底部内面ハケメ(7本/cm) の後、ヘラケズリ調整

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法量 (ca, g)	胎土	焼成	色調	手法的特徴
814	228	126	土師器 鍋A	2275-00	口径 (37.0) 器高 (14.3)	2.0mm以下の灰色砂粒、4.0mm大の茶色小石粒を含む	中	外 にぶい橙色(5YR6/3) 断 にぶい橙色(2.5YR6/4) 内 にぶい橙色(2.5YR6/4)	・体部外面ハケメ(8~10本/cm) ・体部内面ハケメ(7~8本/cm)の後、ナデ調整
815	230		須恵器 蓋G	1919-00	口径 (12.0) 器高 (2.4)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 明青灰色(5B7/1) 断 明青灰色(5PB7/1) 内 明青灰色(5PB7/1)	・ロクロ回転方向不明
816	230		須恵器 蓋H b	1919-00	口径 (11.0) 器高 (3.1)	1.0mm以下の白・黒色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 断 灰オリーブ色(5Y6/2) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・天井部外周回転ヘラケズリ調整
817	230		須恵器 杯G c	1919-00	口径 (9.6) 器高 3.1	2.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y6/1) 内 灰色(5Y5/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
818	230		須恵器 杯G c	1919-00	口径 (9.0) 器高 (3.8)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰白色(10Y7/1)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部不調整
819	230		須恵器 皿A	1919-00	口径 (20.2) 器高 (3.1)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 オリーブ灰色(2.5GY6/1) 断 灰色(N6/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向時計廻り ・底部外周回転ヘラケズリ調整
820	230		土師器 杯A	1919-00	口径 (15.8) 器高 (3.3)	1.0mm以下の白色砂粒を含む	中	外 橙色(7.5YR7/6) 断 浅黄橙色(10YR8/4) 内 浅黄橙色(10YR8/3)	・底部不調整 ・内面放射状暗文
821	232	126	須恵器 蓋B	1772-00	口径 (14.6) 器高 3.2	1.0mm以下の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y6/1) 内 灰色(10Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
822	232	126	須恵器 蓋B	1772-00	口径 20.1 器高 4.3	1.0mm以下の白・黒色砂粒、2.0~4.0mm大の灰色小石粒を含む	軟	外 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(5Y8/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
823	232		須恵器 杯B	1772-00	口径 (10.4) 器高 4.7	2.0mm大の白色砂粒を含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 褐灰色(10YR6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明
824	232		須恵器 皿B	1772-00	口径 (15.8) 器高 (3.6)	1.0mm以下の白・灰色砂粒を多く含む	硬	外 灰色(7.5Y6/1) 断 灰色(7.5Y6/1) 内 灰色(7.5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
825	232		須恵器 杯	1772-00	口径 (8.8) 器高 (2.2)	2.0mm大の茶褐色砂粒を含む	中	外 褐灰色(10YR6/1) 断 褐灰色(10YR6/1) 内 灰白色(2.5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
826	232		須恵器 杯A	1772-00	口径 (12.4) 器高 (3.3)	2.0mm大の茶褐色砂粒含む	中	外 灰白色(7.5Y8/1・7/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y8/1・7/1)	・ロクロ回転方向不明 ・底部不調整
827	232		土師器 甕A	1772-00	口径 (16.0) 器高 (5.3)	2.0mm以下の茶褐色砂粒を含む	中	外 明赤褐色(5YR5/8) 断 明赤褐色(5YR5/6) 内 にぶい赤褐色(5YR5/3)	・体部外面不調整 ・体部内面ヘラケズリ調整
828	232	126	製塩土器	1772-00	口径 (10.6) 器高 (4.0)	4.0mm大の灰色小石粒、2.0mm以下の赤褐色砂粒を含む	中	外 浅黄橙色(7.5YR8/4) 内 浅黄橙色(7.5YR8/4)	・口縁部内面不調整
829	232		土師器 皿B	1772-00	口径 (30.6) 器高 (2.7)	1.0mm大の白・黒色砂粒を含む	中	外 橙色(5YR7/6) 断 明褐灰色(7.5YR7/2) 内 橙色(5YR6/6)	・底部ヘラケズリ調整
830	232		土師器 皿B	1772-00	口径 (38.0) 器高 (2.9)	2.0mm以下の黒・白色砂粒を含む	中	外 灰白色(10YR8/2) 断 褐色(7.5YR6/6) 内 にぶい黄橙色(10YR7/3)	
831	234		須恵器 皿B	1391-00	器高 (1.3)	1.5mm以下の白色砂粒を含む	中	外 灰色(N6/) 断 オリーブ灰色(2.5GY5/1) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・底部回転ヘラケズリ調整

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
832	234		須恵器 皿A	2743-OO	口径 (20.0) 器高 (5.0)	2.0mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	軟	外 灰白色(7.5Y8/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(7.5Y8/1)	・ロクロ回転方向不明
833	234		須恵器 皿B	2881-OO	口径 (20.2) 器高 (4.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(5Y5/1) 断 灰色(7.5Y5/1) 内 オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り
834	234	126	土師器 甕C2	2743-OO	口径 21.4 器高 (31.0)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	硬	外 にぶい黄褐色(10YR6/4) 断 にぶい黄色(2.5Y6/3) 内 暗灰黄色(2.5Y5/2)	・体部外面ハケメ(10本 cm) ・体部内面ハケメ(10本 cm) の後、ヘラケズリ調整
835	234		土師器 皿A	1464-OO	口径 (12.4) 器高 1.8	5.0mm大の褐色小 石粒、2.0mm以下 の灰・白色砂粒を 含む	軟	外 褐色(7.5YR6/6) 断 にぶい褐色(7.5YR6/4) 内 にぶい黄褐色(10YR7/4)	・底部不調整
836	241		須恵器 高杯Ha	2429-OO	口径 (11.3) 器高 (3.7)	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(10Y5/1) 断 灰色(10Y6/1) 内 灰色(10Y6/1)	・ロクロ回転方向時計廻り
837	243	126	須恵器 高杯Ha	2029-OO	口径 12.7 器高 (16.4)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(N7/) 断 灰白色(N8/) 内 灰白色(10Y8/1)	・ロクロ回転方向反時計廻り ・スカシ2方向
838	245		須恵器 高杯Ha	1673-OO	口径 10.6 器高 (4.0)	2.0mm以下の灰色 砂粒、2.0~4.0mm 大の灰色小石粒を 含む	硬	外 灰色(N6/) 断 灰色(N7/) 内 灰色(N7/)	・ロクロ回転方向時計廻り
839	260	127	瓦器 小皿	1577-OB (684-OP)	口径 (9.2) 器高 (1.9)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明黄褐色(2.5Y6/6) 断 浅黄色(5Y7/3) 内 灰色(N4/)	・底部不調整
840	260	127	瓦器 小皿	3268-OB (2358-OP)	口径 (9.8) 器高 2.1	1.5mm以下の灰・ 茶褐色砂粒を含む	中	外 黒色(2.5Y2/1) 内 灰白色(2.5Y8/2) 黒色(2.5Y2/1)	・底部不調整
841	260	127	瓦器 碗	1091-OB (1214-OP)	口径 16.0 器高 5.4	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 内 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	・内・外面ヘラミガキ調整
842	260	127	白磁 碗	1896-OB (1847-OP)	口径 (17.0) 器高 (2.5)	1.0mm以下の黒色 砂粒を多く含む	硬	釉 灰白色(10Y7/1) 断 灰白色(7.5Y7/1)	
843	262	127	瓦器 碗	497-OW	口径 (16.8) 器高 (5.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗青灰色(5B4/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 暗青灰色(5B4/1)	・外面ヘラミガキ調整 ・内面暗文
844	262	127	瓦器 碗	497-OW	口径 (15.6) 器高 5.1	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗灰色(N3/) 断 明青灰色(5B7/) 内 暗灰色(N3/)	・外面ヘラミガキ調整
845	262		瓦器 碗	497-OW	口径 (16.2) 器高 4.6	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N8/) 内 灰色(N4/)	・内・外面ヘラミガキ調整
846	262		瓦器 小皿	497-OW	口径 (9.6) 器高 (2.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N8/) 内 灰色(N6/)	・内面ヘラミガキ調整 ・底部不調整
847	262	127	瓦器 小皿	497-OW	口径 (9.6) 器高 (2.1)	砂粒を含まない	硬	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N4/)	・内面ヘラミガキ調整 ・底部不調整
848	262	127	瓦器 小皿	497-OW	口径 (9.4) 器高 2.3	砂粒を含まない	中	外 暗青灰色(5B3/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 暗青灰色(5B3/1)	・内面ヘラミガキ調整 ・底部不調整
849	262	127	瓦器 小皿	497-OW	口径 (9.0) 器高 (2.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N4/)	・底部不調整

遺物番号	挿図番号	図版番号	遺物の種類・器種	出土遺物・層位	法量 (㎝, g)	胎土	焼成	色調	手法の特徴
850	262	127	瓦器 小皿	497-OW	口径 (9.0) 器高 (1.8)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 暗青灰色(5B3/1) 断 灰白色(N7/) 内 暗青灰色(5B3/1)	・内面ヘラミガキ調整 ・底部不調整
851	262		瓦器 小皿	497-OW	口径 (7.8) 器高 2.1	砂粒を含まない	中	外 灰色(N6/) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 灰色(N6/)	・底部不調整
852	262	127	土師器 小皿	497-OW	口径 (8.2) 器高 (1.4)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(10YR8/1) 断 灰白色(10YR8/1) 内 灰白色(10YR8/1)	・底部不調整
853	265	128	瓦器 椀	1826-OO	口径 (14.0) 器高 5.9	2.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 黒色(2.5GY2/1) 断 灰白色(10Y7/1) 内 灰色(10Y5/1)	・内・外面ヘラミガキ調整 ・底部不調整
854	265	128	瓦器 小皿	1826-OO	口径 (9.8) 器高 (1.8)	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 灰色(5Y4/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(5Y5/1)	・内面ヘラミガキ調整 ・底部不調整
855	265	128	土師質 台付皿	1826-OO	口径 (16.4) 器高 3.7	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	軟	外 赤褐色(5YR4/6) 断 にぶい赤褐色(5YR5/4) 内 明赤褐色(5YR5/6)	・口縁部ヨコナデ調整
856	265	128	白磁 椀	1826-OO	口径 (16.0) 器高 (2.9)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	硬	外 灰白色(10Y8/1) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰白色(10Y8/1)	
857	267		白磁 椀	970-OO	口径 (16.2) 器高 (4.3)	砂粒を含まない	中	釉 灰白色(7.5Y7/2) 断 灰白色(7.5Y8/1)	
858	267	128	瓦器 椀	970-OO	口径 15.5 器高 5.3 底径 4.7	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N4/) 断 灰白色(5Y8/1) 内 灰色(N5/)	・外面ヘラミガキ調整 ・内面暗文 ・底部不調整
859	269		瓦器 椀	462-OO	口径 (16.8) 器高 (4.9)	砂粒を含まない	中	外 灰色(N4/) 断 灰白色(N8/) 内 灰色(N4/)	・内・外面ヘラミガキ調整
860	269		瓦器 椀	462-OO	口径 (15.4) 器高 (4.3)	砂粒を含まない	中	外 灰色(N5/) 断 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 内 灰色(N5/)	・底部不調整 ・内面暗文
861	269		瓦器 椀	462-OO	口径 (14.2) 器高 (4.2)	砂粒を含まない	中	外 灰色(N5/) 断 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 内 灰色(N5/)	・底部不調整
862	269		土師質 羽釜	462-OO	口径 (25.7) 器高 (8.7)	6.0mm以下の黒・ 白・赤褐色小石粒 を多く含む	中	外 灰白色(10YR8/2) 断 灰白色(10YR8/2) 内 浅黄褐色(10YR8/4)	
863	271		瓦器 椀	457-OO	口径 (14.8) 器高 (5.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(N5/)	・内面ヘラミガキ調整
864	271		瓦器 椀	457-OO	口径 (14.8) 器高 (4.7)	砂粒を含まない	中	外 灰色(N5/) 断 灰白色(N7/) 内 灰白色(N7/)	・内・外面ヘラミガキ調整
865	271		瓦器 椀	457-OO	口径 (13.4) 器高 (4.4)	3.0mm以下の灰色 砂粒を含む	軟	外 灰色(7.5Y4/1) 断 灰白色(7.5Y7/1) 内 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1)	・内面ヘラミガキ調整
866	273	128	土師質 羽釜	440-OO	口径 16.7 器高 (13.3)	4.0mm以下の白色 小石粒・砂粒を多 く含む	硬	外 橙色(5YR7/6) 断 橙色(5YR6/6) 内 橙色(5YR7/6)	
867	273	128	瓦器 椀	440-OO	口径 (15.6) 器高 (5.0)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(5YR7/3) 断 オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 内 浅黄色(2.5Y7/3)	

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (ca, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
868	275		瓦器 小皿	965-00	口径 (9.3) 器高 (2.2)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N4) 断 灰白色(7.5Y8/1) 内 灰色(N4)	・内面ヘラミガキ調整
869	275	128	瓦器 碗	965-00	口径 15.5 器高 (5.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(10Y5/1) 断 灰白色(10Y7/1) 内 灰色(10Y4/1)	・内・外面ヘラミガキ調整
870	278	128	瓦器 碗	499-00	口径 (14.8) 器高 (5.4)	1.5mm以下の白・ 灰色砂粒を含む	中	外 灰白色(7.5Y7/1) 灰色(7.5Y5/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰白色(2.5GY8/1)	・内面ヘラミガキ調整
871	279	128	土師質 皿	420-00	口径 13.6 器高 2.4	1.0mm大の砂粒を 多く含む	中	外 浅黄褐色(10YR8/3) 断 浅黄褐色(10YR8/3) 内 浅黄褐色(10YR8/3)	・底部不調整
872	281		瓦器 碗	1705-OS	口径 (14.4) 器高 (5.2)	5.0mm大の褐色小 石粒、1.5mm大の 白・黒色砂粒を含 む	硬	外 灰白色(5Y7/1) 灰色(5Y4/1) 断 灰白色(5Y8/1) 内 灰色(5Y5/1・4/1)	・内・外面ヘラミガキ調整
873	281	129	瓦器 碗	1705-OS	口径 (16.4) 器高 5.7	1.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗オリーブ灰色 (2.5GY3/1) 断 灰黄色(2.5Y6/2) 内 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1)	・内面ヘラミガキ調整
874	281		瓦器 碗	1705-OS	口径 (16.0) 器高 5.3	3.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 灰色(5Y5/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(5Y4/1)	・外面ヘラミガキ調整
875	281		瓦器 碗	1705-OS	口径 (15.8) 器高 6.0	3.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 灰色(5Y6/1) 内 灰色(5Y4/1)	・内面ヘラミガキ調整
876	281		瓦器 碗	1705-OS	口径 (14.6) 器高 5.9	1.0mm以下の黒色 砂粒を含む	中	外 黒色(5Y2/1) 断 灰白色(5Y8/1) 内 黒色(5Y2/1)	
877	281		瓦器 碗	1705-OS	口径 (15.2) 器高 5.2	1.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 灰色(N5) 断 灰白色(N7) 内 暗灰色(N3)	・内・外面ヘラミガキ調整
878	281	129	瓦器 碗	1705-OS	口径 15.0 器高 5.2	3.0mm以下の灰色 砂粒を含む	硬	外 暗灰色(N3) 断 灰白色(N7) 内 灰色(N4)	・内面ヘラミガキ調整
879	281	129	瓦器 小皿	1705-OS	口径 (8.2) 器高 (11.6)	1.0mm大の赤褐色 砂粒を含む	中	外 灰白色(10YR8/1) 褐灰色(10YR4/1) 断 灰白色(10YR8/1) 内 にぶい黄褐色(10YR6/3)	
880	281	129	瓦器 小皿	1705-OS	口径 9.9 器高 2.1	2.0mm大の黒・灰 色砂粒を含む	中	外 明黄褐色(10YR7/6) 内 褐灰色(10YR5/1)	
881	281		瓦器 小皿	1705-OS	口径 9.6 器高 12.4	1.0mm以下の白色 砂粒、4.0mm大の 茶色小石粒を含む	中	外 暗灰色(N3) 断 黒色(2.5GY2/1) 内 灰白色(7.5Y7/1)	・内面ヘラミガキ調整
882	281	129	土師器 皿	1705-OS	口径 (9.0) 器高 1.5	1.0mm以下の赤褐 色砂粒を含む	中	外 浅黄褐色(10YR8/3) 断 浅黄褐色(10YR8/3) 内 浅黄褐色(10YR8/3)	
883	281		土師器 皿	1705-OS	口径 (9.7) 器高 (1.5)	1.0mm大の赤褐・ 黒色砂粒を含む	中	外 淡黄色(2.5Y8/3) 断 淡黄色(2.5Y8/3) 内 淡黄色(2.5Y8/3)	
884	281	129	土師器 皿	1705-OS	口径 (18.0) 器高 3.0	2.0mm以下の灰色 砂粒を含む	中	外 にぶい黄褐色(10YR7/3) 断 にぶい黄褐色(10YR7/3) 内 にぶい黄褐色(10YR7/3)	
885	281	129	須恵器系 鉢	1705-OS	器高 (3.6)	1.0mm大の白・黒 色砂粒を含む	軟	外 暗灰色(N3) 灰白色(5Y7/1) 断 灰白色(5Y7/1) 内 灰色(5Y6/1)	・ロクロ回転方向不明

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	遺物の種類 ・器種	出土遺物 ・層位	法 量 (cm, g)	胎 土	焼成	色 調	手法の特徴
886	281	129	須恵器系 甕	1705-OS	口径 (19.0) 器高 (14.2)	1.0mm以下の砂粒 を含む	軟	外 灰色(N6/) 断 灰白色(N7/) 内 灰色(N6/)	・ロクロ回転方向不明 ・体部外面平行タタキ (3本/cm)
887	281	129	土師器系 羽釜	1705-OS	口径 (30.8) 器高 (13.0)	4.0mm以下の白・ 黒色砂粒を含む	中	外 浅黄橙色(10YR8/4) 断 浅黄橙色(10YR8/4) 内 灰白色(10YR8/2)	
888	282		瓦器 椀	1731-OS	器高 (1.0)	1.0mm大の灰色砂 粒を含む	中	外 黒色(2.5Y2/1) 断 灰白色(2.5Y7/1) 内 黒色(2.5Y2/1)	・内面ヘラミガキ調整
889	282		瓦器 小皿	1731-OS	口径 (9.8) 器高 (2.5)	2.0mm大の黒色砂 粒を含む	中	外 黒色(N2) 断 灰白色(7.5Y8/2) 内 オリーブ黒色(7.5Y3/1)	
890	282		瓦器 椀	1731-OS	口径 (16.0) 器高 (4.4)	1.0mm大の白色砂 粒を含む	中	外 暗灰色(N3) 断 灰白色(7.5Y8/2) 内 黒色(N2)	
891	282	129	熙寧元宝	1731-OS	径 2.4 重 1.830				
892	283	129	瓦器 小皿	1730-OS	口径 (10.2) 器高 2.5	4.0mm大の茶色小 石粒を含む	中	外 褐灰色(10YR4/1) 内 灰色(N4)	・内面ヘラミガキ調整
893	283		土師器系 小皿	1730-OS	口径 (8.6) 器高 1.7	3.0mm以下の褐色 砂粒を含む	中	外 にぶい橙色(7.5YR7/4) 断 にぶい橙色(7.5YR7/4) 内 にぶい橙色(7.5YR7/4)	
894	284		瓦器 小皿	1058-OS	口径 (10.0) 器高 (1.7)	1.0mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 暗灰色(N3) 断 灰白色(N8) 内 暗灰色(N3)	・内面ヘラミガキ調整
895	284		瓦器 椀	1058-OS	口径 (14.8) 器高 4.9	0.5mm以下の白色 砂粒を含む	中	外 灰色(N4) 断 灰白色(N8) 内 灰色(N4)	・内面ヘラミガキ調整
896	284		土師質 羽釜	1058-OS	口径 (24.0) 器高 (10.4)	2.0mm以下の黒・ 白色砂粒、角閃石・ クサリ礫を含む	中	外 にぶい赤褐色(5YR5/3) 断 褐色(5YR6/6) 内 灰白色(10YR8/2)	
897	284	129	土師質 羽釜	1058-OS	口径 (26.4) 器高 (16.7)	3.0mm以下の灰褐 色砂粒を含む	硬	外 にぶい黄褐色(10YR5/3) 断 灰黄褐色(10YR6/2) 内 灰黄褐色(10YR6/2)	・体部内面ナデ調整 ・体部外面ヘラケズリ調整
1000		90	平瓦	497-OW	厚さ 2.0	1.0~5.0mm大の灰・ 白色砂粒を多く含 む	硬	凸 黒色(10YR1.7/1) 断 灰白色(10YR7/1) 凹 黒色(10YR1.7/1)	・凹面布目(9~10本/cm) ・凸面縄目タタキ(3本/cm) 模骨幅(2.5cm)
1001		90	埴	1681-OS	厚さ 4.5	クサリ礫を含む	中	外 浅黄色(2.5Y7/3) 断 灰白色(2.5Y7/1)	
1002		104	弥生土器 水差し形 土器	1390-OS		1.0mm以下の砂粒 を含む	軟	外 にぶい黄褐色(10YR7/4) 断 灰黄褐色(10YR6/2) 内 にぶい黄褐色(10YR6/3)	
1003		103	弥生土器 甕	2461-OD	器高 (3.8) 底径 (8.0)	3.0mm以下の砂粒 を多く含む	中	外 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 断 灰色(2.5Y7/2) 内 黄灰色(2.5Y5/1)	・外面ヘラケズリ調整

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第71輯

池田寺遺跡Ⅳ

近畿自動車道松原海南線・都市計画道路泉州山手線・
和泉中央丘陵新住宅市街地開発事業に伴う発掘調査報告書

1991年11月30日

編集・発行 財団法人 大阪府埋蔵文化財協会
大阪府中央区谷町2丁目2番20号 大手前ウサミビル

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所



付図 池田寺遺跡 (3)・(5) 全体図

